

ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）指定

「サステイナブルスクール」 3年間の取組と成果（報告書）

H28～29 ESD 重点校形成事業

H30 ESDの深化による地域のSDGs推進事業



平成 30 年 12 月 8 日

(広島県)福山市立福山中・高等学校



〒720-0843 広島県福山市赤坂町赤坂910番地
TEL (084) 951-5978 FAX (084) 951-6518

第1章 はじめに

巻頭言

サステナブルスクールとしての3年間の取組から

今後のユネスコスクールとしての展開へ

本校は、2004年（平成16年）に福山中学校を開校し、併設型中高一貫校として15年間の歩みを続けて参りました。中学校開校時に立てた学校教育目標「創造的な知性と豊かな心の調和的な発達を図り、国際社会に貢献できる人間を育成する」の元に、地域社会をリードする人材・グローバルな社会で活躍する人材を育成し、すぐれた教育実践を創造・発信する使命の元、教育活動を積み重ね、開校時に設定した数値目標をほぼ達成することができました。

平成26年12月、広島県教育委員会は、広島版「学びの变革」アクション・プランを発表しました。そして3年間の研究・試行を経て、平成30年度から全県全面展開をしています。「学びの变革」は、知識ベースの受動的な学びから、コンピテンシーの育成を目指した主体的・能動的な学びへと、学力観と授業観を变革することを示しており、本校においても、2015年度（平成27年度）から、授業づくり研究を推進し、現在も続けています。

また、福山市教育委員会においては、2016年（平成28年）1月に、『福山100NEN教育』宣言を出し、福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもたちを育てることを謳いました。カリキュラムに基づく「自ら考え学ぶ授業」そして市民一丸となった教育活動に、「ESD2観点」（人格の発達や人間性を育む観点、及び「関わり」「つながり」を尊重できる個人を育む観点）を持って取り組むことで、21世紀型スキルと倫理観を持った子どもたちを育てることを「福山100NEN教育」と宣言しました。

広島県及び福山市が示したこれからの教育の方向性に則り、本校として、併設型中高一貫校としてこれまで実践してきた教育内容を整理・構造化するとともに、「次代に求められる資質・能力」を育む教育内容の創造を研究・実践することが求められます。そこで、その方法を校内で議論した結果、ESD（持続可能な開発のための教育）の実施によって研究・推進することが、最もふさわしいとの結論に達し、ユネスコスクール申請、及び（財）ユネスコ・アジア文化センター「ESD重点校形成事業」（平成30年度は「ESDの深化による地域のSDGs推進事業」）サステナブルスクールに応募し、認定され、平成28年度～30年度の期間、研究推進してまいりました。今回、指定期間終了に伴い、3年間の取組と成果を「報告書」としてまとめました。

サステナブルスクールとして研究・実践を進めた結果、本校は平成30年7月27日付けで、ユネスコ本部からユネスコスクール加盟承認されました。平成30年3月31日告示された高等学校学習指導要領においては、第1章第1節1において、「一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出すことが期待される」と記述されており、「持続可能な社会の担い手」を育成する教育が重要視されています。

本校は、この3年間の研究を経て、来年度以降、ユネスコスクールとして研究・実践をさらに継続していくとともに、発信していく所存です。

本校の実践、特に地域課題解決プロジェクト・国際課題解決プロジェクトを進めるにあたり、福山市をはじめ、多くの校外関係者の御賛同・御協力を賜りました。特に、福山市企画政策課・産業振興課・市民相談課、福山市立大学、福山市自然研修センター「ふくやまふれ愛ランド」、有限責任監査法人トーマツ、福山商工会議所、協力くださった事業所等、地元地域の皆様の御協力により、生徒たちが「次代に求められる資質・能力」を身に付ける教育内容を展開することができています。また、本事業推進にあたり、ユネスコアジア文化センター（ACCU）教育協力部には大変お世話になりました。心よりお礼申し上げ、引き続き、御支援・御協力をお願いして、御挨拶といたします。



福山市立福山中・高等学校長
向井 勝也

目次

■第1章 はじめに

- (1) 巻頭言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) 目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

■第2章 事業概要（サステイナブルスクール）

- (1) 全体構想概念図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- (2) ホールスクールアプローチ・デザインシート（本校ESD取組一覧）・・・・・・・・ 4
- (3) サステイナブルスクール事業の概要・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- (4) サステイナブルスクール事業計画書（平成30年度）・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- (5) 研究実践に当たってのESD共通理解項目（ミニマム・エッセンシャルズ）・・・・・・・・ 10
- (6) カリキュラムマップ（全体計画・年間指導計画一覧表／6つの資質・能力とSDGs付き）・・ 11
- (7) 生徒に付けたい資質・能力ルーブリック（資質・能力／ESD3プロジェクト）・・・・・・・・ 12
- (8) サステイナブルスクール事業の成果と課題（ルーブリック／アンケート結果等）・・・・・・・・ 14

■第3章 事業報告（実践レポート）

I 地域課題解決プロジェクト

- (1) 福山のよさ再発見（中1，総合学習）・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
- (2) 誰もが暮らしやすい福山の街づくりプロジェクト（中1，総合学習）・・・・・・・・ 23
- (3) グローカル人材育成事業（高1，総合学習）・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
- (4) 夢チャレ「福山市立大学との高大連携事業」（高2）①「福山駅前再生計画」（平成29年度）・・・・ 27
- (4) 夢チャレ「福山市立大学との高大連携事業」（高2）②「郊外団地のまちづくり」（平成30年度）・・・・ 29

II 国際課題解決プロジェクト

- (1) 姉妹校との国際交流（希望者，課外活動）・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
 - ①（オーストラリア）ダウンランズ高校・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
 - ②（アメリカ）マウイ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
 - ③（韓国）ポハン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
 - ④（マレーシア）メガリア高校とのディスカッション（平成29年度）・・・・・・・・ 41
 - ⑤（マレーシア）メガリア高校と大学生とのディスカッション（平成30年度）・・・・ 43
- (2) 海外ボランティア活動（SYD，課外活動）・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
- (3) 模擬国連（ICC等有志，特別活動）・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
- (4) 全国高等学校観光選手権大会（観光甲子園，ICC有志）・・・・・・・・・・・・・・・・ 49

III 生き方・在り方探究プロジェクト

- (1) 自分発見学習（中1，総合学習）・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
- (2) 夢チャレ（高2，課外活動）・・・・・・・・・・・・・・・・ 53
- (3)（SDGsの観点を取り入れた）課題研究（高3，総合学習）・・・・・・・・・・・・・・・・ 57

IV 他校との実践交流（名古屋国際中：サステイナブルスクール認定校）・・・・・・・・ 61

■第4章 関係資料

- (1) サステイナブルスクール／ユネスコスクール認定証・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
- (2) 各取組の新聞掲載記事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64
- (3) ユネスコスクール申請資料（和文）・・・・・・・・・・・・・・・・ 77
- (4) ユネスコスクール申請資料（英文）・・・・・・・・・・・・・・・・ 81

■第2章 事業概要（サステイナブルスクール）

（1）全体構想概念図

中高一貫校 15 年目、来年度「創立 120 周年・福山市移管 50 周年」に向けて、福山中・高等学校は

**さらなる飛躍を目指して！
次代に求められる教育実践を推進します**

【背景】 生徒たちが歩むこれからの社会 20 年後の社会を生き抜くために、

求められる能力が大きく変化している

「主体性」「実行力」「発信力」

「課題を発見し、解決していく力」「学び続けられる人」の育成

大学入学者選抜制度改革
(2020 年～)

新学習指導要領
中学：2021 年から
高校：2022 年から

- 知識・技能
- 思考力・判断力・表現力
- 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

大学入試が変わり始めた

本校で教える内容・授業方法も変わる

【本校教育で育みたい資質・能力】 「3つの能力」と「3つの資質」

能力（スキル）			資質（気質・特性・情意）		
①情報整理力	②表現力	③課題解決力	④協働	⑤自他の尊重	⑥チャレンジ精神
◆課題解決や新しい価値を創造するために必要なデータを分析・整理することができる。	◆課題解決のために必要な基礎的な知識や技能を創造的・探究的に活用・表現することができる。	◆様々な場面で課題を発見し、最適解により近い解決方法を見つけることができる。	◆価値観の多様な他者と協働して、集団や社会に貢献し解決しようとしている。	◆個人的・社会的責任を重んじ、価値観の多様な他者を尊重するとともに自己肯定感を高めようとしている。	◆高い志を持ち、様々な場面で課題解決のために新しいことや困難なことに自ら挑戦している。

グローバルな社会・地域社会で活躍する資質・能力をもった生徒

【指定事業】

○ユネスコアジア文化センター

「ESD の深化による地域の SDGs 推進事業」サステイナブルスクール認定校（平成 28 年度～）

○福山市重点政策・ふくやま未来づくりビジョン 2018 「グローバル人材育成事業」（2017 年度～）

地域課題解決
プロジェクト

実地見聞を伴う体験的な学習を通して・地域を知り、課題解決に取り組む基礎力を養成します。

- ①ふるさと学習
- ②誰もが暮らしやすい福山の街づくり
- ③職場体験学習
- ④高校版「ふるさと学習」
- ⑤5 学年「夢チャレ」

国際課題解決
プロジェクト

調査・発表を行い、海外修学旅行や姉妹校との国際交流を行います。思考・解決・提案型の交流活動を行います。

- ①国際理解
- ②海外修学旅行
- ③姉妹校との国際交流
- ④模擬国連
- ⑤5 学年「夢チャレ」

生き方・在り方探究
プロジェクト

長所や魅力を見出し自尊心を高め、講演等での学びを活かしてライフプランを設定し、よりよい「生き方・在り方」を考えます。

- ①自分発見学習
- ②進路研究Ⅰ「キャリア学習」
- ③進路研究Ⅱ「ライフプラン」
- ④進路研究Ⅲ「課題研究」
- ⑤5 学年「夢チャレ」

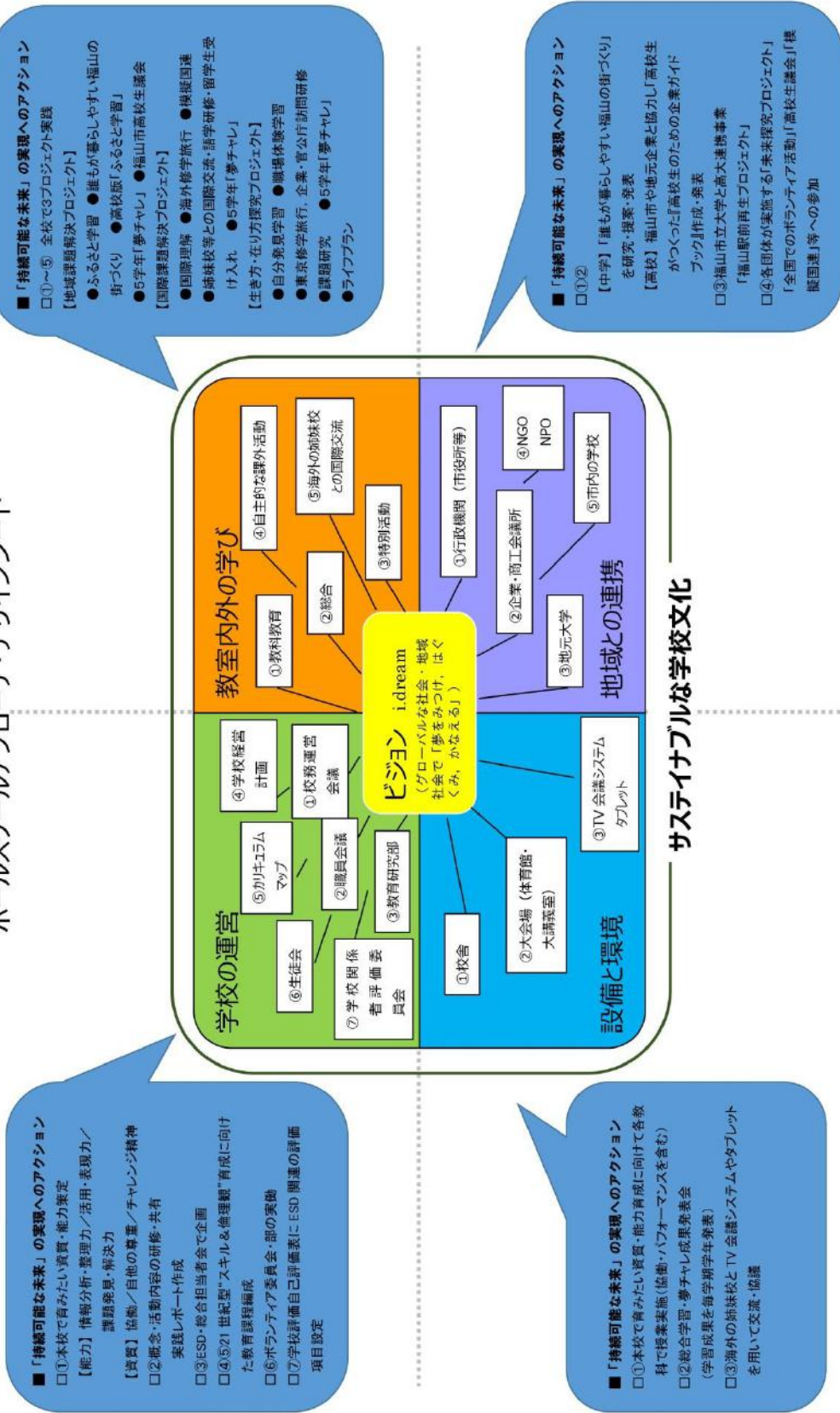
(2) ホールスクールアプローチ・デザインシート (本校 ESD 取組一覧)

ACCU 提出資料より (本校作成)

【学校名：福山市立福山中・高等学校 (広島県)】

平成 29 年度日本/ユネスコパートナーシップ事業 ESD 重点校形成事業へ向け！サステイナブルスクールへ

ホールスクールアプローチ・デザインシート



©ACCU 委託「平成 29 年度日本/ユネスコパートナーシップ事業 ESD 重点校形成事業」事業推進委員会



* (注)

以下の記述は、ACCU『これからのユネスコスクールを考えよう ひろがり つながり ふかまる ESD 推進拠点 Whole School Approach』のお二人の講演録 (p. 1~95) と岡山宣言からポイントをまとめたものです。

- アン・フィンレイソンさん (持続可能性と環境教育 SEEd 事務局長)
- 永田佳之先生 (聖心女子大学教授)
- ユネスコスクール岡山宣言 (2014 年 11 月に岡山大学で開催されたユネスコスクール全国大会で採択)

(1) ユネスコスクール岡山宣言のポイント (ESD 推進のためのユネスコスクール宣言, 2014 年 11 月採択)

- ① 持続可能な社会の構築や ESD 推進の観点から、学習指導要領や教育振興基本計画などに盛り込まれている。
- ② ESD のビジョンを取り入れると、学びと自己につながりが生まれる (地球, 自然, 他者, 未来...)。つながりの中で学びは深まり、心に宿り、持続可能な未来を創造する力となる。(行動と協働, 問い続け学び続ける力)
- ③ 各学校では、平和や環境などを入り口として、課題を体験的, 探究的に発見し解決するプロジェクトが開発。地域の特徴を生かした ESD を通じて、地域の良さや課題を知り、変革すべき事を考え行動に移すことを学ぶ。地域の課題は世界の課題とつながり、協働により持続可能な未来をつくれるという認識が共有されつつある。
- ④ 持続可能な未来のために、身近な地域に貢献するとともに、グローバルな視点に立って行動する次世代を育む。
- ⑤ 学びの入り口は何であれ、その先に世界の「平和」と「持続可能性」を見据える。
(多くの人と協働して、つながりを意識した教育を実践する。)
- ⑥ ESD の魅力を伝えるため、生徒の変容, 教師の変容, 学校・地域の変容を明確に示す。
- ⑦ 教師や生徒の主体的なアイデアを尊重し、創造的, 教科横断的, 探究的に学校全体で ESD を進める。

(2) ユネスコスクール・ESD とは何か？

- ユネスコスクールは、ユネスコの理念を実現する学校であり、世界に広がるネットワークである。
(英語名は ASPnet で、ユネスコスクールはそのネットワークに加盟している学校の日本での呼称。)
- ユネスコとは、国連教育科学文化機関のことで、「世界平和・安全保障」が目的である。そのために教育, 科学, 文化を通して英知を集め、国内外の連帯を促進して平和に寄与することを目的としている。
- ユネスコスクールは、「持続可能な開発のための教育 (ESD) の推進拠点」である。
- ユネスコスクールの質的向上のヒントは、生徒の変容, 教師の変容, 学校・地域の変容の明確化にある。

(3) ESD を達成するためになぜホールスクールアプローチが必要か？

- ① 変容的教育—新しいスキル, 新しい考え方 (ESD では 1 つの教科や活動でなく、持続可能な将来に向けスキルや強靭性をもち、変容しうる制度を構築し、イノベーションやウェルビーイング (幸福) をもたらす人づくり。)
- ② 学校全体で活動を継続 (一人のリーダー先生に依存するのではなく、学校全体が動いて取り組むもの。)
- ③ たくさんの活動から、全生徒向けの計画に順序あるカリキュラムへ (ホールスクールアプローチは、活動だけでなく、活動を計画し、論理的に研究し、カリキュラム, プロセス, 全体を通じて役立つものである。)
- ④ 持続可能性の全体像を見る一環境, 社会, 経済, 文化 (サステナビリティは規模の大きな概念であり、社会, 経済, 文化的側面の全てを網羅する。1 つか 2 つに対応すればいいのではなく、全てに対応する。)
- ⑤ 自分の行動—何が効果的かを研究し学ぶ (学校そのものが学ぶ組織になる必要あり。どう持続可能な形で生活や仕事をすべきかの教科書はまだ存在していない。OECD の PISA 調査では、自ら行動をとって研究し、学ぶ先生がいる学校の生徒のスタンダードはさらに高まる)。

(4) ホールスクールアプローチを実践している学校に見られる特徴は？ (どう見分けるか)

ホールスクールアプローチは、学校全体で活用される枠組みであり、校長室に掲げてあるものではない。

- ① 全教室・どの科目でも ESD の教育アプローチが取られている。
- ② 全学年のカリキュラムに、持続可能性の前進が見て取れる。
- ③ 学校のビジョンや使命感にフレームワーク・コアな概念が学校を構成するすべての要素に見て取れる。(イギリスなら自分, 他者, 環境に対する「ケア」(気遣い) 例) シリアやアフリカの見知らぬ他者に対しても。)
- ④ 生徒が学校の ESD 活動について説明できる。
- ⑤ 生徒が地域や学校の活動に参加している (「問い」から始まるやり方で挑むのが一番うまくいく)。

【永田先生コメント】

- *ホールスクールアプローチは、ESDに関するグローバル・アクション・プログラムの5つの「優先行動領域」の1つであり、どの国でもなかなか定着しなかった世界的な課題であり、重要なチャレンジである。
- *学校全体計画や年間計画があるからホールスクールアプローチではない。学校の方針や授業の方法、内容、教材、校舎の素材、校庭、食べ物、交通手段など、あらゆる側面を変容させる。教科を超えてESDに挑む、地域でプロジェクトを超えてESDに取り組む、「どこを切ってもESD」「学校・地域丸ごとESD」と言える状態。
- *教師もESDを語り、サステナビリティを学び続けて実践する。一人一人が自己変容、社会変容を考える。

(5) ESDをどう評価するか？

- 成果物を評価することが大切（計画、やり方、実践）。
- 単に良い気分では事足りない。自分たちがよくやったと思っても、それだけでは評価とは言えない。
- どのような変革を自分がもたらしたか、現在持続可能ではない形で生活している現状から、どうすれば将来、持続可能な形で暮らせるようになるのか、研究を成果物にまとめる。

(6) 持続可能な学校の5つの「効果」とは？

- ①「学校の改善」（若者の学習や福祉の向上）
- ②若者の学習体験を「結びつける」（全ての教科も人間や環境のシステムの中で理解する）
- ③若者の「参加」を促す（学校だけでなく自らの人生に参加）
- ④学校の活動、考え方、計画に「貢献する」
- ⑤持続可能な行動・考え方・計画の模範・モデルをつくる（完璧な学校はない、持続可能のために学ぶ場）

(7) 学校を「ホールスクールアプローチ化」するポイント

- ①どこからでも始められる（トピックのドア・入り口は様々。3つか、5つか、またはSDGsの17かもしれない。）
- ②すでに実施していることを確認する
- ③ホールスクールアプローチを発展させる
- ④各生徒の持続可能体験のための計画を立てる
- ⑤計り、計り続ける
- ⑥つながり（学びと社会をどうつなげるか）、「もしも・・・だったらどうなるか」（明るい社会ならどうか）
- ⑦生徒が完全に参加するよう促す
- ⑧ESDをビジュアル化して共有しよう（保護者や地域社会と）
- ⑨変化を理解し、見守る
- ⑩先生をサポートする

(3) サステイナブルスクール事業の概要

1 本校について

(1) 沿革・ESDの推進

- 明治32年創立（来年120周年）、平成16年福山中学校併設、併設型中高一貫教育校（15年目）
- 平成28年サステイナブル・スクール（全国24校の1校）・平成30年ユネスコ・スクール認定

(2) 学校教育目標

- 「創造的な知性と豊かな心の調和的な発達を図り、国際社会に貢献できる人間を育成する」

(3) 生徒規模

- 中学校：40人×3クラス（120人） ○高等学校：約30人×6クラス（約200人）

(4) 第IV期ビジョン（2018年度（平成30年度）～2020年度）

- ①中高の系統的な学習活動を通して、キャリア形成に向け、主体的に歩む生徒を育てる。
- ②中高の学校生活の中で共に成長する経験を通して、自他を尊重し、他者と協働できる生徒を育てる。
- ③国際理解・地域課題について探究し、持続可能な社会の担い手となる生徒を育てる。

(5) 本校教育の特色：グローバルな社会・地域社会で活躍する資質・生徒の育成

- 「国際交流」（オーストラリア、韓国等）と「ESD」を中心に「地域や国際課題解決」等に取り組む。

2 ESDの推進・目標

(1) ねらい

総合的な学習の時間を中心に他教科や特別活動と関連づけながら3つのプロジェクトを通して（①「地域課題解決プロジェクト」、②「国際課題解決プロジェクト」、③「生き方・在り方探究プロジェクト」）、グローバルな社会・地域社会で活躍する資質・能力をもった生徒を育成する。

(2) 本校で育みたい6つの資質・能力（6観点目を含むカリキュラムマップを作成し全教科で推進）。

能力（スキル）			資質（気質・特性・情意）		
知識・技能 / 思考力・判断力・表現力等			学びに向かう力、人間性等		
①情報整理力	②表現力	③課題解決力	④協働	⑤自他の尊重	⑥チャレンジ精神
課題解決や新しい価値を創造するために必要なデータや情報を分析・整理することができる。	課題解決のために必要な基礎的な知識や技能を創造的・探究的に活用・表現することができる。	様々な場面で課題を発見し、最適解により近い解決方法を見つることができる。	価値観の多様な他者と協働して、集団や社会に貢献し解決しようとしている。	個人的・社会的責任を重んじ、価値観の多様な他者を尊重するとともに自己肯定感を高めようとしている。	高い志を持ち、様々な場面で課題解決のために新しいことや困難なことに自ら挑戦している。

(3) ルーブリック作成

- 本校で育みたい資質・能力をルーブリック（5段階）にして、全学年で年に3度測定する。

(4) 実践の積み上げ（毎年度の実践は実践集として「使える形」で集約）

- 1年目（平成28年度） ESDカレンダーの作成、目指す資質・能力の整理、3プロジェクトの行動計画
- 2年目（平成29年度） サステイナブルスクール2年目の研究紀要作成、公開研究会
- 3年目（平成30年度） SDGs（持続可能な開発目標）を意識した全教科実践集（平成30年度末完成予定）サステイナブルスクール3年間の取組と成果（まとめ）作成

3 本校 ESD3 主要プロジェクトの主な取組

(1) 地域課題解決プロジェクト

実地見聞を伴う体験的な学習を通して、地域を知り、課題解決に取り組む力を育成する。

- ① 1 学年「ふるさと学習」(地元福山について歴史や資源等について理解を深める)
- ② 1 学年「誰もが暮らしやすい福山の街づくり」(出身地域の長所と課題を冊子化する)
- ③ 4 学年「グローバル人材育成事業」(福山市の企業を研究し、冊子「Hi-Hi ふくやま」を発行する)
- ④ 5 学年「夢チャレ」(各自が夢の実現に資する活動に挑戦し、学びをまとめ発表する)
- ⑤ 5 学年「福山高校×福山市立大学 高大連携事業」(大学生と協働しまちづくりについて調査・研究・提案する)

(2) 国際課題解決プロジェクト

海外修学旅行先や姉妹校と国際交流・調査・発表を行う。思考・解決・提案型の交流活動を行う。

- ① 3 学年, 5 学年「国際理解」(各自がテーマを設定し、調査結果を発表する)
- ② 5 学年「海外修学旅行」(マレーシアの高校生と地球環境問題 SDGs について発表・討論する)
- ③ ICC「模擬国連」(部活を中心に模擬国連に取組み、研修会・全国大会に出場)
- ④ 姉妹校等との「国際交流・語学研修・留学生受け入れ」(韓国, オーストラリア, マウイ)
- ⑤ 5 学年「夢チャレ」(夢の実現に向けた活動に挑戦し、学びを発表する, フィリピン支援, 観光甲子園等)

(3) 生き方・在り方探究プロジェクト

自他の長所や魅力を発見し自尊心を高め、ライフプランを設定し、よりよい「生き方・在り方」を考える。

- ① 1 学年「自分発見学習」(小学校の活動〔賞状, 認定書等〕から自身の魅力を発見する)
- ② 2 学年「職場体験学習」(マナー学習を行ったうえで 5 日間で体験を行う)
- ③ 3 学年「東京修学旅行, 企業・官公庁訪問研修」(研修テーマを設け生徒が運営する)
- ④ 4 学年「ライフプラン」(講演会やインタビューを通して夢や目標を設定する)
- ⑤ 5 学年「夢チャレ」(各自が夢の実現に資する活動に挑戦し、学びをまとめ発表する)
- ⑥ 6 学年「課題研究」(進路に関連した課題を SDGs に基づいて設定し、調査・研究を行い発表する)

4 主な変容と今後の課題(学校・教員・生徒) *詳細は p.15~参照

(1) 学校の変容

- ①「開校以来積み上げてきた実践を、ESD の観点で整理し構造化する」ことと、「本校で育みたい資質・能力を明確化し、教育内容を 6 観点で整理する」ことができた。
- ② 今後は、カリキュラムマップの質を「本当に使える」、「見てわかる」ものにさらに精度を高める。
- ③ ルーブリック評価の追跡を長期的に行い、本校で育みたい資質・能力を身に着ける教育内容にする。

(2) 教員の変容

- ① 研修等を通じて、各教員に ESD の考えが浸透。過去の取組の多くが ESD の方向性にあることを認識。
- ② 各教科の中で SDGs に関連した取組を実施する(平成 30 年の研究テーマ)。

(3) 生徒の変容

- ① 校長のリーダーシップ(講話等を含む)や諸活動を通して、主体的な活動に取り組み始めている。
(観光甲子園最優秀賞, 全日本高校模擬国連大会 4 年連続 5 度目の出場, フィリピン国際ボランティア参加など)
- ② 資質・能力評価ルーブリック(5 段階)を分析すると、次のような成果が見られる。
 - 資質・能力は、第 1 回(春)から第 2 回(秋)でどの学年も上昇(生徒が自己の成長を実感)。
 - 資質・能力の「学校平均」は、第 1 回(春)は 5 段階中 2.0, 第 2 回(秋)は 2.3(平均 0.3 上昇)。
 - 資質・能力の伸びは、2 年間実施した学年では 0.8 上昇, 1 年間では 0.5 上昇(長い方が伸びる)。
- ③ 今後は、教員・生徒とルーブリックの内容や意義をさらに共有し、全方面での主体的な実践を促す。

福山中・高等学校
イメージキャラクター
いちかちゃん(生徒作成)



(4) サステナブルスクール事業計画書 (平成30年度)

【平成30年度事業計画書】ACCU (平成30年5月10日提出)

ESDの深化による地域のSDGs推進事業 平成30年度事業計画書

学校情報			
学校名	福山市立福山中・高等学校		印
校長名	向井 勝也		
担当者名	上山 晋平	役職	総合・ESD担当主事
電話	084-951-5978	FAX	084-951-6518
E-mail	kou-ichifuku-t11@edu.city.fukuyama.hiroshima.jp		

1. 計画の概要とねらい

総合的な学習の時間を中心に教科や特別活動と関連づけながら、(1)「地域課題解決プロジェクト」、(2)「国際課題解決プロジェクト」および(3)「生き方・在り方探究プロジェクト」の3つのプロジェクトを実施し、身近な地域社会の持続可能性の向上に取り組むとともに、地球的諸課題の解決を図ることで、個人としての生き方・在り方を含めた資質・能力の向上に取り組む。

2. 年間スケジュール

	活動内容 (対象者(学年・人数等), 教科等の情報含む)	備考
4月	自分発見学習(中1, 120名) 総合	自分の長所や魅力の発見
5月	国際理解(中3, 120名) 総合	国調査とポスターセッション
6月	SDGsを含めた課題研究(高3, 200名) 総合	地元企業ガイドブック作成
7月	ふるさと学習(中1, 120名) 総合	福山の歴史や資源学習
8月	職場体験学習(中2, 120名) 総合	体験を踏まえレポート作成
9月	進路探究(高3, 200名) 総合	進路や学問分野で調査研究
10月	海外修学旅行(高2, 200名) 総合	研究レポートを現地検証
11月	誰もが暮らしやすい街づくり(中1, 120名)	地域の長所と問題解決策提案
12月	グローバル人材育成事業(高1, 200名) SDGs教科実践レポート作成(全教職員)	福山市の企業を研究し冊子化 授業実践集作成
1月	「夢チャレ」発表会(高2, 200名)	学校外課題活動の成果発表会
2月	サステナブルスクール発表会	SDGsの取組発表会(教科も)

上記の授業としての活動に加え、年間を通じて以下のような課外活動を随時行う。

- 「国際交流」(姉妹校への語学研修, 協議, ホームステイや学校訪問の受け入れ)
- 「夢チャレ」(高2が各自の夢の実現に関する活動に挑戦し, レポートをまとめ発表)

3. 協力者, 協力機関(名前, 連絡先)

- 福山市役所(企画政策課・産業振興課・青少年課・市民相談課), 市民参画センター
- 福山市立大学 都市経営学部
- 福山商工会議所, 福山青年会議所, みつぎ総合病院, 中国銀行, 他地域の18社

4. その他コメント, 追記事項

上記3つのプロジェクトによって、「持続可能な社会の担い手」として生徒に付けさせたいと本校が考えている資質・能力は、以下の6つである。

- (能力面) 情報整理力 / 表現力 / 課題解決力
- (資質面) 協働 / 自他の尊重 / チャレンジ精神

(5) 研究実践に当たっての ESD 共通理解項目 (ミニマム・エッセンシャルズ)

年度当初校内研修資料より

(1) ESD とは「持続発展教育」のこと

- Education for Sustainable Development の略 (「持続可能な開発のための教育」)
- この言葉の普及促進のために、日本ユネスコ国内委員会はより簡単な「持続発展教育」を使用

(2) 「持続可能な開発のための教育」とは？

- 将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく
- 現在の世代のニーズを満たすような社会づくり

(出典)「持続可能な開発のための教育 (ESD)」『平成 27 年度広島県教育資料』p. 233

* (要するに) 現在の「経済発展」と将来の「環境保全」をどう両立させるか

(3) ESD を説明すると (概念整理に役立つ)

現代の世界には、貧困、人権、平和といった様々な問題があり、これらを自らの問題として捉え、身近なところから取り組む (think globally, act locally) ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動が「持続可能な開発のための教育」である。ESD は持続可能な社会づくりの担い手を育む教育である。

(4) ESD の基本的な考え方は？

(出典) 同上

- ① ESD は、持続可能な社会づくりのための担い手づくりである。実施には、特に次の 2 つの観点が必要となる。
 - 人格の発達や、自立心、判断力、責任感などの人間性を育むこと。
 - 他人との関係性、社会との関係性、事前環境との関係性を認識し、「関わり」、「つながり」を尊重できる個人を育むこと。
- ② 環境教育、国際理解教育等の持続可能な発展に関わる諸問題に対応する個別の分野の取組にとどまらず、環境、経済、社会の各側面から学際的かつ総合的に扱うことが重要である。

(出典)『ユネスコ・スクールと持続発展教育 (ESD) について』(日本ユネスコ国内委員会、2008 年 6 月)

* ①「ESD 2 観点」は、福山 100NEN 教育でも「すべての教育課程に位置づける重要な役割」とされている。

(5) ESD 実践のポイント

- ① 何か新しい取り組みを始めるものではない。
- ② これまでの取り組みを ESD の観点から見直して、
- ③ 各取り組みに共通した「持続社会の構築」という共通目的を与えるもの

(6) 本校の研究テーマ

- ① ユネスコ・スクールの研究テーマ 4 つ：
 - 地球規模の問題に対する国連システムの理解
 - 人権、民主主義の理解と促進
 - 国際理解教育
 - 環境教育
- ② 本校 ESD は、各学年の取組を次の 3 つのプロジェクトで整理している。
 - 地域課題解決プロジェクト
 - 国際課題解決プロジェクト
 - 生き方在り方探究プロジェクト

(7) ESD の実践とレポートについて

- ① 年間指導計画に基づき、教育研究部 (学年) が、実践及び実践記録の担当者を確定する。
- ③ 担当者は、ESD に該当する実践を終了後すぐにレポートを作成する (1 枚、様式は例を参照のこと)。
- ④ 11 月 14 日の公開研究会や各種 ESD 発表会などでの発表の事例集として活用する。(次年度の参考とする。)

(8) ESD サステイナブルスクール 3 年間の流れ

- ① 2016 年度 (平成 28 年度) : 1 年目
実践を ESD カレンダーに整理し、各活動が育む「資質・能力」を整理する。3 プロジェクトの展開計画を立てる。海外の学校と相互に思考・探究する場を創る。次年度に始める「高校版ふるさと学習」の計画策定をする。
- ② 2017 年度 (平成 29 年度) : 2 年目
新規プログラムを試行・評価し、30 年度以降のシラバス及び評価計画を作成する。公開研究会で指導助言を受ける。
- ③ 2018 年度 (平成 30 年度) : 3 年目
新シラバスで実践を行う。中学校 1 年・高等学校 1 年は新シラバスで、他学年は移行できるものから実践する。

(6) カリキュラムマップ (全体計画・年間指導計画一覧表 / 6つの資質・能力と SDGs 付き)

■中3のカリキュラムマップ (全体計画・年間指導計画一覧表) * 6つの資質・能力と関連 SDGs シール付き (教科会で貼付)

カリキュラムマップ (全体計画・年間指導計画一覧表)		校章【31】		福山		中学校		第【3】学年		
学期	学年	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	
各教科等 国語 社会 数学 理科 理科 音楽 美術 体育 保健 技術 家庭 外国 英語 総合 特別活動 学校行事 その他	各教科等	41 自主的・主体的に学習する力	5 読者の立場から文章を読み、内容を理解する力	5 読者の立場から文章を読み、内容を理解する力	5 読者の立場から文章を読み、内容を理解する力	5 読者の立場から文章を読み、内容を理解する力	5 読者の立場から文章を読み、内容を理解する力	5 読者の立場から文章を読み、内容を理解する力	5 読者の立場から文章を読み、内容を理解する力	
	国語	41 自主的・主体的に学習する力	5 読者の立場から文章を読み、内容を理解する力	5 読者の立場から文章を読み、内容を理解する力	5 読者の立場から文章を読み、内容を理解する力	5 読者の立場から文章を読み、内容を理解する力	5 読者の立場から文章を読み、内容を理解する力	5 読者の立場から文章を読み、内容を理解する力	5 読者の立場から文章を読み、内容を理解する力	5 読者の立場から文章を読み、内容を理解する力
	社会	42 主体的に学習する力	6 主体的に学習する力	6 主体的に学習する力	6 主体的に学習する力	6 主体的に学習する力	6 主体的に学習する力	6 主体的に学習する力	6 主体的に学習する力	6 主体的に学習する力
	数学	43 主体的に学習する力	7 主体的に学習する力	7 主体的に学習する力	7 主体的に学習する力	7 主体的に学習する力	7 主体的に学習する力	7 主体的に学習する力	7 主体的に学習する力	7 主体的に学習する力
	理科	44 主体的に学習する力	8 主体的に学習する力	8 主体的に学習する力	8 主体的に学習する力	8 主体的に学習する力	8 主体的に学習する力	8 主体的に学習する力	8 主体的に学習する力	8 主体的に学習する力
	理科	45 主体的に学習する力	9 主体的に学習する力	9 主体的に学習する力	9 主体的に学習する力	9 主体的に学習する力	9 主体的に学習する力	9 主体的に学習する力	9 主体的に学習する力	9 主体的に学習する力
	音楽	46 主体的に学習する力	10 主体的に学習する力	10 主体的に学習する力	10 主体的に学習する力	10 主体的に学習する力	10 主体的に学習する力	10 主体的に学習する力	10 主体的に学習する力	10 主体的に学習する力
	美術	47 主体的に学習する力	11 主体的に学習する力	11 主体的に学習する力	11 主体的に学習する力	11 主体的に学習する力	11 主体的に学習する力	11 主体的に学習する力	11 主体的に学習する力	11 主体的に学習する力
	体育	48 主体的に学習する力	12 主体的に学習する力	12 主体的に学習する力	12 主体的に学習する力	12 主体的に学習する力	12 主体的に学習する力	12 主体的に学習する力	12 主体的に学習する力	12 主体的に学習する力
	保健	49 主体的に学習する力	13 主体的に学習する力	13 主体的に学習する力	13 主体的に学習する力	13 主体的に学習する力	13 主体的に学習する力	13 主体的に学習する力	13 主体的に学習する力	13 主体的に学習する力
	技術	50 主体的に学習する力	14 主体的に学習する力	14 主体的に学習する力	14 主体的に学習する力	14 主体的に学習する力	14 主体的に学習する力	14 主体的に学習する力	14 主体的に学習する力	14 主体的に学習する力
	家庭	51 主体的に学習する力	15 主体的に学習する力	15 主体的に学習する力	15 主体的に学習する力	15 主体的に学習する力	15 主体的に学習する力	15 主体的に学習する力	15 主体的に学習する力	15 主体的に学習する力
	外国	52 主体的に学習する力	16 主体的に学習する力	16 主体的に学習する力	16 主体的に学習する力	16 主体的に学習する力	16 主体的に学習する力	16 主体的に学習する力	16 主体的に学習する力	16 主体的に学習する力
	英語	53 主体的に学習する力	17 主体的に学習する力	17 主体的に学習する力	17 主体的に学習する力	17 主体的に学習する力	17 主体的に学習する力	17 主体的に学習する力	17 主体的に学習する力	17 主体的に学習する力
	総合	54 主体的に学習する力	18 主体的に学習する力	18 主体的に学習する力	18 主体的に学習する力	18 主体的に学習する力	18 主体的に学習する力	18 主体的に学習する力	18 主体的に学習する力	18 主体的に学習する力
	特別活動	55 主体的に学習する力	19 主体的に学習する力	19 主体的に学習する力	19 主体的に学習する力	19 主体的に学習する力	19 主体的に学習する力	19 主体的に学習する力	19 主体的に学習する力	19 主体的に学習する力
	学校行事	56 主体的に学習する力	20 主体的に学習する力	20 主体的に学習する力	20 主体的に学習する力	20 主体的に学習する力	20 主体的に学習する力	20 主体的に学習する力	20 主体的に学習する力	20 主体的に学習する力
その他	57 主体的に学習する力	21 主体的に学習する力	21 主体的に学習する力	21 主体的に学習する力	21 主体的に学習する力	21 主体的に学習する力	21 主体的に学習する力	21 主体的に学習する力	21 主体的に学習する力	

(7) 生徒に付けたい資質・能力ループリック(2種)

①「福山中高で育みたい資質・能力」ループリック(高校版) * 中学版は「資質・能力説明」部分が異なる。



「福山中・高等学校で育みたい資質・能力」ループリック(目標達成度の評価表)

このシートは3年間使います

(1) 表中の①～⑥は、皆さんが「21世紀の社会で活躍する」ために、学校内外の授業や活動を通して特に身につけてほしいと考えている資質・能力です。①～⑥の各項目(3つの能力と3つの資質)について、レベルごとの説明文を参考に、あなたが現在到達していると考えられるレベルの□に大きな✓をつけてください。その後、下記の「レベル記入欄」にそれぞれのレベルを数字で書き込んでください。(どれにも当てはまらないと思う場合は「1」をマークしてください) * 案に用語の説明があります。

能力(スキル)	【能力(スキル)】		【資質(気質・特性・情意・態度)】	
	①情報整理力	②表現力	③課題解決力	④協働
能力と3つの資質	◆課題解決や新しい価値を創造するために必要な基礎的な知識や技能を創造的・探求的に活用・表現することができる。	◆課題解決のために必要な基礎的な知識や技能を創造的・探求的に活用・表現することができる。	◆様々な場面で課題を発見し、最速期により近い解決方法を見つけることができる。	◆価値観の多様な他者と協働し、集団や社会に貢献し解決しようとしている。
レベル1	□テーマに関して与えられたデータや情報をおおむね理解できる。	□自分が学んだことを(原稿などを)読んで伝えることができる。	□自分の生活や社会などについて考えることができる。	□自分自身は考えている。
レベル2	□テーマに関して与えられたデータや情報の要点を正確に理解し、人に説明することができる。	□与えられた情報に加えて、テーマに関連するデータや情報をおおむね整理し、その特徴を理解できる。	□自己の生活や社会などについて、改善したい点(進めたいこと)が1つ以上ある。	□人からの指示を待たずに、他者に迷惑をかけることなく、チームメンバーに助けを求め、かつ支障を及ぼしていない。
レベル3	□与えられた情報に加えて、テーマに関連するデータや情報をおおむね整理し、その特徴を理解できる。	□複数の意見・アイデア・計画を合わせて、より良いものを作ることが出来る。それを相手に分かりやすい方法で伝えることができる。	□地域や国際社会について自ら課題を自ら調査・探求している。	□地域やグローバル社会の一員として、個人的・社会的責任を重んじ、他者を尊重している。
レベル4	□課題解決や新しい価値を創造するために必要な基礎的な知識や技能を創造的・探求的に活用・表現することができる。	□課題解決や新しい価値を創造するために必要な基礎的な知識や技能を創造的・探求的に活用・表現することができる。	□課題解決に向けて計画を示した上で、他者の考えを肯定的に受け入れたりしている。対話を通して新しい考えを蓄積し広げている。	□志を持ち、課題解決のために自ら新しいことや困難なことに挑戦している。
レベル5	□課題解決や新しい価値を創造するために必要な基礎的な知識や技能を創造的・探求的に活用・表現することができる。	□課題解決や新しい価値を創造するために必要な基礎的な知識や技能を創造的・探求的に活用・表現することができる。	□課題解決に向けて計画を示した上で、他者の考えを肯定的に受け入れたりしている。対話を通して新しい考えを蓄積し広げている。	□理想を追求し高い志を持ち、様々な場面で課題解決のために新しいことや困難なことに自ら挑戦している。

(2) 評価レベル「4」「5」を選んだ人は、その項目の能力や価値を特に伸ばしたと考えられる活動や場面を(2)項目欄に「具体的に」記述してください(5W1Hをできるだけ含めて)。
 (例) ●教科や総合学習(活動や取組) ●校内外の自主研究・活動(ボランティア等) ●行事(文化祭・体育祭・修学祭等) ●生徒会活動 ●部活動 ●定期テストやパフォーマンステスト ●資格・試験 ●留学 他

【参考】 * 本ループリック作成に当たっては以下を参考にさせていただきました。
 ●岡山県立倉敷南高等学校「21世紀型能力」ループリック
 ●三宅なほみ(監訳)ほか(2014)『21世紀型スキル: 学びと評価の新たなかたち』(北大路書房)



このシートは3年間使います

「福山中・高等学校 ESD3プロジェクト」ルーブリック（目標達成度の評価表）

(1) 福山中・高等学校では、H26年から「持続可能な未来を育む」教育（ESD）を進めています（全国24校のサステイナブルスクール認定校の1校）。具体的には、総合的な学習の時間を中心にして、以下のよう3つのプロジェクト（①地域課題解決プロジェクト、②国際課題解決プロジェクト、および③生き方・在り方探究プロジェクト）を実施し、皆さんの地域社会や地球的課題の解決を図りつつ、皆さん個人としての生き方・在り方の向上に「資質・能力の向上」に取り組むものです。

(2) 以下の①～③の各項目について、レベルごとの説明文を参考に、あなたが現在到達していると考えられるレベルの□に大きな✓をつけてください。

(3) その後、下記の「レベル記入欄」にそれぞれレベルを数字で書き込んでください。（どれにも当てはまらないと思う場合は「1」をマークしてください。）

(4) 評価レベル「4」「5」を選んだ人は、その項目の能力や価値を特に伸ばしたと考えられる活動や場面を「(2)項目」欄に「具体的に」記述してください（5W1Hをできるだけ含めて）。

3プロジェクト	①地域課題解決（力）	②国際課題解決（力）	③生き方・在り方探究（力）
プロジェクトの概要説明	◆実地見聞を伴う体験的な学習を通して、地域を知り、各種の課題を解決する力を伸ばす。 □「地域」の良さや課題を見つづけることができる。	◆調査・発表を行い、海外修学旅行先や姉妹校と国際交流を行う。思考・解決・提案型の交流活動を行い、国際課題を解決する力を伸ばす。 □「日本と外国」に関する良さや課題を見つづけることができる。	◆自分の長所や魅力を見出し自尊心を高め、各種講演や活動等からの学びを活かして自分のライフプランを設定し、よりよい「生き方・在り方」を考える。 □「自分」の長所や課題を見つづけることができる。
レベル1（見つける）	□「地域」の良さや課題を見つづけることができる。	□「日本と外国」に関する良さや課題を見つづけることができる。	□「自分」の長所や課題を見つづけることができる。また、これまででの学習や活動を参考にして、自分のライフプラン（人生設計）や進路に対する考えを持つことができる。
レベル2（考える）	□「地域」の良さや課題を見つづけることができる。また、それに対する自分の意見を持つことができる。	□「日本と外国」の良さや課題を将来の「日本と海外」にどのように活かせば良いかを提案することができる。	□「自分」の長所や魅力を見つづける自尊心を持っている（自分を大切に思う）。また、その長所や魅力を自分の将来にどのように活かすのかを提案することができる（長所を生かしたライフプランを設定して発表できる）。
レベル3（提案する）	□「地域」の良さや課題を見つづけることができる。また、その良さや課題を将来の「地域」にどのように活かせば良いかを提案することができる。	□よりよい「日本と外国の姿」を様々な立場や観点から考えることができる。また、その姿を実現させるために、今自分（たち）ができることを考え、提案し、実行する（実行してもらい）ことができる。	□自分が設定した将来の夢の実現に向けて、「自分」の長所や魅力をさらに伸ばすと同時に、自分の課題を見つづける。それを様々な方法を使って解決するために行動することができる。
レベル4（行動する）	□よりよい「地域の姿」を様々な立場や観点から考えることができる。また、その姿を実現させるために、今自分（たち）ができることを考え、提案し、実行する（実行してもらい）ことができる。	□よりよい「日本と外国の姿」を様々な立場や観点から考え、その姿を実現させるために、今自分（たち）ができることを考え、外国に提案し実行する（実行してもらい）ことができる。他者を巻き込んで課題解決を進めることができる。	□自分が設定した将来の夢や持続可能なより良い未来（社会、世界）の実現に向けて、「自分」の長所や魅力をさらに伸ばし課題を解決するために行動すること（「持続可能なより良い未来（社会、世界）」の実現に向けて行動することができる）。
レベル5（人を巻き込む）	□よりよい「地域の姿」を様々な立場や観点から考え、その姿を実現させるために、今自分（たち）ができることを考え、提案し実行する（実行してもらい）ことができる。他者を巻き込んで課題解決を進めることができる。	□よりよい「日本と外国の姿」を様々な立場や観点から考え、その姿を実現させるために、今自分（たち）ができることを考え、外国に提案し実行する（実行してもらい）ことができる。他者を巻き込んで課題解決を進めることができる。	□自分が設定した将来の夢や持続可能なより良い未来（社会、世界）の実現に向けて、「自分」の長所や魅力をさらに伸ばし課題を解決するために行動すること（「持続可能なより良い未来（社会、世界）」の実現に向けて行動することができる）。

レベル記入欄	4年	5年	6年	4年	5年	6年	4年	5年	6年
春									
秋									
冬									
(2)項目 *評価4や5の活動 本人	4年	5年	6年	4年	5年	6年	4年	5年	6年

※【主な活動】1年（自分の良さ、地域調べ、進路学習、海外交流） 2年（職業調べ、職場体験学習、進路学習、海外交流） 3年（外国調べ、修学旅行、進路学習、海外交流）
4年（グローバル事業・地元企業研究、ライフプラン） 5年（国際課題解決プロジェクト、夢チャレ、進路研究） 6年（課題研究、進路研究） 他、模擬国連、各種活動・講座

1 事業の成果

【平成 30 年度 11 月現在での分析結果】

(1) (6つの) 資質・能力の向上について

以下は、本校設定 6 つの資質・能力ルーブリック（5 段階評価）の全 6 学年平均をまとめたものである。

学校平均 (中1～高3) 6つの 資質・能力	本校で育みたい資質・能力						F 平均
	能力			資質(気質・特性・情意・態度)			
	① 情報 整理 力	② 表 現 力	③ 課 題 解 決 力	④ 協 働	⑤ 自 他 の 尊 重	⑥ チ ャ レ ン ジ 精 神	
A 各学年の第 2 回の平均数値(現状)	2.4	2.3	2.2	2.5	2.3	2.3	2.3
B 各学年の第 1 回平均数値(開始当初)	2.0	2.0	1.8	2.2	2.0	1.9	2.0
C 調査開始時からの伸び(2年間実施学年)	0.8	0.8	0.8	0.7	0.8	0.9	0.8
D 調査開始時からの伸び(1年間実施学年)	0.6	0.5	0.4	0.6	0.4	0.6	0.5
E 調査開始時からの伸び(1～2年間平均)	0.6	0.6	0.5	0.6	0.5	0.7	0.6

- ①AとBを見ると、資質・能力の「学年平均」(中1～高3までの6学年)は、第1回調査(春)から第2回調査(秋)にかけてどの学年の数値も上昇しており、生徒が自己の成長を実感していることが分かる。
- ②F(表右端)の資質・能力の「学校平均」を見ると、第1回(春:B欄右端)の平均は2.0で、第2回(秋:A欄右端)は2.3となり、学校全体では0.3伸びており、学校全体でも成長していることが分かる。
- ③CとDで資質・能力の伸びをESD実施学年で検討すると、2年間実施した学年(中2, 3, 高2, 高3)ではルーブリック5段階の平均で0.8上昇、1年間実施した学年(中1, 高1)では0.5上昇しており、実施年数が長い方が評価の上昇率が高いことが分かる(伸びは学年によって異なる)。
- ④Eにより、どの学年も6つの資質・能力の自己評価の数値が開始当初から上昇しており、自己の確実な成長を生徒が認識していることが分かる。

(2) ESD 3 プロジェクトについて 【資質・能力と同上の向上が見られる(記述は省略)】

(3) 3 年間の取組を通じた変容と課題(学校・教員・生徒)について

【学校の変容】

(主な成果)

- 「開校以来積み上げてきた実践を、ESDの観点で整理し構造化すること」と、「本校で育みたい資質・能力を明確化し、教育内容を6観点でカリキュラムマップに整理する」ことができた。
- ESDの取組が本校の特色の1つとなっている。(もう1つはグローバルな取組)
(今後の課題)
 - 今後は、カリキュラムマップの質を「本当に使える」、「見てわかる」ものにさらに精度を高める。
 - どの授業・科目の中でもESDの教育的アプローチが取られている状態を目指す。(課題解決・探究的)
 - ルーブリック評価の追跡を長期的に行い、本校で育みたい資質・能力を身に着ける教育内容にする。
 - 「学校丸ごとESD」「どこを切ってもESD」の状態には至っていない。たとえば、ゴミ、交通手段、紙の資料、校舎の素材など、校内外のあらゆる面で持続可能な状態で暮らすにはどうするかを考える。

【教員の変容】

(主な成果)

- ①研修等を通じて、各教員にESDの考えが浸透。過去の取組の多くがESDの方向性にあることを認識。
 ②各教科の中でSDGsに関連した取組を実施する（平成30年の研究テーマでSDGs授業実践集作成予定）。

(今後の課題)

- ①一人一人がサステナビリティを主体的に学び、校内外で実践できる状態を目指す。

【生徒の変容】

(主な成果)

- ①校長のリーダーシップ（講話等を含む）や諸活動を通して、主体的な活動に取り組み始めている。
 （観光甲子園最優秀賞, 全日本高校模擬国連大会4年連続5度目の出場, フィリピン国際ボランティア等）
 今後はさらに、自発的・継続的に校外の活動にも主体的に参加している状態を目指す。
 ②資質・能力評価ルーブリック（5段階）を分析すると、次のような成果が見られる。
 ●資質・能力は、第1回（春）から第2回（秋）でどの学年も上昇（生徒が自己の成長を実感）。
 ●資質・能力の「学校平均」は、第1回（春）は5段階中2.0, 第2回（秋）は2.3（平均0.3上昇）。
 ●資質・能力の伸びは、2年間実施した学年では0.8上昇、1年間では0.5上昇（長い方が伸びる）。

(今後の課題)

- ①今後は、教員・生徒とルーブリックの内容や意義をさらに共有し、全方面での主体的な実践を促す。
 （e-Portfolioとの連携も含めて。）
 ②生徒が本校のESD活動やその意義について説明できるレベルまでを目指す。

(4) サステナブルスクール 3年間の取組自己評価（基準はACCU作成）

5 かなり満たしている 4 ほとんど満たしている 3 満たしている 2 あまり満たしていない 1 満たしていない

審査項目	審査基準	開始前	3年後	今後の具体的なアクション
ビジョン	□持続可能な未来の実現に向けた目的が明確に示されている。 □活動目的・目標と、活動内容に一貫性がある。	3	4	ビジョンの「持続可能な社会の担い手」を具現化。
継続性	□今後3年以上継続的に活動していく意志が明確にある。 □持続可能な社会を担う次世代を育てる明確な意志がある。	3	5	ユネスコスクール指定を受け、今後も継続できる。
統合	□社会・経済・環境がバランスよく教育活動に反映されている。 □持続可能性に関する内容が明確に教育活動に反映されている。 □教育課程への位置付けが適切になされている。	2	4	授業にSDGsを取り入れる。 教職員全員がSDGsレポートを作成する。
エンパワメント	□学習と実践活動がつながっている。 □学習者・実践者が対話を通して主体的に参画できるカリキュラムを作っている。 □批判的に考える力、未来像を予測して計画を立てる力、多面的、総合的に考える力などを育む教育を行っている。	2	4	生徒が主体的に参加できるよう、ポートフォリオの機能を研究する。
刷新性	□既存の枠にとらわれず、ダイナミックにESD活動を創り上げている又は創り上げようとしている。	2	4	基本の枠はできたので、次はさらに生徒の発案も。
協働	□教師間がチームとして協働し、ESD活動を推進している。または、その環境が整っている。 □多様なステークホルダー（地域、家庭、NGO/NPO、企業）と協働し教育活動を実践している。または、しようと努力している。 □国内や国外であらゆる学校・校種と相互に学びあう活動を展開している。または、しようと努力している。	2	4	姉妹校提携中の海外の学校と取組をしている。今後はユネスコスクールやサステナブルスクール同士の交流を考えたい。
変容	□6.を踏まえ、それを学校に還元し学校も常によき変化を求め、柔軟である。 □学校を「社会を変容させる拠点」と認識し、学校と社会の相互の学びを積極的に推進している。	3	5	校外活動が増えているので、校外活動の留意点をまとめ、生徒と共有をする。
汎用性（拡張性）	□重点校として、あらゆる学校が活用し実践することができる可能性のある活動を実践する意欲を持っている。 □実践に見出される工夫や方法、理論等を他の学校にも拡大し、協働していく高い意欲がある。	1	4	指定3年目も、紀要を更新して持続的にまとめを作成して普及に努める。

(参照) 【平成 29 年度（指定 2 年目）の分析結果】

1 資質・能力の向上について

(1) 資質・能力ルーブリック評価について

- ①中1～高3まで、第1回（春）と第2回（秋）にかけて資質・能力（6項目）は右の表のように上昇している。学校平均の上昇率は74.75%である。
②各学年の詳細は、p.13～14の通りである。

	①～⑥の合計値が 上昇した生徒数	割合	
1年	107	89.2%	【N=120】
2年	69	63.3%	【N=109】
3年	75	73.5%	【N=102】
4年	129	65.8%	【N=196】
5年	135	74.2%	【N=182】
6年	156	82.5%	【N=189】

(2) ESD3大プロジェクト評価について

- ①中1～高3まで、第1回（春）と第2回（秋）にかけて3大プロジェクトに関する値は右の表のように上昇している。
学校平均の上昇率は51.13%である。
②各学年の詳細は、p.13～14の通りである。

	①～③の合計値が 上昇した生徒数	割合	
1年	96	80.0%	【N=120】
2年	40	36.4%	【N=110】
3年	57	52.3%	【N=109】
4年	87	44.6%	【N=195】
5年	101	55.8%	【N=181】
6年	79	37.7%	【N=191】

(2) 資質・能力を向上させる行事や課外活動について

資質・能力ルーブリックの自己評価で「4」や「5」となるにいたった活動は、次のようになった。
どのような活動が資質・能力を伸ばすのか参考になる。(以下の記述は、5学年のもの)

①情報分析・整理力

模擬国連（でいろんな情報を集め、意見につなげた。）(8) 英語授業でのプレゼン (3) 駅前再生計画 総合学習 未来研究セミナー 演芸大会出場 高校生議会のプレゼン 放送部での番組制作 リーザスを使った資料作り テストまとめノート、宿題レポート作成

②活用・表現力

暗唱 プレ国連 英語での海外ディスカッション 総合での意見発表 英語のリテリング、ビブリオバトル 校内でのSYD紹介 部活動

③課題発見・解決力

模擬国連 (2) 地域問題解決 夢チャレ SYDにおける活動 福山駅前計画 自ら計画したボランティア活動 自分から行動してはしないけど修学旅行先で英語でディスカッションしたりした

④協働

修学旅行 (2) 部活動で意見交流・協力 (5) 学校行事 高校生議会 (2) 修学旅行 HAZE チーム 生徒会活動 福島のボランティア 地域問題解決 部活動での団体の練習 2つの意見が分かれた時に新しい意見を出そうと考える。駅前再生計画 (2) 他者への意思表示 部長としてのとりまとめ SYDにおける活動 一樹祭保健展でのリーダー 文化祭実行委員 地域行事に積極的に参加 生徒会活動 (いろいろな行事で) 去年の文化祭で自分たちが協力してやるときに相手の意見をしっかり聞いて自分の意見をしっかり言える

⑤自他の尊重

修学旅行 HAZE 高校生議会 部活や勉強さまざまなことで自分と向き合い挑戦しているから 模擬国連で他校、他県の人とアイデアを出し合った SYDにおける活動 (2) 校内バディ, ISSP 授業や日々の生活 地域の清掃ボランティア活動 部活動 ネガティブな心をなくす努力

⑥チャレンジ精神

部活動 (3), 修学旅行 海外ボランティア参加 FWC (3), 生徒会 勉強するようになった 演芸大会 進路実現のための勉強 たくさんのボランティアに参加しているから 夢チャレでいろんな新しいことに取り組めた 県大会を目標とした部活練習 オーストラリア語学研修 (2) バディ 思いついたら即行動 サマースクールボランティアで子どもとふれあうことを経験したいと思い参加 棋部で理想の勝ち方ができるよう行動 悪いことをどうすればよいのか考えよう

(3) 授業実践とのリンク

2017年度（平成29年度）の研究主題は、「グローバルな社会・地域社会で活躍する資質・能力をもった生徒の育成」であり、これはESDや高大接続改革の流れとリンクしたものである。授業改善の一環として2016年度（平成28年度）は全教科で「活用」実践に取り組み「活用レポート集」を作成した。2017年度（平成29年度）は、「主体的・対話的で深い学び」の「3つの学び」の実現を目指し、「3つの学びレポート」を作成することができた。今後はさらにこれらの取り組みを、グローバルな社会・地域社会とリンクした活用・探究実践へと進化させていきたい。

2 課題と展望

(1) 資質・能力の向上について

本校では、2016年（平成28年）に「本校で育てたい資質・能力」を策定し、カリキュラム・マップを作成した。その翌年の2017年（平成29年）にp.9にあるルーブリック（資質・能力記述文）を作成した。現在は、カリキュラム・マップとルーブリックの整合性を図るため、授業で「本単元で育む資質・能力」を確認しながら両者の修正をかけているところである。

(2) 国際課題解決プロジェクトについて

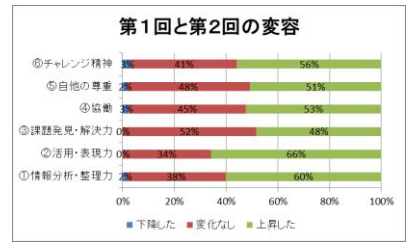
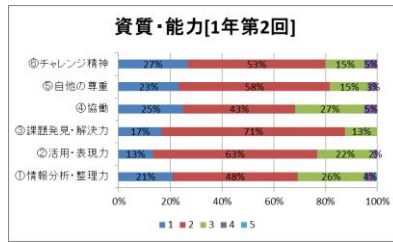
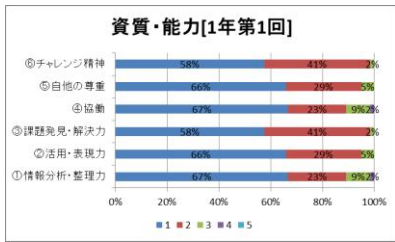
本校ESDの3主要プロジェクトの1つ「国際課題解決プロジェクト」においては、「交流からアクションへ」がキーワードである。5学年の「夢チャレ」におけるマレーシアでのプレゼンテーション&ディスカッションのように、今後も海外の中高生と共通課題について思考し解決策を英語で提案（提言）する「アクション型の交流」と発展させる。

(3) 地域課題解決プロジェクトについて

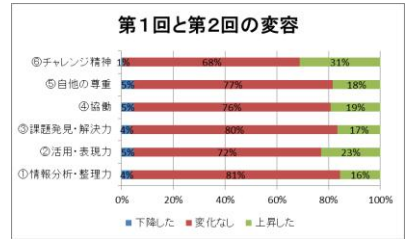
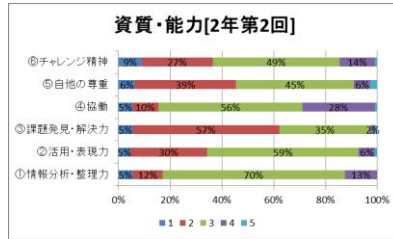
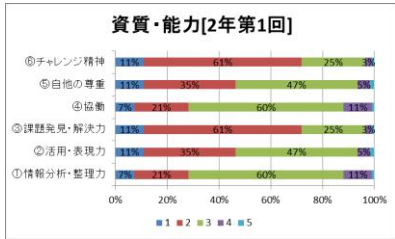
もう一つの柱である「地域課題解決プロジェクト」をより推進させたい。中学校ではすでに福山市全校で取り組んでいる「ふるさと学習」や本校独自の取り組みである「誰もが暮らしやすい福山の街づくり」などの実地見聞を伴う体験的な学習を通して、身近な地域を知り、課題解決に取り組む基礎を育成している。高校でも高校1年と2年で、福山市や近隣の大学と連携した「高校版ふるさと学習」をスタートしている。次年度からより一層の「地域課題解決プロジェクト」の充実を図りたい。



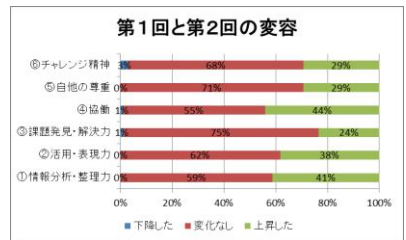
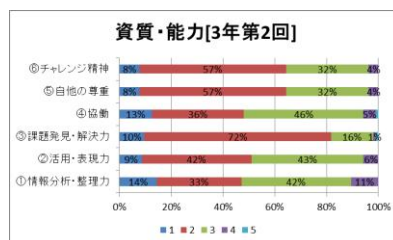
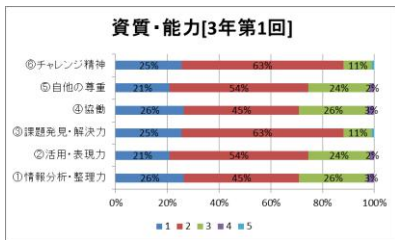
◆ 1 年生の結果



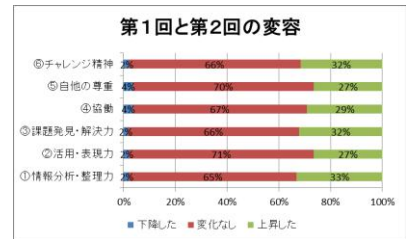
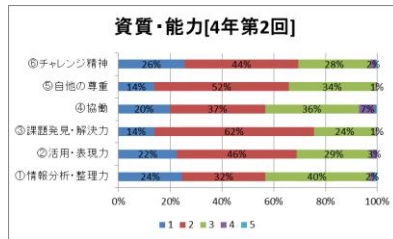
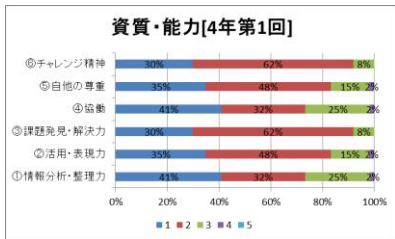
◆ 2 年生の結果



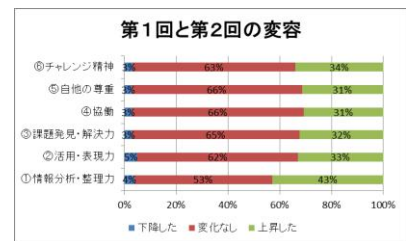
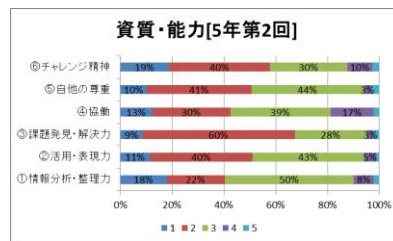
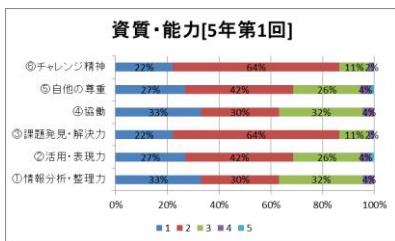
◆ 3 年生の結果



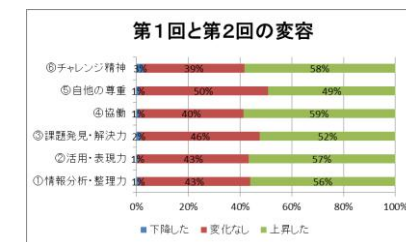
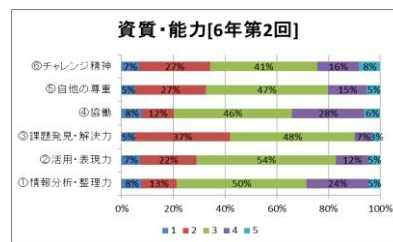
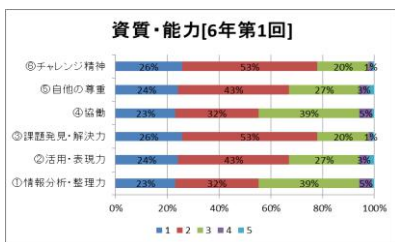
◆ 4 年生の結果



◆ 5 年生の結果

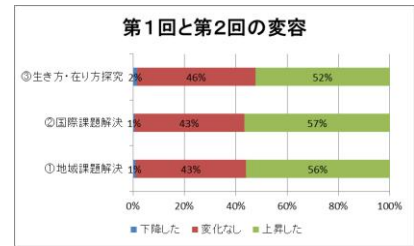
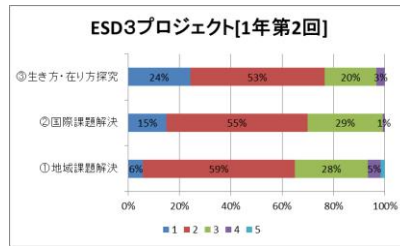
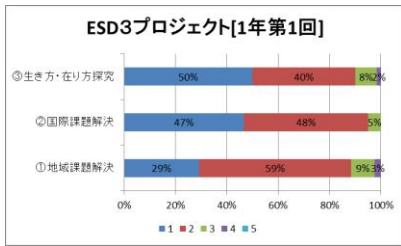


◆ 6 年生の結果

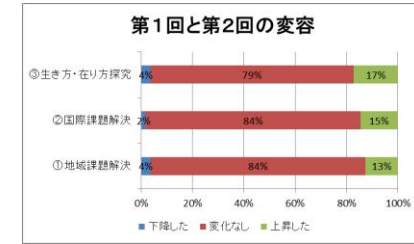
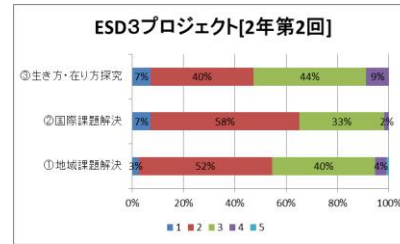
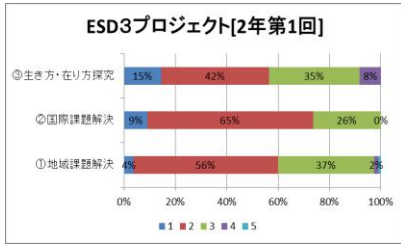


(参考) 平成 29 年度 ESD3 大プロジェクト評価・各学年の結果について

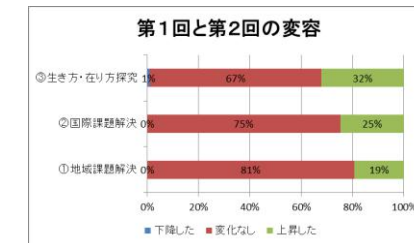
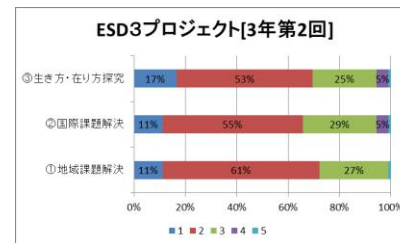
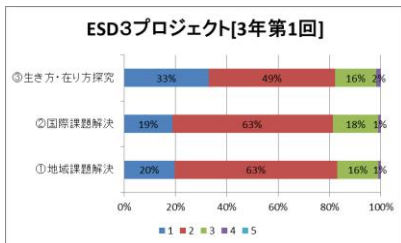
◆ 1 年生の結果



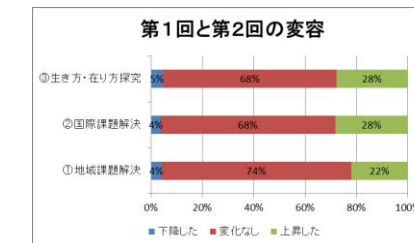
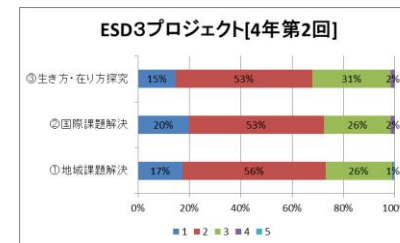
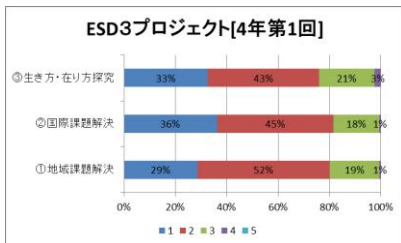
◆ 2 年生の結果



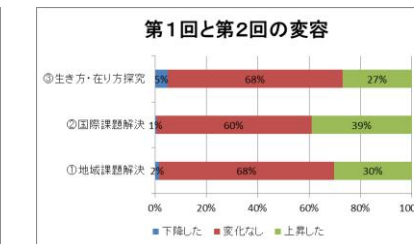
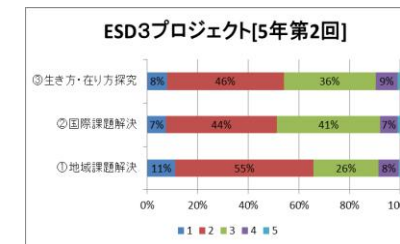
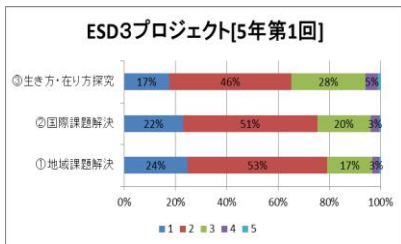
◆ 3 年生の結果



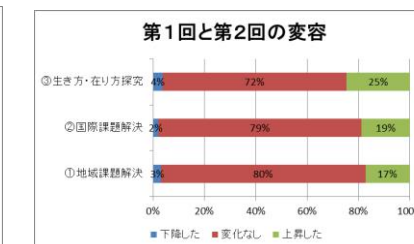
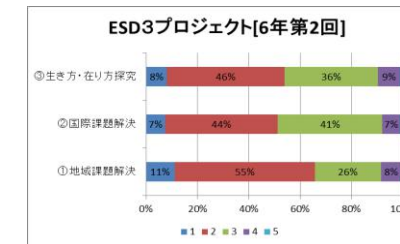
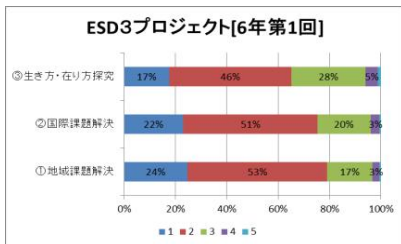
◆ 4 年生の結果



◆ 5 年生の結果



◆ 6 年生の結果



■第3章 事業報告（実践レポート）

I 地域課題解決プロジェクト

(1)【事業報告】福山のよさ再発見（中1，総合学習）

文責 矢幡 愛

- 1 学年・教科等 1年 総合的な学習の時間 「福山のよさ再発見」
2 日時 平成29年度 中期（1学期～2学期）
3 担当者、招聘講師等 1学年教員（矢幡愛，有本一哉，瀧元美菜子，妹尾進一，山下一朗太）
4 対象生徒等 1学年生徒120名
5 本校ESDの観点 国際課題解決プロジェクト 地域課題解決プロジェクト 生き方在り方探究プロジェクト
6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

本単元は、福山の有名な場所（もの）についての良さを再発見しその良さを発信するという活動の中で、郷土愛を育み、将来地域へ貢献する態度を培うことをねらいとしている。また、次単元の『誰もが暮らしやすい福山のまちづくりプロジェクト』での学習を見据え、福山の有名な場所（もの）についてグループで現地調査したり、調査内容を整理・分析しポスターセッションにむけてポスターや原稿作りをしたりすることを通して、協働して課題を解決する態度を養っていった。

7 単元の流れ

- (1) オリエンテーション：本単元の流れの確認，教員から地元自慢のプレゼン，福山の有名な場所（もの）をクラスごとに数個挙げさせ，挙げたものを3クラスで分担した（1学年全体）。
- (2) どの福山の有名な場所（もの）を調査するか決定した（グループ）。
- (3) 自分が担当になっているものについて，どのくらいの知識があるか挙げさせる（グループ）。
- (4) 知っていることをグループ内で交流した（グループ）。
- (5) 足りない情報やインターネットでは分からない部分を確認した（グループ）。
- (6) 現地調査へむけて，調査内容を決定した。また，調査先の情報を調べ，アポ取りを行った（グループ）。
- (7) 夏休みを使って現地調査を行った（グループ）。
- (8) 総合係が仕切り，今後の学習計画を立てた（クラス・グループ）。
- (9) 集めた調査内容をグループ内で交流し，整理分析した（グループ）。
- (10) 整理分析した調査内容を，ポスターや発表原稿にまとめていった（グループ）。
- (11) クラス内発表を行い，相互評価をもとに改善した（クラス・グループ）。
- (12) グループごとにポスターセッションを行った（学年全体で2時間を使い各グループ1回ずつ発表）。
- (13) 単元のふりかえりを行った（個人）。

8 生徒の評価（感想等）

- グループで協力して調査したり，調査したことをポスターにまとめたりする中で，自分の考えを言ったり，友達のことを聞いていたりすることが活発にできた。
- 福山も他の地域に積極的にアピールしたらよいと思った。
- 他の地域に負けないような有名なものがあり，よさを再発見できた。
- もっと知らない人に発表したいと思った。

グループで作成したポスター
（1人1枚作成し4枚をつなぐ）



9 成果と課題

- 小学校のころと同じテーマだった生徒もいたが，調査の仕方や興味の対象が違い，違う面を発見できていた。
- 福山にも全国レベルの有名なものがあり，それを知ることによって地域への愛着が高まった。
- 校外へ調査に行くことを通して，調査することや伝えることへの責任感が出てきた。
- 総合係になりたいと思う生徒が増えてきた。
- ▲ポスターセッションの時に，調査先の人を招待し，聞いてもらう機会があれば良かった。
- ▲次単元につなげるために，まちづくりの機関の人を招き，地域のよさから課題を発見すること等の意見を述べてもらうことがあれば良かった。

ワークシート（一部）

1. 福山代表の有名なものや人	
福山の有名なものや人	どこで見かける？
2. なぜ違いがあるのか??	

学校ブログへ掲載した記事と写真

ふるさと福山への愛着と誇りを育てることを目的として、「地域のよさ再発見」と題して、福山の歴史、文化、自然、産業などについてグループ別にフィールドワークを行い、調べたことをポスターにまとめていきました。写真はポスターセッションの様子です。

作成したポスターは廊下に掲示していますので、11月の参観日にぜひ御覧ください。



(2)【事業報告】誰もが暮らしやすい福山の街づくりプロジェクト(中1, 総合学習)

文責 矢幡 愛

- 1 学年・教科等 1年 総合的な学習の時間 「誰もが暮らしやすい福山の街づくりプロジェクト」
- 2 日時 平成29年度 後期(2学期～3学期)
- 3 担当者, 招聘講師等 1学年教員(矢幡愛, 有本一哉, 瀧元美菜子, 妹尾進一, 山下一朗太)
- 4 対象生徒等 1学年生徒120名
- 5 本校ESDの観点 国際課題解決プロジェクト 地域課題解決プロジェクト 生き方在り方探究プロジェクト
- 6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

本単元は、1学期総合の集大成として、課題発見から提言までを行う。その過程の中でさまざまな活動を通して未来の福山について考え、福山を離れたとしてもそれぞれが住む場所でありよいまちづくりに参画していく力を培うことをねらいとしている。福山の地域の課題となるものを挙げさせ、課題に対応しているさまざまな機関を訪問し、具体的な課題について聞き取りを行った。そして、その課題を解決するための方法を考えていった。それをスライドにまとめ、訪れた機関を再訪問し自分たちの考えを発表した。そこからアドバイスや意見をもらった。

7 単元の流れ

- (1) オリエンテーション：まちづくりサポートセンターから所長を招聘し、まちづくりの考え方・まちづくりの活動具体例・中学生に期待すること等の話を聞いた(1学年全体)。テーマの決定をした。
- (2) テーマについて取材内容を話し合った(グループ)。
- (3) 取材先へアポを取った(グループ)。
- (4) 冬休みを使い、各機関へ取材活動を行った(グループ)。
- (5) 取材内容をもとに、グループ内で整理分析を行った(グループ)。
- (6) プレ発表を行い、相互評価を行った(地域別クラス)。
- (7) 取材先に再訪問し、自分たちの考えを発表した(グループ)。
- (8) 本単元のふりかえりをした(個人)。
- (9) 各グループが作成したスライドを、一つの冊子にまとめた(教員)。



生徒が地域へ取材をした時の様子

8 生徒の評価(感想等)

- <誰もが暮らしやすいまちづくりを進めるにあたって、大切なことは何か。>
- 人を思うこと、自分のことばかり考えず、みんなのためになることを考えること。
 - みんなが近所の人たちとの交流を深め、いざというときにしっかり協力を得られるようになること。
 - 大人しかできないことばかりと思っていたが、自分たちでも工夫を重ねることで少しでも協力できることがある。そうとくところを積極的にやっていくこと。
 - なぜその課題が出てきてしまうのかを考えること。

9 成果と課題

- ふりかえりにおいては、人と関わることの大切さについて書く生徒が多かった。
- 中学生の視点で課題・解決策を考えることで地域がより身近になった。
- オリエンテーションで、まちづくりに関わる人の話を聞いたり、取材先に再訪問し自分たちの考えを発表したりすることによって、現実問題として考えることができた。
- クラスを越えて協働的な活動ができた。
- ▲グループで本単元のふりかえりができると良かった。
- ▲教員が訪問先へ行くことができなかった。
- ▲2年生の学習へどうつなげていくのか話し合いが十分でなかった。

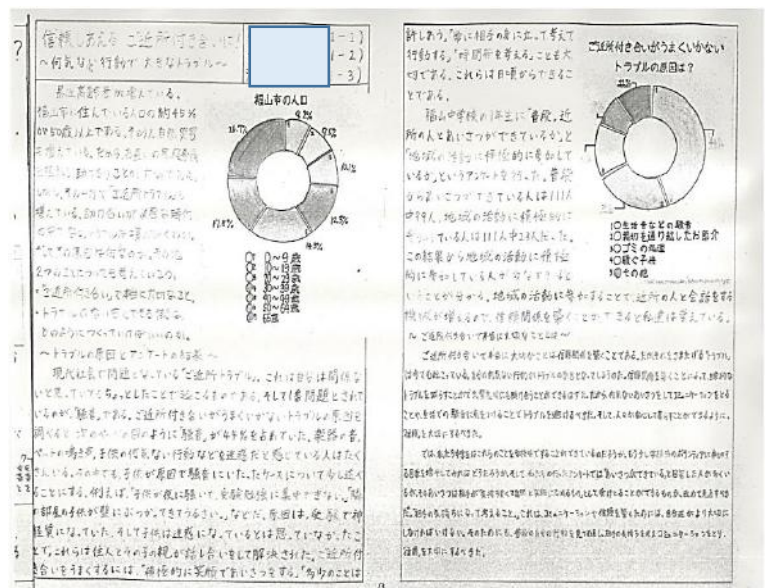
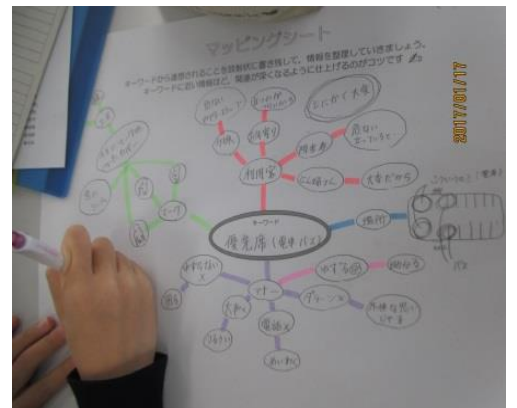
ワークシート

4 取組計画 (13時間)			
次	月日曜 (予定)	内容	備考
1	12月5日 (火)	「誰もが暮らしやすい福山の街づくり」プロジェクト ⑤講演 ※詳細は5で ⑥テーマの決定, 取材等の準備の確認	
	冬休み中	各グループで取材活動	
2	1月16日 (火)	⑤持ち寄った資料をもとに, グループで分析・検討 ⑥同上	
3	1月30日 (火)	⑤ポスターのレイアウトを決める ⑥下書きを行う。	パワポ or ポスター
4	2月6日 (火)	⑤ポスターの作成 ⑥ポスターの作成	
5	2月20日 (火)	⑤発表原稿の作成 ⑥発表練習	
6	3月6日 (火)	⑤プレゼンテーション ⑥同上 ※詳細は5で	大望館使用できる日に設定
7	3月13日 (火)	⑤学習のまとめ	
	春休み中	取材先へ学習成果を報告	

生徒の活動の様子



生徒が書いたイメージマップ



(3)【事業報告】グローバル人材育成事業（高1，総合学習）

文責 西村礼志

- 1 学年・教科等 4年 総合的な学習の時間 「グローバル人材育成事業」
- 2 日時 2017年（平成29年）4月～12月
- 3 担当者 西村礼志（教育研究部）・松村和司（学年主任）
- 4 対象生徒等 生徒198名（4学年全員）と教員12名
- 5 本校ESDの観点 国際課題解決プロジェクト 地域課題解決プロジェクト 生き方在り方探究プロジェクト
- 6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

（目的）地元企業の特徴や、オンリーワン・グローバル企業における経営・技術力・戦略を学ぶことで、グローバルな視点・資質・能力の育成を行うとともに、将来設計の中に地元企業を意識することができるグローバル（＝グローバル＋ローカル）な人材を育成する。

（目標）高校生が作成した高校生のための福山の企業ガイド「Hi-Hi ふくやま 2017」を作成し、福山市内の高校生に発信する。

7 内容の具体・展開の流れ

- 4月 ●研究方法の理解
講義：有限責任監査法人トーマツ 時任奈穂 シニアディレクター
- 5月 ●基礎的経営学の学習
講義：福山市立大学都市経営学部 玉井由樹 准教授
- 6月 ●福山市の産業構造の理解
講義：福山市産業振興課 前原由幸 次長（産業振興担当）
●経営全般、技術開発の取組、グローバル展開・戦略、仕事のイメージ等を学ぶ
ラーニングカフェ：協力企業18社（50音順）
青山商事株式会社，池田糖工業株式会社，占部建設工業株式会社，
柿原工業株式会社，株式会社栄工社，株式会社エフピコ，株式会社
エブリィ，株式会社サンエス，株式会社プレひまわり，株式会社
ベッセル，坂本デニム株式会社，タカオ株式会社，日東製網株式会社，
早川ゴム株式会社，広島化成株式会社，ホーコス株式会社，マナック
株式会社，有限会社柿原銘板製作所
- 7月 ●企業訪問準備，マナー講座
講演：青山商事株式会社 営業部 齋藤賢一 部長代理
- 8月 ●企業訪問研修（7月下旬～8月上旬）
●アウトプットの方法を学ぶ
演習：有限責任監査法人トーマツ 時任奈穂 シニアディレクター
- 9月 ●成果物作成
- 10月 ●ポスターセッション（各班が研究内容を発表し，代表班2班を選出）
- 11月 ●企業ガイド作成，公開研究会で代表2班発表
- 12月 ●成果発表会（全18班），「Hi-Hi ふくやま 2017」発行，配付



トーマツ 時任シニアディレクターの講義



玉井由樹准教授の講義



ラーニングカフェ



成果発表会

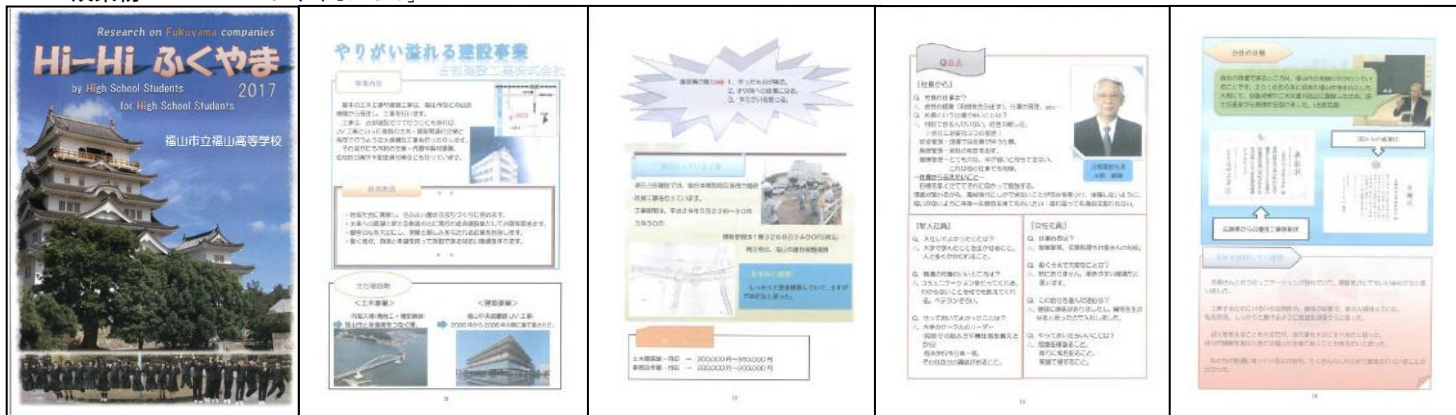


ポスターセッション



企業訪問

8 成果物「Hi-Hiふくやま 2017」



成果物「Hi-Hiふくやま 2017」は、1社あたり4ページで作成し、1000印刷した。成果物は福山地区国公立私立高校28校に、各校1学年クラス数分を配付し、各校のキャリア教育・地域学習への活用を依頼した。また、地元商工会議所・商工会を通じて約300冊を、企業に配付し、本事業についての理解と次年度の協力を依頼した。

9 成果と課題

(1) 成果

① ルーブリック評価

資質・能力の向上について自己評価の変容をみるために、1学期と2学期において、ルーブリック評価を行った。ア「福山中高で育みたい資質・能力ルーブリック」については、4学年において上昇した生徒の割合は65.8%。イ「ESD3大プロジェクトルーブリック」については、4学年において上昇した生徒の割合は44.6%。事業完了後の3学期における評価で、事業の効果度を検証したい。

ア

	①～⑥の合計値が 上昇した生徒数	割合	
1年	107	89.2%	【N=120】
2年	69	63.3%	【N=109】
3年	75	73.5%	【N=102】
4年	129	65.8%	【N=196】
5年	135	74.2%	【N=182】
6年	156	82.5%	【N=189】

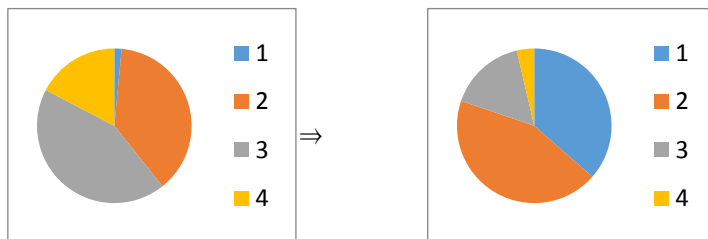
イ

	①～③の合計値が 上昇した生徒数	割合	
1年	96	80.0%	【N=120】
2年	40	36.4%	【N=110】
3年	57	52.3%	【N=109】
4年	87	44.6%	【N=195】
5年	101	55.8%	【N=181】
6年	79	37.7%	【N=191】

② 「福山市の企業」に関する関心度アンケート
事業の事前・事後に同一のアンケートを行った。

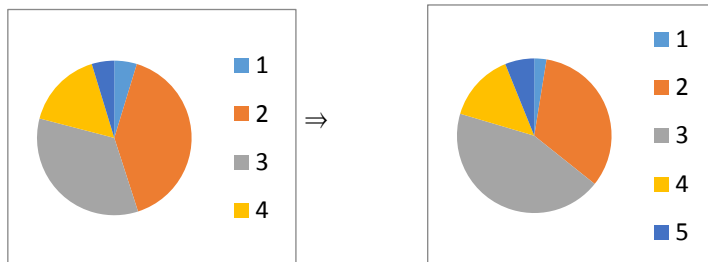
ア あなたは福山市にどんな企業があるか
知っていますか。

- 1 知っている(10社以上)
- 2 少し知っている(3社～9社)
- 3 あまり知らない(1社もしくは2社)
- 4 知らない(0社)



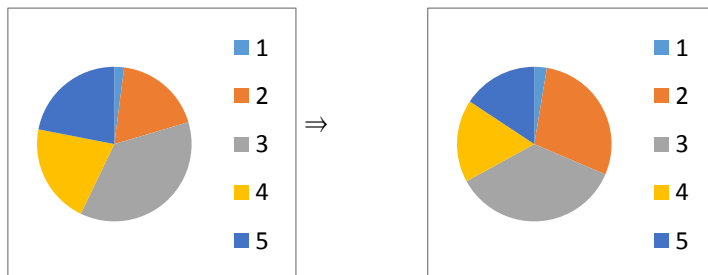
イ あなたは福山市の企業について興味がありますか。

- 1 ある
- 2 少しある
- 3 あまりない
- 4 ない
- 5 わからない



ウ あなたは将来、福山市の企業に就職したいと思いませんか。

- 1 思う
- 2 少し思う
- 3 あまり思わない
- 4 思わない
- 5 わからない



(2) 課題

- ・成果物やパワーポイントの内容、プレゼンテーションの方法や表現力に差が見られた。
- ・一部の班では、「協働的な学び・作業をする」という観点が欠けていて、一部の生徒による作業となった。
- ・協力企業からのアンケートを基に、次年度の実施計画を作成する。

(4)【事業報告】夢チャレ「市立大学との高大連携事業」(高2)①(平成29年度)

文責 川高佐知子

- 1 学年・教科等 5年「夢チャレ」 福山市立大学との高大連携事業
「地元高校生が考える福山駅前再生計画!」
- 2 日時 2017年(平成29年)5月~11月
- 3 担当者、招聘講師等 川高佐知子(福山高校)・太田尚孝講師(福山市立大学都市経営学部)
- 4 対象生徒等 生徒23名(5学年希望者)
- 5 本校ESDの観点 国際課題解決プロジェクト 地域課題解決プロジェクト 生き方・在り方探究プロジェクト
- 6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

福山市の将来を担う福山市立の高校生が、福山市や福山市立大学の教員・大学生から、今後のまちづくりに必要な考え方やスキルを学び、高校生目線でのまちづくり提案を行う。(5学年の「総合的な学習の時間」において、『夢チャレ』と名付けたプログラムを立ち上げた。これは、生徒個人個人が学校の枠組みを超えた活動に挑戦し、その体験を報告し合うことで、人間力を高め合うというもの。その一環として福山市立大学との高大連携事業「地元高校生が考える福山駅前再生計画!」にも取り組ませていただいた。)

7 内容の具体・展開の流れ

- (1) 5月26日(金)17:00~18:00 @福山市立高等学校:出前講座
太田先生による出前講座(30分程度) : 本事業の概要とスケジュールの説明
「(仮称)まちづくりは面白い!~まちづくりを行うための3つの視点~」
- (2) 5月末 参加者の確定
- (3) 6月9日(金)17:00~18:00 @福山市立高等学校:太田先生とゼミ学生来校
大学での学び・まちづくりデザインゲーム
- (4) 7月14日(金)16:30~18:00 @福山市立大学:大学訪問
大学内キャンパスツアー・RESAS/WEB GISの演習
- (5) 7月28日(金)9:00~16:00 @福山駅前・ローズコム:まち歩き&WS
福山市職員とまち歩き・ゼミ学生とWS
- (6) 8月3日(木)4日(金)9:00~16:00 @ローズコム:まちづくりWS・中間発表
- (7) 9月~10月上旬 校内で提案に関するブラッシュアップ
- (8) 10月13日(金)17:00~18:00 @福山市立高等学校:太田先生とゼミ学生来校
最終発表に向けた作戦会議
- (9) 10月30日(月)17:00~18:00 @福山市立大学:大学訪問
最終発表会リハーサルと最終確認
- (10) 11月11日(土)の午後@福山市立大学:学園祭で最終発表会
大学学園祭の企画として、高校生によるまちづくり提案発表会を実施。
高校・大学・市関係者を審査員として、投票により最優秀賞、優秀賞の決定

8 生徒の評価(感想等)

- 町とのつながりなどいろんな視点で福山を見ることによって何が足りないか、どのようにするともっと発展するのかなど考えて、大変だったけどとても楽しかったです。自分の将来の夢は建築業なのでいろんなことが学べて良かったと思います。また、市立大学の都市経営学部の方たち、先生などと関わり、多くのことを知りました。工学だけでなくあらゆる学問のことを学べていいなと思います。

9 成果と課題

- (成果)まちづくり意識・街を見る目の獲得・プレゼンテーションについては相手意識など参加生徒の様々な側面での成長が感じられた。生徒にとっては大学が身近に感じられ、大学進学についての認識が具体化し、大学での学びについて学問分野的な理解や、地域と大学の関わりについての理解も進んだ。
- (課題)次年度、大学側で担当する指導者が変わってしまいそうなので、今年度のノウハウや、良かった点をいかに継承するか、または、全く新しい取り組みとして始めるべきか、検討する必要がある。

● 駅西「家族が安心して歩ける街」チーム プレゼンスライド（作成中）



福山駅前全体と駅西の繋がり

- 福山駅南北間の分断をどう繋ぐ？
- 福山城などの史跡を活用したまちづくりのあり方
- 福山駅前南側の大通りによる東西の分断への対応
- 市民が歩きながら楽しめるものは？

↓

駅西の課題点

- ① 放置自転車
- ② 駅西の魅力の欠如
- ③ 歩道の狭さ、道の通りづらさ

① 放置自転車

解決案

小学生が描いたイラスト

自転車の置き場

自己撮影ボードの設置

② 駅西の魅力の欠如

→ 駅西に現在ある建物は？

CASPA 2012/1/31 閉館

エフピコRim

トモテツビル 2017/9/5 解体することを発表

③ 歩道の狭さ、道の通りづらさ

三の丸通り

別の道に魅力をも!!

解決案

→ 別の道に魅力をも！とは…

通りにあるお店の魅力を集めた広告

三の丸公園の活用

駅前が華なる通過点にならないために…

→ 福山市全体で広い世代の人に来てもらえるようなイベントを行う

▶ 福山デニムについてのイベント

坂本デニム
藤原チキスタイル株式会社
TO BE ALIVE
カイハラデニム など

▶ FUKUYAMA BRAND

福山で生み出される、創造性あふれる商品・サービスや素材・技術、歌壇・活動の数々の中で可能性を秘めたものを「福山ブランド」として認定・登録。

坂本デニム

indigo 藍 blue

「藍にこだわって生きる」

坂本の色は世界的な色。

坂本の色は世界的な色。

坂本の色は世界的な色。

弊社で染め上げた糸を使用したデニム地を用いて、国産シーズンを縫製する職人さんたちが丁寧に縫い上げた純国産デニム。

FUKUYAMA BRAND

ニュース 福山ブランドとは 認定・登録制度
ブランド一覧 マップ お問い合わせ

FUKUYAMA BRANDを利用したイベント
→ 天満屋地下一階に販売

マチモト特製アイス

(4)【事業報告】夢チャレ「市立大学との高大連携事業」(高2)②(平成30年度)

文責 和佐田知子

- 1 学年・教科等 5年「夢チャレ」 福山市立大学との高大連携事業
「地元高校生が考える郊外団地(幕山台)のまちづくり」
- 2 日時 平成30年5月～12月
- 3 担当者、招聘講師等 和佐田知子(福山高校)・渡邊一成教授(福山市立大学都市経営学部)
- 4 対象生徒等 生徒20名程度(5学年希望者)
- 5 本校ESDの観点 国際課題解決プロジェクト 地域課題解決プロジェクト 生き方・在り方探究プロジェクト
- 6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

福山市の将来を担う福山市立の高校生が、福山市や福山市立大学の教員・大学生から、高齢化が進む郊外団地における今後のまちづくりに必要な考え方やスキルを学び、高校生目線でのまちづくり提案を行う。

7 内容の具体・展開の流れ(写真を1枚は入れる)

- (1) 6月19日(火) 17:00～18:00 場所:福山市立福山高等学校
スタートアップ授業
- (2) 7月21日(土)・22日(日) 場所:福山市立大学
オープンキャンパス GIS授業
- (3) 7月23日(月) 17:00～18:00 場所:福山市立福山高等学校
現地視察の事前説明
- (4) 8月7日(火) 9:00～16:00 研修場所:福山市東部支所 現地視察:幕山台
～ ワークショップ ～ 幕山台学区の説明, 提案発表作成
- (5) 8月10日(金) 9:00～16:00 研修場所:福山市東部支所 現地調査:幕山台
～ ワークショップ ～ ミニ講義, 提案発表作成
- (6) 10月9日(火) 15:00～17:30 場所:福山市立大学
～ ワークショップ ～ 提案発表まとめ
- (7) 10月23日(火) 14:50～17:30 場所:福山市立大学
～ ワークショップ ～ 提案発表まとめ+リハーサル
- (8) 11月4日(日) 10:40～ 幕山台学区文化祭にて開催
提案発表(発表は2グループ)
- (9) 11月17日(土) 11:00～12:00 場所:福山市立大学(大学祭にて開催)
最終提案発表
- (10) 12月7日(金) 16:00～17:00 場所:福山市立福山高等学校
振り返り, 意見集約



8 生徒の評価(感想等)

- 僕たちのような若い世代がこのような活動に参加することにすごく意味があると感じました。大学生の課題に対するアプローチの仕方はとても参考になりました。たくさんの方々関わってできた事業だと思うので、感謝するとともに、この活動が意味のあるものになってほしいと思いました。
- 大学ではより専門的な知識を勉強することがわかりました。また、実際に目で見て回ることで、表などからはわからない発見をすることができました。坂に何か工夫をすることで改善できると考えていましたが、幕山台に住む方の年齢や地域の特色などを考慮して、現実可能な解決策を考えることは想像以上に大変でした。

9 成果と課題

- (成果)幕山台学区や東部支所の方々等の協力を得て、大学教授のご指導のもと、大学生とともに高齢化する町の活性化について考えて提案することで、大学進学後の専門的な学問について理解を深め、思考力・判断力・表現力や学びに向かう力を伸ばすことができた。また、高1でのグローバル事業に続き、学びをプレゼンする形だったため、昨年度の経験を生かして、パワーポイント作りや提案発表を行うことができた。
- (課題)本校での担当者が毎年代わるため、次年度への引き継ぎを徹底することが必要である。前年度の学びをいかに活かすかを考えて取り組んでいく。

生徒の代表プレゼンスライド

まち全体で
くらしを
やりくりする
まねじめんと

福山市立福山高校 井上咲耶 福山市立大学 竹部成海
 迫林征志 竹下美希
 延近祐澄
 新井悠介

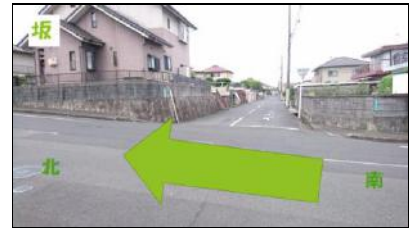
1

幕山台の課題

- ▶ 買い物をしづらい
- ▶ 坂がきつい
- ▶ バス利用が不便
- ▶ 高齢者が多い



2



3



4

約30分(1-1km)以内



バス時刻表

5

解決策

- ▶ バスの本数を増やす
- ▶ 移動型の店舗をつくる
- ▶ 坂の負担を軽減する取り組み



6

事例1 移動販売 とくし丸


- ▶ 名前の由来は、劇団地の「徳島」と社会事業や公共の福祉に貢献する「寛志」の意味がある。また、地域のスーパーマーケットと連携して、スーパーの商品を運ぶことでコストを削減している。



7

特徴

- ▶ 1つの商品を玄関先まで届けるという付加価値として、一律10円分を値上げする「プラス10円ルール」を導入している。
- ▶ 生鮮食品を含めた400品目以上の商品を取り扱い、また、地域の見守り隊としての役割を果たすことも目指している。
- ▶ 福山市、尾道市、三原市などでは二車一と連携して営業している。



8

事例2 貨客混載システム



9

移動販売×貨客混載

移動販売のメリット

- ・長距離歩く必要がない
- ・生鮮食品が手軽に購入できる
- ・地域との親密性が高い

貨客混載のメリット

- ・人件費削減
- ・輸送費削減
- ・バス路線の維持

10

幕山台に対する提案

- ▶ バスに食料、薬などの日用品を積み込み、商店街コミュニティスペースに登録した各ポイントの空き家に配給する、交通を基礎とする拠点をつくる。



11

参考文献

- ▶ <http://www.chugokubus.jp/routebus>
- ▶ <http://www.tokushimaru.jp/>
- ▶ <https://lnews.jp/2017/06/j063013.html>



12

感想



13

ご清聴ありがとうございました



14

II 国際課題解決プロジェクト

(1)【事業報告】姉妹校との国際交流（希望者、課外活動）①ダウンランズ（語学研修）

文責 元岡早苗

- 1 学年・教科等 中3～高2 希望者
- 2 日時 2017年（平成29年）7月24日（月）～8月7日（月）
- 3 担当者、招聘講師等 引率教員 2名（元岡早苗・瀧元美菜子）
- 4 対象生徒等 中3 女子2名、高1 男子2名・女子11名、高2 女子7名 計22名
- 5 本校ESDの観点 ■国際課題解決プロジェクト □地域課題解決プロジェクト □生き方在り方探究プロジェクト
- 6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

本研修の目的は、次の2点である。

- ①オーストラリア人家庭にホームステイをし、姉妹校であるオーストラリアの中・高校に短期留学することで、オーストラリアの人々の生活や文化に触れ、異文化、さらには自国の文化に対する理解を深める。
 - ②生活のなかで英語を使うことで、英語によるコミュニケーション能力の基礎を養う。
- 以上の目的を達成するために、次のような研修方法を採用した。
- ①生徒に希望を取りながら姉妹校と連携し、ホストファミリーを決定する。
 - ②現地校においては、約2週間にわたり、現地の生徒と同じ授業を受ける。
 - ③一般家庭にホームステイし、家族の一員として生活する。

7 内容の具体・展開の流れ

- 7月24日（月） 関西空港出発
- 7月25日（火） ケアンズ経由トゥーンバ着
ダウンランズカレッジ校にてホストファミリーと対面
各家庭に移動
- 7月26日（水）～8月4日（木） 現地での学校生活とホームステイ体験
- 8月5日（金） トゥーンバ出発ケアンズ到着
- 8月7日（月） ケアンズ出発・帰国

8 生徒の評価（感想など）

- 最初、短期留学が決まった時は、本当に嬉しいのか、わかりませんでした。でも2週間で帰国し、今考えてみると絶対行ってよかったと思います。
- 2週間は本当にあっという間に終わりました。毎日内容が濃すぎて疲れたけどそれ以上に楽しかったです。ホストファミリーの方がとても快く迎え入れて下さり、いろいろな経験をさせてくれました。BBQ、カヤック、流れ星を見たり、テレビを見たり、お菓子を一緒に作ったり全部英語で初めて体験したことも多かったです。
- 私がダウンランズで過ごした2週間は、私の心だけでなく、私の考え方や意志の伝え方まで成長させてくれるものでした。
- 今回の研修を通して1番学んだことは、コミュニケーション能力の大切さです。私は英語で話すことが苦手だったけれど身振り手振りで自分の意思を伝えました。また、いつも笑顔でいることも大切だと思いました。
- 授業でもイギリス英語とアメリカ英語の発音の違いを勉強するけれど、オーストラリアで実際の生活の中で違いに興味を持って聞いた時の喜びで自然に頭に入りました。
- 私のバディが来年日本予定なので、その子が私に頑張って日本語で伝えようとしてくれた分、今年話したことより深いことが英語で話せるように英語の勉強を頑張ります。
- 向こうで学んだのは英語だけでなく、すごく良い体験ができました。この体験ができたのは先生や友達や何より家族のおかげなので、みんなに感謝して、この経験を忘れずにこれからに活かしていけるように頑張ります。

9 成果と課題

【成果】このプログラムは毎年実施し改善されているので、現地でのプログラムが大変濃いものであった。

【課題】本校と該当校での中心教員に頼って実施できているプログラムになっており、一部への負担が大きい。少しずつ仕事の適切な割り振りなどを考えていく時期に来ている。

●生徒の活動の様子



ホストファミリーのお迎え



ランチタイム



アダムス先生の授業



日本語選択の生徒との授業



バディと一緒に授業へ



毎朝提出のしおり



いよいよお別れ



さよならトゥーンバ

ダウンロード生徒本校受け入れ授業例（地理B授業）

指導者 藤田憲弘

1 学年・組 第5学年 理系地理選択者 33名＋ダウンロード校生徒 25名（社会科教室）

2 単元名 地球の課題を考える～SDGs（持続可能な開発目標）について～

3 本時の展開 （＊9月21日（水） 4限）

（1）本時の目標

- ①日本とオーストラリアの社会について比較検討する。
- ②自分たちが社会で活躍する15年後に向け、地球上で解決すべき課題について他国の生徒と考える。

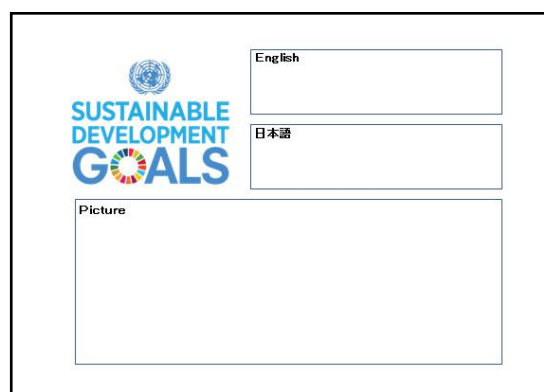
（2）授業参加者に見てもらいたいポイント

- ①他国の生徒と英語を使って、積極的にコミュニケーションをとりながら、課題解決に向けた行動を取っているか。
- ②視聴覚を使った教材や発問などは、日豪の生徒の思考を促し、関心意欲を喚起するものになっているか。
- ③生徒は、達成感を持って終わることができたか。

（3）本時の学習展開 【記号】△基礎・基本の定着 ◆AL（主体的・対話的で深い学び） □ESD（人間性・他との関連）

学習活動	形態	指導上の留意点	3要素	評価規準
1 グループでリーダーを決める。 （自己紹介含めて、話し合いの時間は5分以内）	グループ	◆□決め方は、各グループに任せる。	協働性	
2 日本とオーストラリアの各種統計を通して、お互いの社会・生活を比較する。 （12～13分）	グループ	◆□経済や国民生活など、幅広い分野での統計を用意するが、問いが多くなるといけないよう、後の展開にもヒントになるような分野にしぼる。解答に対し、補足すべきところは、補足する。 ・オーストラリアの生徒にもわかるよう教師もダウンロードの先生と協働する。	思考力 協働性	日本とオーストラリアの社会の違いについて比較・検討している。 （ワークシート）
3 SDGsについての概要を知り、この時間のテーマについて確認する。 （5分程度）	一斉	△映像を使ってSDGsについて確認させ、本時、日豪の生徒でともに考えることを押さえる。	知・技	
4 これからの世界が解決すべき目標について考え、互いに意見を出し合う。 （12～13分程度）	グループ	◆□文字やイラスト表現で、お互いの意見を出し合い、グループとしてまとめさせる。 ・各グループを回り、フォローする。	思考力 表現力 協働性	地球上で解決すべき課題について積極的に検討している。（観察）
5 グループの意見を発表する。 （7分程度）	一斉	◆イラスト掲示を通じて、各班で考えた課題を3つ以上発表させる。背景を問い、発表の相違点にも気付かせる。	表現力 知・技	
6 国連で確認されている目標を知り、自分たちの考えたことと比較する。 （7分程度）	一斉	△□視聴覚教材でSDGsの内容を確認させ、自分たちの思考を振り返らせる。 ・それぞれにこれからの世界、そのなかでの自分のあり方についての課題意識を持たせて、終わらせたい。	主体性	

4 生徒用資料（各生徒に配付）



5 グループの発表したSDGs

リサイクル 教育（6） きれいな水 栄養のある食べ物 戦争を減らす（2）
 医療（4） スポーツでつながる 大気をきれいに 絶滅危惧種を守る
 再生エネルギー（2） 協力 言論の自由 男女平等

6 生徒の評価・感想等

①授業のなかで、オーストラリア生徒とコミュニケーションがとれたか？

・充分にとれた 6% ・ほととれた 68% ・あまりとれなかった 31% ・全くとれなかった 0%

②グループの意見は、どうやって決めましたか？

・みんなで話し合った 7チーム
 ・オーストラリア生徒が適当に決めた 1チーム

③感想

・楽しかった、とても楽しかった。
 ・環境問題は、世界的なものなので、みんなでいろんな意見を出せてよかった。
 ・また来て交流できたらいい。



7 成果と課題

- ・日本とオーストラリアの統計比較では、お互いに、自分の国のことや相手国のことを知らないことがわかり、盛り上がった。知識レベルは、同程度ということであろうか。
- ・準備した視聴覚教材は、両国の生徒とも、よく反応してくれたので、適切であったと思う。
- ・グループでの意見交流は、少しテーマが難しかったことと、時間的制約があつて、まとめきれてないようだったし、お互いの意見検証に時間を取ることができなかった。内容的に2時間あつてもよかった。
- ・オーストラリアの引率教諭にうまく訳してもらいながら進行することができ、両国の生徒は、内容についてくることができたと思う。ぶっつけ本番であったが、こうした授業は、ALTの先生とうまく協働すれば、日常の授業でも仕掛けていけるのではないか。

8 授業風景



(1)【事業報告】姉妹校との国際交流(希望者、課外活動) ②マウイ(語学研修)

文責 原朋代

- 1 学年・教科等 希望者
- 2 日時 2017年(平成29年)3月13日(月)～17日(金)
- 3 担当者、招聘講師等 引率教員 2名(原朋代、石井康代)
- 4 対象生徒等 高校1年生男子6名 女子12名 計18名
- 5 本校ESDの観点 ■国際課題解決プロジェクト □地域課題解決プロジェクト □生き方在り方探究プロジェクト

6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

本研修の目的は、次の3点である。

- ①福山市の友好都市マウイの家庭にホームステイをし、現地の高校に短期留学することで、ハワイの人々の生活や歴史文化に触れ、異文化、さらには自国の歴史文化に対する理解を深める。
- ②生活の中で英語を使うことで、英語によるコミュニケーション能力の基礎を養う。
- ③海外語学研修を希望する多数のニーズに応えるため、夏季研修だけではまかないきれない現状のなか、研修機会を提供する。

以上の目的を達成するために、次のような研修方法を採用した。

- ①福山市市民相談課と連携しながら、交流校およびホストファミリーを決定する。
- ②現地校においては、1週間にわたり、現地の生徒と同じ授業を受ける。
- ③一般家庭にホームステイし、家族の一員として生活する。

7 内容の具体・展開の流れ

- 3月13日(月) ハワイマウイ大学キャンパスツアーおよび大学総長会見
キングケカウリケ高校ジャズバンド訪問
- 3月14日(火) マウイ高校にて”A Day at School”
- 3月15日(水) マウイ高校にて”Cultural Presentations”
- 3月16日(木) マウイ郡長・郡議会表敬訪問 / マウイオーシャンセンター観光
- 3月17日(金) ハレアカラ山・ラハイナ観光 / マウイ高校にてお別れのアロハディナー

8 生徒の評価(感想など)

- 今回の研修で一番楽しかったのはマウイ高校で体験授業をしたことだ。マウイ高校には日本の普通科の高校にはない授業があった。それは photo class だ。授業中に教室の外に出て本格的なカメラで好きなところを撮る授業だった。初めての体験だったのでとても楽しかった。マウイにはきれいな景色がたくさんあって、たくさん写真を撮った。マウイ高校ではステッカーを作ったり T シャツや消しゴムのハンコを作ったり、体験授業をしたり、外国のゲームをしたり、太鼓をたたいたりとかたくさんのことを体験できてとても楽しかった。
- マウイ大学で英語の授業を受けました。発音をもう少し頑張らないといけないと思いました。特に R と L。夜にお父さん(ホストファーザー)と発音の練習をしました。L と R, TH など色々例を出してもらいました。walk と work はすごく難しかったです。write と right の発音は同じだと教えてもらいました。日本で学ぶよりもすごく発音もよくて身につくのが早いような気がしました。
- 今日はホストファミリーと過ごす最後の日。朝一番に習字をしました。ママとパパの名前を漢字に換えて書いてあげました。二人ともすごく喜んでくれました。ママも好きな日本語を書いたりしてとても楽しんでもらったのでよかったです。
- 今回の研修ではわりとコミュニケーションが取れたのがうれしかった。正直、文法はゴチャゴチャな時もあったが、中学レベルの英語でけっこうできたのでうれしかった。相手が言うことも、正確に一言一句とは言わないが、大体の意味は分かったので良かった。これからもこういう海外語学研修に行きたいと思った。
- 初の海外で英語がうまく伝わるのか、海外でちゃんと生活してけるのかなど初めは心配だったけど、いざ行ってみると英語でコミュニケーションを取ることができたし、ホストファミリーもやさしくて心配はなくなりました。進路もこの研修に行ったことである程度決めることができました。

9 成果と課題

- 【成果】本プログラムを通して、英語学習に対する生徒の姿勢が積極的になり、目的意識をもつようになった。
- 【課題】同様の研修を継続して実施するためには、コーディネーターの確保等、課題が残る。

●生徒の活動の様子



マウイ到着 ホストファミリーのお出迎え



ハワイマウイ大学の壁画 カメハメハ大王



自分でデザイン・プリントしたTシャツを着て



マウイ高生に和太鼓を指南してもらう



はっぴを着て福の山音頭を披露



お別れ会でのゲーム じゃんけん列車



マウイ校ジャパニーズクラブの皆さんと



マウイ郡庁舎 福山市から贈られたバラの花

- 1 学年・教科等 希望者
2 日時 2017年(平成29年)10月14日(土)～17日(火)
3 担当者、招聘講師等 引率教員 2名(向井勝也、矢幡愛)
4 対象生徒等 中学校1～3年生 23名
5 本校ESDの観点 ■国際課題解決プロジェクト □地域課題解決プロジェクト □生き方在り方探究プロジェクト
6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

本研修の目的は、次の3点である。

- ①福山市の友好都市浦項市の家庭にホームステイをすることで、韓国の人々の生活や歴史文化に触れ、異文化、さらには自国の歴史文化に対する理解を深める。
 - ②生活の中で英語を使うことで、英語によるコミュニケーション能力の基礎を養う。
 - ③中学生に国際交流のための海外研修の機会をもうける。
- 以上の目的を達成するために、次のような研修方法を採用した。
- ①生徒に希望を取りながら大東中と連携し、ホストファミリーを決定する。
 - ②大東中において1日授業を受ける。
 - ③一般家庭にホームステイし、家族の一員として生活する。

7 内容の具体・展開の流れ

- 10月14日(土) 大東中においてホストファミリーと対面
ホストファミリー宅で終日過ごす
- 10月15日(日) 慶州石窟庵・仏国寺見学後ホストファミリーと過ごす
- 10月16日(月) 大東中で授業・部活動に参加
- 10月17日(火) 浦項・九龍浦見学

8 生徒の評価(感想など)

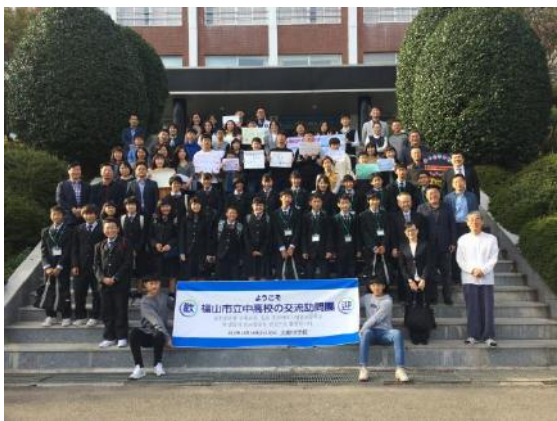
- とにかくみんな優しくかった。みんな歓迎してくれてうれしかった。でも、自分がバディーになった時は、こんなに話しかけたり、優しくしたりというのができなかったもので、申し訳なくなった。もし次に日本に来てくれた時は、部活をいっしょにしたいなと思う。わからない言葉ばかりだったけど、先生も生徒もみんなが通訳のアプリをスマホに入れて会話してくれたので、私はそれに英語で答えるだけで良かった。でも次に会うときは少しでも韓国語ができるようになったらいいなと思う。
- 言葉が通じにくいなかでも、みんな笑顔で優しく接してくれてとても楽しかった。英語の時間では、とくに自分の英語力のなさを感じた。自分は英語が苦手な、英文も早く読めないし単語も覚えにくいのもっと勉強するべきだなと思った。大東中の人にはオーバーに気持ちを表現してくれるので楽しんでくれていることがよくわかった。自分も気持ちをうまく表現できるようになりたいと思った。
- 一番強く思ったことは英語力の違いだ。同じ1年生なのに、向こうは少し考えながらもスラスラ話せていた。それなのに自分は声も自信がなくて小さかったし英語の文も多分ぐちゃぐちゃで…。伝えたいことがちゃんと伝えられないもどかしさを感じた。それと同時に自分が話そうとするのを優しく見守ってくれる優しさもたくさん感じた。母国語ではない1つの言語を介して話すのはとても難しいということを改めて感じさせられた。この経験を生かしてこれからの学校の授業に生かしていきたい。
- 今回の研修で、人は好きなことや嫌いなことが同じときにコミュニケーションをとることができ、友達になれるということも学びました。家に帰って、韓国での話をたくさんしました。辛い物を食べられるようになったし、洗濯も自分でできるようになったので母に「ちょっと成長した気がする」と言われて嬉しかったです。
- 今回の研修で学んだことは、まだまだ自分の力が足りないということだ。自分の目標は「世界で活躍する人になること」。しかし、英語でのコミュニケーションで難しいところもあったし、初めて会った時から積極的に話すことができなかった。いろいろな人たちのおかげでよい経験ができた。このことを生活で生かしていく。

9 成果と課題

【成果】本研修を通して生徒も教員も国際交流の重要性を感じることができている。

【課題】本年度以降の交流体制についてはどのようにするのか、検討していく必要がある。

●生徒の活動の様子



大東中でのホストファミリーとの対面



慶州石窟庵・仏国寺見学



大東中での授業に参加している様子



大東中での授業に参加している様子



大東中の音楽コンサートを見ている様子



カフェテリアにて



九龍浦で韓国の歴史を学ぶ様子



釜山にて韓国での最後の食事

ポハン生徒本校受け入れ授業例①（中学・理科）

文責 山下一朗太

- 1 学年・教科等 2年 理科
2 日時 2017年（平成29年）5月22日（月） 1, 2, 3限
3 担当者 山下 一朗太
4 対象生徒等 2-3 39名（+デドン中5名） 2-2 39名（+デドン中5名） 2-1 38名（+デドン中6名）
5 本校ESDの観点 ■国際課題解決プロジェクト □地域課題解決プロジェクト □生き方在り方探究プロジェクト

6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

本時の目的は、「モデルや化学式を用いた課題に韓国人留学生と協働して取り組むことで、国際課題解決に必要な積極性を養うことができる」である。2学年は理科の授業において、原子・分子をモデルで表すことや、世界共通である化学式について学習したばかりである。そこで、言語でのコミュニケーションが取りづらい韓国人留学生と、モデルや式を用いた課題に取り組みせ、英語以外にもコミュニケーションを取る手段があると伝えたいと考えた。

7 内容の具体・展開の流れ （授業は基本的に英語で行う）

(1) 導入（15分）自己紹介

- ①座席決めを行う（5班に分ける）
- ②両国がコミュニケーションをとる手段として、英語、ボディーランゲージ、図などがあることを確認する
- ③お互いに自己紹介をする

(2) 展開①（17分）絵描き伝言ゲーム（No.1 台風）

- ①絵描き伝言ゲームのやり方を理解する（班別対抗で連帯意識を高める）
 - ・ゲームをする ・各自がどんな絵を描いたかを班内で共有する
 - ・どんな絵を描いたかを教室全体で共有し、一つの事象を表すにもいろんな表し方があることに気付く

(3) 展開②（12分）クイズ（No.2 気体）

- ・ゲームをする ・各自がどんな絵を描いたかを班内で共有する
 - ・どんな絵を描いたかを教室全体で共有し、粒子モデルの有用性に気付く
- 言葉で伝える以外の方法があることに気付かせる声掛けを行う
○化学式が出てきた場合には、化学式が世界共通であることに触れる
- ・No.1 水素、酸素、二酸化炭素を韓国語に翻訳せよ
 - ・No.2 용해（溶解）を日本語に翻訳せよ

(4) まとめ○今日の感想を記述する

（写真は、용해（溶解）という用語を日訳するために、デドン中生が福山中生に説明をしている様子。）



8 生徒の評価（感想等）

（福山中）絵などを使って楽しく交流できたと思います。クイズでは、身ぶり手ぶりで答えを書けていました。

言語が違って、コミュニケーションがとれるんだと感じました。

（福山中）様々な視点から考え、伝えよう、伝えてくれようとしていて、楽しかったのと、団結できました。

（福山中）韓国の人も日本の人も分かるような世界共通なものがあるってすごいと思いました。

（デドン中）韓国での授業は、教科書を読んだりテストを受けたりすることが多いので、今日やった活動はとても面白かったです。また、日本の生徒は絵を使って説明するのがとても上手であることを学びました。

9 成果及び課題・改善策

- 成果① 通訳をお願いすることはなく、授業者も生徒も英語を用いた。英語を使わなければ課題が解決できないという状況の中で、多少の文法間違いは気にせずとにかく英語を使ってみようとする生徒が増えていった。
- 成果② 両国の生徒が協力をしなければ解けない問題を解く中で、「言いたいことを伝えたい」という思いが大きくなり、授業後半には、身振り手振りを使って主体的にコミュニケーションを取ろうとする生徒がみられた。
- 課題・改善策① 授業冒頭で自己紹介（自分のことをどのような呼んでほしいかや特技など）をワークシートに記入し班内で交流したが、ワークシートを読み上げるだけの活動となってしまった。
- 課題・改善策② デドン中の生徒は、中1から中3までいたようで、韓国の中1にとっては「溶解」という概念が未習ということになってしまった。韓国の生徒の既習内容を把握しておく必要がある。

ポハン生徒本校受け入れ授業例②（中学・総合的な学習の時間）

文責 山田健司

- 1 学年・教科等 3年 総合的な学習の時間
- 2 日時 2017年（平成29年）5月22日（月） 5～6限
- 3 担当者、招聘講師等 前田卓巳 高橋毅 山田健司 松枝美貴子 石川玲弥
- 4 対象生徒等 生徒119名（3クラス合同）とデドン中学校の生徒16名
- 5 本校 ESD の観点 国際課題解決プロジェクト 地域課題解決プロジェクト 生き方在り方探究プロジェクト
- 6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

めあては、「国際交流を円滑に行う」である。大東中の生徒と授業をする中で、お互いの言葉を越えて、交流できるのではないかと考えたからである。また、3学年として体育大会、修学旅行などの行事を控え、今回のこの機会を通して、リーダーの育成、他者とのつながりを育てていきたいと考えた。

7 内容の具体・展開の流れ

1. 開会行事
2. ジェスチャーゲーム
3. 借り人競争
4. ドッジボール
5. 閉会行事



8 生徒の評価（感想等）

- 今日の5、6時間目に大東中学校の生徒と交流しました。特にジェスチャーゲームが心に残っています。言語が通じなくても、ジェスチャーだけで通じることが分かりました。みんなで楽しむことができて思い出に残る授業でした。
- 今日の5、6時間目に大東中学校の生徒と交流会がありました。僕はバディーだったので色々大東中学校の生徒と話そうと思っていたけれど、何から話せばよいのか全く分かりませんでした。途中からは話せるようになったけれど、笑顔や身振り、手振りなどできないことがたくさんありました。今日のこの時間はコミュニケーションの大切さについて知らされました。
- 浦項の大東中学校とのレクリエーションは、忘れられない体験になりました。用意した英語を丸ごと使えなかったのですが、不慣れで不手際だったなりに臨機応変に対応できたし、困っている大東中学校の人や頑張っていた人とコミュニケーションがとれて、とても嬉しかったです。オーストラリア研修にもつながる、そして、修学旅行にもつながる「リーダー」という大きな役目をさせていただいて本当に嬉しく思います。また、応援も声がガラガラになるまで大東中学校の人と一緒に歌ったり円陣を組んだりできて、お互いの絆が深まりました。

9 成果と課題

- 成果は2点ある。1点目は国際理解、2点目はリーダーの育成である。国際理解については、競技を一緒に行ったり応援を行ったりするため、大東中の生徒と本校の生徒が交流する機会が多くあり、国際交流の観点からも多くのことを生徒たちは学ぶことができた。2点目のリーダーの育成については、この授業を行うにあたって、代議委員や生徒会などの今まで決まっていたリーダーではなく、3年生全体からリーダーやバディーを募集した。この選び方により、普段リーダーをやったことがない生徒もリーダーをやることができ、集団づくりの良い機会となった。リーダーたちが企画、運営を行う中で臨機応変に対応する態度や、リーダーの指示を受け行動する生徒たちにも自治、自律の力が身についた。
- 課題として、「積極的なコミュニケーション」が挙げられる。バディーだけではなく他の生徒たちの積極的な交流がもっとできて良かった。ドッジボールにおいては本校の生徒が自分たちが楽しむことに重点が置かれ、本来の趣旨である「おもてなし」の心遣いが足りなかった。
- 改善策
国際交流を行う前の事前学習をもっと行っておくべきであった。「おもてなし」の心遣いはもちろんのこと、言語や文化の違いなど、十分な知識を伝えておかなければならないと感じた。



(1)【事業報告】姉妹校との国際交流(希望者, 課外活動) ④マレーシア(H29, ディスカッション)

文責 上山晋平

- 1 学年・教科等 5年修学旅行「マレーシア高校生とのプレゼン&ディスカッション」(Haze)
- 2 日時 2017年(平成29年)10月2日(月)午前
- 3 担当者, 招聘講師等 高橋俊光(物理)・上山晋平(英語)
- 4 対象生徒等 生徒6名
- 5 本校 ESD の観点 ■国際課題解決プロジェクト □地域課題解決プロジェクト □生き方・在り方探究プロジェクト
- 6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

5学年の修学旅行ではシンガポール・マレーシアに行く。マレーシアの高校では、シンガポールとマレーシア両国で問題になっている煙害(Haze)について、現地の高校生とプレゼンテーションやディスカッションを行う。この取組を通して、生徒は課題解決力、英語での表現力を養い、さらには交流にとどまらずに「アクション」に踏み込む一歩進んだ国際交流となることをねらいとする。

7 内容の具体・展開の流れ

- (1) 4月～5月に5学年の実施する「夢チャレ」の活動の一端として、参加希望者を募る。
- (2) 参加確定者(6名)と担当教員(2名)でミーティングをしてねらいや今後の動きを確認する。
- (3) 生徒が Haze について「日本語」で情報収集をする(担当:高橋教諭)。
- (4) 8月に、名古屋国際中学校(サステイナブルスクール)との実践交流で Haze についてプレゼンを行う。
- (5) 修学旅行前(9月)に、5学年生徒と教員(約200名)の前で、Haze について20分間のプレゼンを行い、修学旅行でのディスカッション(全員参加)に備えて、Haze についての情報提供を行う。
- (6) マレーシアの高校とやりとりをして、当日の流れを決定する(プレゼン5分、ディスカッション15分)。
- (7) 9月に、修学旅行での「英語」プレゼンに向けて生徒が英語版のスライドを作成する。
本校 ALT の前で英語で Haze についてプレゼンとディスカッションを行い、英語表記等の修正を行う。
- (8) 当日全員が全員参加できるよう、「定義」や「関連公害等」について英語でまとめる用紙を配布する。
- (9) マレーシアの高校生と、英語でプレゼンとディスカッションを行う。
(流れ) ①両国プレゼン(各5分)→②全員でディスカッション(20分)→③両国まとめ(各3分)



(6名によるプレゼン)



(代表生徒のディスカッション)



(参加生徒同士のディスカッション)

8 生徒の評価(感想等)

- 修学旅行を通して一番英語を使ったのが、学校交流でのディスカッションだった。英語の即興力が必要とされ、最初は緊張したが、プレゼンをすることで普段通りに英語でコミュニケーションを取ることができた。
- 主に Haze のディスカッションが修学旅行の中でも印象的だった。「伝える」ということに関しては、文法が正しくなくても例えばジェスチャーを使ったり、自分の知っている単語をうまく伝えてみたり、工夫することで会話は続けることができた。また、自分が意見をまとめて発言したときには、なかなか即興での話は難しいなあと改めて感じた。特に「わかりやすく伝える」ということが難しかった。わかりやすく、かつ頭に残してほしいスピーチにする中で、すでに出ていた解決先を交えることができたのはよかった。

9 成果と課題

生徒から次のような成果と課題が出された。成果としては、「マレーシアの生徒と英語でのプレゼンが落ち着いてできたこと」、「楽しくコミュニケーションが取れたこと」であり、反省点としては、「ディスカッションの時に、もっと日本らしい日本の立場を強く反映したアイデアを準備しておけばよかったこと」と「発音やリスニングなどを鍛えてどんな英語にも対応できるようにすること」である。

● マレーシアの高校のプレゼンテーションで使用したスライドの例（生徒作成）

What is HAZE?

Air Pollution caused by Smoke from Fire

In Singapore

- Air Pollution is getting Worse
- Destruction of Respiratory System
- No School

Amount of CO2

In the past
emission = absorption

At present
emission > absorption

Palm Oil

In Malaysia

- Soccer games or marathon races can be canceled
- Infants can die

Land Development for Commercial Crops



Slash-and-Burn Farming

To clear the land for Industrial Sites and Building Sites

Mechanism of Peat Fire

- Develop waterways
- Ground water level is lowered
- Expand dry areas
- Ignite peat soil
- Fire spreads around the ground

Measures Towards Companies

- Do not buy products made by companies developing peat soil
- Do not invest in companies developing peat soil

Relation to Japan

Fire of Peat and Forest

Teguh Ganda Wijaya

Asia Pulp and Paper

Vegetable Oil

Ingredients: Dehydrated Corn Meal (Corn Meal), Tencos, Sunflower Oil, Rapeseed Oil, Soybean Oil, Palm Oil, and Rice Bran Oil, Vegetable Oil (Soybean Oil, Rapeseed Oil, Sunflower Oil, and Palm Oil), Sunflower Oil, Rapeseed Oil, Soybean Oil, Palm Oil, and Rice Bran Oil, Sunflower Oil, Rapeseed Oil, Soybean Oil, Palm Oil, and Rice Bran Oil, Sunflower Oil, Rapeseed Oil, Soybean Oil, Palm Oil, and Rice Bran Oil.

CONTAINS MILK INGREDIENTS.

Measures in Neighboring Countries

APP's Policy of Conserving Forests

- Declare not to fell natural forests
- Conserve peat soil
- Relationships with communities
- Purchase materials from third-party companies
- Plans of maintaining forests
- Assist in making renewable biofuel

Conditions in Singapore

(2018 Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries; Ministry of Finance)

Vegetable Oil	Domestic Oil Extraction	Importation	Total
Rapeseed Oil	1065	19	1084
Palm Oil	0	620	620
Soybean Oil	432	6	438
Palm Kernel Oil	0	82	82
Rapeseed Oil	64	33	97
Corn Oil	81	0	81
Olive Oil	0	80	80
Coconut Oil	0	52	52
Sunflower Oil	46	2	48
Sunflower Oil	0	20	20
Cottonseed Oil	4	4	8
Others	3	86	89
Total	1665	984	2650

Discussion Points

- What are environmental problems in your country?
- What can you do for the environment?

(1)【事業報告】姉妹校との国際交流(希望者、課外活動) ⑤マレーシア(H30, ディスカッション)

文責 柳浦達宏

- 1 学年・教科等 5年修学旅行「マレーシア高校生・大学生とのプレゼン&ディスカッション」
テーマ 「エビ養殖による東南アジアのマングローブ林・熱帯雨林の破壊と日本」
- 2 日時 2018年(平成30年)10月2日(火)午前
- 3 担当者、招聘講師等 柳浦達宏(地歴公民)
- 4 対象生徒等 生徒11名
- 5 本校ESDの観点 ■国際課題解決プロジェクト □地域課題解決プロジェクト □生き方・在り方探究プロジェクト
- 6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

5学年の修学旅行先はシンガポール・マレーシアである。マレーシアの大学・高校では、シンガポールとマレーシア两国を含む東南アジア全域で問題になっている「マングローブ林・熱帯雨林の破壊」について、現地の大学生・高校生と英語でプレゼンテーションやディスカッションを行う。この取組を通して、生徒は国際課題解決力や英語での表現力を養い、さらには交流にとどまらずに「アクション」に踏み込む一歩進んだ国際交流となることをねらいとする。

7 内容の具体・展開の流れ

- (1) 4月～5月に5学年の実施する「夢チャレ」の活動の一端として、参加希望者を募る。
 - (2) 参加確定者(11名)と担当教員でミーティングをしてねらいや今後の動きを確認する。
 - (3) 生徒が「エビ養殖」「マングローブ林・熱帯雨林の破壊」について「日本語」で情報収集をする。
 - (4) 修学旅行前(9月)に、5学年全員の前で、「エビ養殖とマングローブ林・熱帯雨林の破壊」について20分間のプレゼンを行い、修学旅行でのディスカッション(全員参加)に備えて情報提供を行う。
 - (5) マレーシアの高校とやりとりをして、当日の流れを決定する(プレゼン5分、ディスカッション15分)。
 - (6) 9月に、修学旅行での「英語」プレゼンに向けて生徒が英語版のスライドを作成する。本校ALTの前で英語でプレゼンとディスカッションを行い、英語表記等の修正を行う。
 - (7) マレーシアの高校生と、英語でプレゼンとディスカッションを行う。
- (流れ) ①両国プレゼン(各10分)→②全員でディスカッション(20分)→③両国まとめ(各10分)



8 生徒の評価(感想等)

- とても充実した活動ができたと思う。修学旅行を終えてもっと前に進みたいような思いがある。英語をどうしても使わなければならない状況になって、意外に英語を使うことに抵抗がなく取り組めた。国内での日本語を使った活動なら、こうした思いはもてなかつただろう。
- 今回のテーマで研究ができたのはとてもよかったと思います。私たちの日常生活に欠かすことができないエビやパームオイルが東南アジア諸国の、いや世界にとってとても貴重な熱帯雨林を破壊しながら生産されていることに初めて気づくことができました。そして、そうした環境破壊に対して、環境に優しく安全な食品を生み出そうと努力する企業や大学が身近にあることを知ることができ、自分ももっと頑張って社会の役に立つようにならなければいけないという気持ちになりました。

9 成果と課題

生徒から次のような成果と課題が出された。成果としては、ディスカッションの場では多くの生徒が大学生や高校生と英語を介してコミュニケーションがとれていたこと。反省点としては、まだまだ、コミュニケーション力が十分ではなかったということ。日頃の学習にもっと積極的に取り組まねばならないこと。

●マレーシアの高校のプレゼンテーションで使用したスライドの例（生徒作成）

Destruction of Mangrove Forests

Roles of Mangrove Forests

- Natural breakwater
- Remove contaminant
- Protect wild animals and fish
- Suction of CO₂
- Fisheries
- Prevent desertification
- Medicine
- Lumber

If Mangrove Forests Disappear ...

- CO₂ Cause
- Salinity concentration Rises
- Soil become acidity or alkalinity
- Decrease of sea grass
- Decrease of Marine products
- Erosion of shoreline
- Soil get worse

The Present Circumstance of Mangrove

- World: decreased more than 1/3 (1980~1990)
- South-East Asia: decreased 2% : about hundred thousand hectares (2000~2012)
- Thailand: decreased 63% (1978~1988)
- India: decreased 80% (21 century)
- Malaysia: decreased 12% (1980~1990) and decreasing about 1% year by year



The Variation of Mangrove Forests in Vietnam



Mangrove Preservation Activity



mangrove forests in Langkawi Malaysia

RICOH.co.LTD's Project

- The preserving project in Kuala Selangor (2011)



PARCIC・PIFWA's Activity

- They started planting activity from 2010.



Planting mangrove

What are Destroying Mangroves?


especially this!

- Aqua farming
- Oil palm plantations
- Rice cultivation

Mangrove live in both of land and sea.

2 kinds of Aquaculture

- extensive aquaculture
It's a traditional method of aquaculture. We can use ponds effectively.
- intensive aquaculture
A lot of shrimp are raised in one pond. Producers add chemicals in their feed. It made soil bad and we can't use the ponds forever.



Result

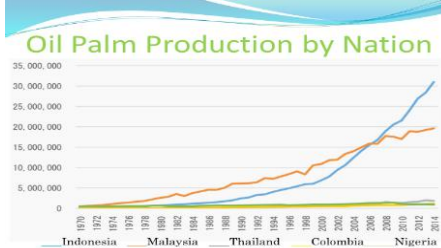
- In Thailand...100 million hectares of mangrove forests are destroyed.
- In Southeast Asia...30~50% of mangrove forests are destroyed.



Oil Palm Plantation


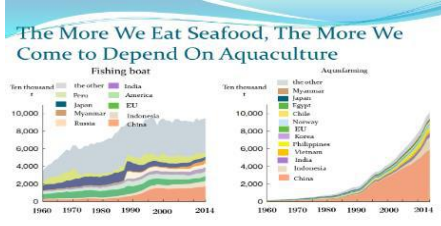
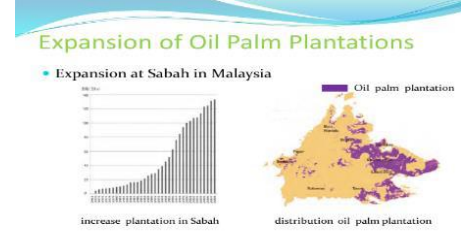


- Foods (chocolate, snacks, ice cream, and so on)
- Others (soap, paint, cosmetic, and so on)



Damage of Oil Palm Plantations

Oil palm plantations are built in the areas where mangroves were cut.
2 million hectares of tropical rain forest were cut in 30 years after 1963.





World


Consumption of shrimp → increasing
Background: many people interested in fish dishes
technology for importing fish developed

<the main consumption>

- China
- America
- Japan



Indoor Shrimp Farm



It is environment-friendly.

MSC・ASC



RSPO: Roundtable on Sustainable Oil




(2)【事業報告】海外ボランティア活動（SYD、課外活動）

文責 上山晋平

- 1 学年・教科等 4・5年 総合的な学習の時間及び生徒の自主的な活動
(SYDと連携した「国際交流・国際貢献」活動)
- 2 日時 通年実施(ボランティア・アクション in フィリピンは2017年(平成29年)8月実施)
- 3 担当者, 招聘講師等 上山晋平(教育研究部)
- 4 対象生徒等 生徒4名(講演会は学年全員参加)
- 5 本校 ESD の観点 ■国際課題解決プロジェクト □地域課題解決プロジェクト □生き方在り方探究プロジェクト
- 6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

本校では、ESDの3プロジェクトの一つに「国際課題解決プロジェクト」を設定し、総合的な学習の時間や生徒の自主的な活動として、文科省所管の社会教育団体・SYDと連携して、国際課題の解決に係る事業を実施している。主な事業は以下の5つである。①SYDの講師によるフィリピンでの支援活動に関する講演を聞く。②生徒同士で可能なアクションを考える。③文化祭で支援物資の呼びかけ及びSYD活動内容の発表をする(有志)。④代表生徒がSYDのボランティア・アクション in フィリピンに参加し、支援物資を届ける。⑤学年集会や市主催のイベントで活動を発表する。なお本校からは、フィリピンでの活動に4年連続で参加している。

7 内容の具体・展開の流れ

(1) SYDの講師によるフィリピンでの支援活動に関する講演を聞く

4年生は2月の総合的な学習の時間で、SYDの青木講師から、フィリピンの貧困地区における支援活動について講話を聞き、「国際交流」と「国際貢献」(ボランティア活動)について考え、生徒がアクションを起こすきっかけとする。世界の貧困について知るだけでなく、考え、自分たちにできることを「行動する」ことにつなげる。

(2) 生徒同士で可能なアクションを考える

生徒は講演後に感想文を書き、さらに自分なりに何ができるのかを付箋に書き出しクラスでまとめた(画像参照)。

(3) 有志が文化祭で支援物資の呼びかけ及びSYD活動内容の発表をする

6月の文化祭では、ボランティア部や有志が中心となって、SYDの活動を紹介するポスター掲示を行ったり、フィリピンに届ける支援物資を学校全体から回収したりする取組を行った(次項参照)。

(4) 代表生徒がSYDのボランティアアクション in フィリピンに参加し、支援物資を届ける(次項参照)

8月にはSYDが全国から募集し実施するボランティア・アクション in フィリピンに、本校生徒4名が応募し、選ばれる。学校全体で回収した物資を支援物資に入れて届けたり、現地の子どもたちと交流したりした。

(5) 学年集会や福山市主催の人権・平和フェスタで活動内容を発表する。

フィリピンでのボランティア活動に参加した生徒が、学年全員の前で総合的な学習の時間で活動内容を報告した。さらに、市から依頼で、人権講演会でも取組を発表した。



ボランティアに参加するだけでなく
そこで体験したこと、学んだことをみんなに
伝え、みんなの「きっかけ」になること。

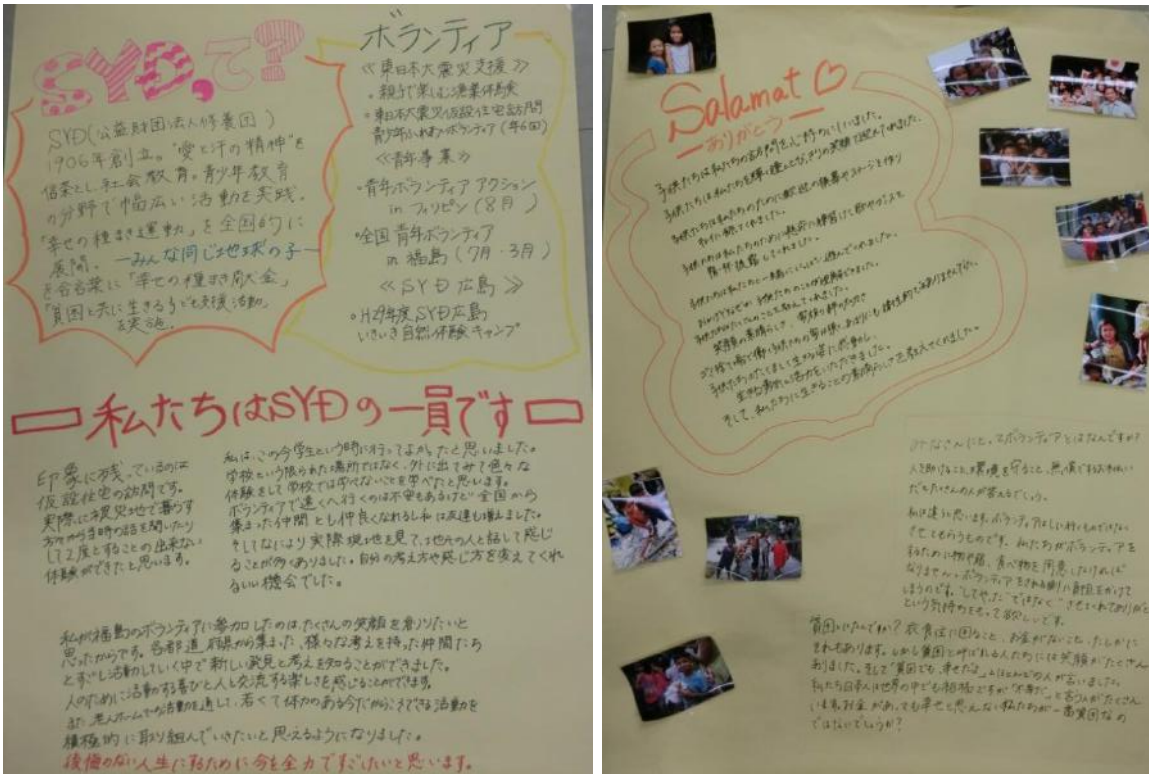
8 生徒の評価(感想等)

- 私が考えたこともないような暮らしをしている人々が世界にはたくさんいる。私は今日、この事実を改めて知りました。ストリートチルドレン、死を待つ人の家、ゴミ捨て場で働く子どもたち、どれも衝撃的でした。正直「かわいそう」という気持ちが大きすぎてつらかったです。でも、この子どもたちは必死で生きています。そんな立派な彼らの姿を見て、自分が情けなく恥ずかしいとさえ思いました。●●さんの発表で、●●さんが言っていた「ボランティアの目的はボランティアがなくなること」という言葉、これが私の心に響きました。一人一人が協力して、みんなが助け合おうという気持ちになったら、全員に未来が訪れるのではないかなと思います。

9 成果と課題

- 世界の状況は「知る」ことがまず必要である。その意味では、SYD講師による心に響く講演と参加生徒による体験談がとても大きな影響を与えた。しかし、聞くだけでは時間と共に記憶は風化する。そこで「生徒が動く」につなげるために、「ボランティア部」やESDの取り組みと関連させて、できることを全員が考える取り組みを行った。付箋は全クラス及び図書館に掲示し、全校生徒での支援物資の回収行動につながった。
- 5学年の「夢チャレ」の取組もあり、フィリピンや福島でのボランティア、広島や小豆島での小学生リーダーなどのイベントにも多くの生徒が参加し、体験的に学びを深めている。

(1) 文化祭での生徒作成ポスター



(2) ボランティア・アクション in フィリピン (参加生徒感想文) ~ 「私が泣いた理由」

私は、8月終わりの一週間をフィリピンで過ごした。その一週間は、今までの私の人生の中で、一番楽しくて刺激的だった一週間であり、一番後悔して悔しい思いをした一週間になった。

私は毎日、日本から一緒に来た仲間たちと一緒に、フィリピンのいろいろな所へ行って、家や学校などを訪問し、現地の方々や子どもたちと交流したり、物資や食べ物を配ったりした。ナボタス、ハッピーランド、サンマテヨ、旧スモーキーマウンテン、パヤタス、そしてマザーテレサの施設。フィリピンの人たちは皆優しく、どこへ行っても歓迎してもらえた。特に子どもたちは、どの子も皆笑顔で寄ってきてくれたり、遠くからでも私たちに手を振ったりしてくれた。子どもたちと交流するときは、英語が話せない子が多かったため、言葉を使う以外の方法でコミュニケーションをとらなければならなかった。だから、何を伝えたいのか正確に理解してあげることが出来なかったが、一緒に遊んで一緒に楽しむことは出来た。抱っこしてあげたり、ハイタッチしたり、鬼ごっこをしたり。子どもたちは、言葉の通じない私たちにもキラキラまぶしい笑顔で笑って、全力で遊んでくれた。全身で楽しんでいることを伝えてくれた。言葉がなくても仲良くなれたことを実感した時は、とてもうれしかった。子どもたちと笑いあうことに幸せを感じていた。

でも、5日目。パヤタスに住む女の子たちと一緒に遊園地で遊んだ時のことだった。帰りの集合時刻が迫ってきている頃、私は一緒に遊んだ1人の女の子に、「楽しかった？」と聞いてみた。私は、今までの子がそうであったように、きっと「楽しかったよ!」と言ってもらえると思っていた。でも、その女の子は笑顔で「NO!」と言った。私はすごくショックだった。彼女は笑顔で答えたので、もしかしたら、私の英語が拙くて、他のことを聞いたように聞こえたのかもしれない。もしかしたら、イタズラ心で思っていることと逆のことを言っているのかもしれない。けれど、もし「NO!」が本心だったらと思うと、怖くて「NO!」と答えた理由を聞くことは出来なかった。

その日の夜、私はフィリピンに来てから毎日つけてきた日記を読み返してみた。すると、日記の終わりには必ず「明日はもっと頑張ろう」といった内容が書いてあることに気づいた。私はもっと頑張れたのではないだろうか。そうしていたら、もっと何かしてあげることが出来たのではないだろうか。もっと行動を変えていけば、「YES!」と言ってもらえたのかな。もし他の子も心の底では「楽しくなかったな」と思っていたら。私は一緒にいる子たちをどのくらい幸せにしてあげられたら。考えれば考えるほど不安になったし、1日中一緒にいた子すら幸せにしてあげられなかったのかもしれないと思うとすごく悔しくて、自分がとても情けなく感じた。

次の日の夜は、評価会があった。1人1人前に出て感じたこと、思ったことを発表していった。多くの人が、幸せについての自分の意見や、誰かを笑顔に、幸せに出来た体験などを語った。私はそんな皆をとても羨ましく思った。私もフィリピンの人たちからたくさんの幸せをもらったけれど、2倍以上のもの、そもそももらった分の幸せを返せたか…自信がもてなかったからだ。とても、とても悔しかった。だから私は、自分の番が回ってきて、皆の前に立って話したとき、今までの記憶とそれらの思いが頭の中でごちゃまぜになってしまって、涙がボロボロ出てきた。

私は「幸せ」とは何か、「愛」とは何か、まだわからない。知らないものは怖いから、早く答えを見つけないといけないけれど、私は、焦らずゆっくり自分の長い人生の中で、「これだ!」と思う答えを探していく。誰かの受け売りじゃなく、一番納得のいく自分の言葉で。

そして、私はいつかもう一度あの女の子と一緒に遊園地に行きたい。今度こそ「楽しかった!」と言ってもらうために!

(3)【事業報告】 模擬国連 (ICC 等有志, 特別活動)

文責 藤田憲弘

- 1 学年・教科等 高校生 希望者
- 2 日時 夏休み前後～11月
- 3 担当者, 招聘講師等 藤田 憲弘
- 4 対象生徒等 希望者及び情報収集サポーター (2～4名程度)
- 5 本校 ESD の観点 ■国際課題解決プロジェクト □地域課題解決プロジェクト □生き方在り方探究プロジェクト

6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

模擬国連は、世界の様々な課題に対し生徒が国連大使を演じながら、参加国での合意形成をめざしていくプログラムで、そこでは、課題に対する分析力や、合意形成にいたる交渉力、英語力など多くの力が必要とされる。本校では、国連大学(東京)で行われる全日本高校模擬国連大会に、第11回大会を含めて4回出場しており、この大会出場を核に、様々な取り組みを行ってきた。

7 内容の具体・展開の流れ【参加した全日本高校模擬国連大会】

- 第6回 全日本高校模擬国連大会 (担当国: インド/テーマ: 核軍縮に向けて)
- 第9回 全日本高校模擬国連大会 (担当国: アルゼンチン/テーマ: 移民問題)
- 第10回 全日本高校模擬国連大会 (担当国: キューバ/テーマ: サイバースペースのルールづくり)
- 第11回 全日本高校模擬国連大会 (担当国: マレーシア/テーマ: ジェンダーフリー)

8 生徒の評価 (感想など)

- 模擬国連の取組の中で最も変わったのは、「授業を聴いていても単なる受け身でなく、反論したいという気持ちがあわくようになった」ことです。(湯崎知事とのチャレンジトークにて)

9 成果と課題

模擬国連の取組は膨大で、時間がない中で成果を挙げるには多くの工夫が必要となる。いくつか記す。

(1) 模擬国連活動の広がりに向けて

①出場者だけでなくサポーターの募集

- ・大会に向けて膨大な資料収集が要求される。そこでサポーター生徒を募集し、資料作りに参加させる。サポーター生徒は、下の学年にも呼びかけ、本大会へも見学者として連れて行くことで、取り組みを持続させる。

②校内模擬国連の開催

- ・本校には、大学での模擬国連活動で活躍したOBもいて、その方の指導の下、文化祭で校内模擬国連を過去2回行った。中高校生に加え近隣の大学生にも呼びかけ、模擬国連活動の普及活動を行った。

③核となる部活動の設置

- ・「英語研究部」は、英語によるコミュニケーションだけでなく、国際問題への取り組みや多文化理解などを含めた部にすべく、平成29年度からICCに変更し、国際問題に興味を抱く広い人材を集めようとしてきた。

*●I:Ichiritsu International ●C:Communication Cross Culture Cooperation ●C:Club

④全日本大会以外の模擬国連への参加

- ・今年度は、8月に東京で希望者を対象とした教育模擬国連が行われた。本校5学年生徒10名も、OBによる事前指導等を受けて、この大会に参加し、そのなかから全日本大会への出場者も出すことができた。
- ・広島県内でも、様々な模擬国連が開かれており、ICCを中心に希望生徒が広島での各種大会に参加している。

(2) 校外とのつながり

①大学とのつながり

- ・第6回大会: 担当国の専門である広島大学大学院の吉田修教授から、事前学習会で数度指導いただいた。
- ・第9回大会: OBのつながりから、関西の大学での模擬国連研修に参加しアドバイスをいただいた。
- ・第10回大会: 福山市立大学の上別府隆男教授から指導いただいた(資料収集, 大学生の校内模擬国連参加)。

②他の高校とのつながり

- ・第10回大会から、灘高校での勉強会に参加させていただいた。その後も生徒はSNSで交流している。

③その他の機関とのつながり

- ・第9回大会では、担当国であるアルゼンチン大使館へ連絡し、メールで情報のやりとりを行うとともに、大会出場前日には、大使館を訪問し、領事の方から2時間にわたる英語でのレクチャーを受けることができた。

第 10 回全日本高校模擬国連大会

昨年に続き、3 回目の出場となりました。

今年は、事前に灘高校での研修会にも招待され、毎夜、資料と格闘して臨みました。

今回のテーマは、サイバースペースにおける安全保障問題でした。キューバ大使を演じ、公式スピーチでは、各国が内向きにならないよう交渉の門を開くことの重要性を訴えました。

予選を勝ち抜いて出場したのは、5 年生 1 組の田林佳純さんと宮崎美風さんです。2 日間にわたる延々とした会議を知力・体力とコミュニケーション力をフル活用して乗り切りました。

4 年生有志（4 組・松本和子さん 6 組・佐藤瑠楓さん）もオブザーバーとして参加し、来年度へ向けて研修を積みました。

最優秀校には、渋谷教育学園幕張高校と灘高校が選ばれました。



国連大学は、東京・青山にあります



キューバ国連大使



各大使 2 分の英語での公式スピーチ



本校生徒作成：公式スピーチ（キューバ大使役）

Thank you (Honorable), chair.

Next year, 50 years will have passed since Che Guevara died. 57 years ago, they did their best to make a and non-disparate society. Their dreams are not only legacies of the past; they are still the hopes of people in our country, Cuba, and the people of the world. Recently, I saw the news that young people in Europe did a demonstration by hanging up the picture of Guevara. Their anger is about present day disparate societies.

And, this gap exists in cyberspace as well. This gap must not be allowed to be used by technologically advanced countries to gain political or economic advantages over technologically developing countries.

If ICT technology is used as a new tool of exploitation, we flatly refuse that offer.

Now a lot of cyber-attacks cross our borders, we can't keep this unstable ICT environment in our technologically developing countries because it will be a terrible threat to world peace. But, we think technologically developed nations already know this.

Cuba opened our border to our neighbor last year. On the other hand, some developed countries made the big decision to close their borders this year. We hope that this tide will not be an obstacle of happiness and peace.

For world peace, for the happiness of every national citizen, and for the sake of making the correct decisions, let us continue an open and friendly dialogue.

(4)【事業報告】第10回全国高等学校観光選手権大会（観光甲子園，ICC有志）

文責 新宮正一

- 1 学年・教科等 5年 「夢チャレ」観光甲子園海外部門での発表
- 2 日時 2018年（平成30年）8月23日（木）午後
- 3 担当者，招聘講師等 新宮正一（地理歴史）
- 4 対象生徒等 生徒2名
- 5 本校ESDの観点 ■国際課題解決プロジェクト □地域課題解決プロジェクト □生き方・在り方探究プロジェクト
- 6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

「観光甲子園」は平成30年度で10度目をむかえる全国規模の大会である。従来は地域におけるインバウンドに対する観光プランの発表であったが，平成30年度から「ハワイ移民150年」を記念して海外部門が設立された。これはハワイに関するスピーチコンテストであり，優秀なスピーチ・プレゼンが全国大会へ参加できるといものである。

今回は，参加生徒の高祖父（祖父母の祖父）がハワイへ移民しており，残された高祖父の写真から高祖父や日本人移民の足跡を旅するというスタディツアーを企画することになった。この一連のスピーチ・プレゼンを作成する時に，様々な資料を収集し，関係各所にメールで問い合わせを行う必要がある。特に今回の場合は，ハワイが対象であったために「ワヒアナ広島県人会」や「ドールプランテーション農場」などに英語でメールを送って取材・写真などの使用許可をいただいた。これらの実践的な国際交流過程を通して，生徒は課題解決力や英語での表現力を養うことができた。

7 内容の具体・展開の流れ

- (1) 4月～5月に5学年が実施する「夢チャレ」の活動の一端として，参加希望者を募る。
- (2) 本事業担当者と参加者が今後の方針について話し合う。
- (3) 生徒がハワイの関係各地に「英語」で情報収集をする。
- (4) 6月に「観光甲子園・海外部門」に応募する。
- (5) 7月に「観光甲子園・海外部門」の本選出場が決定する。（場所：神戸）
- (6) スピーチ原稿・プレゼンテーション資料の作成を行う（プレゼンテーション10分間）。
- (7) 8月23日 神戸ポートオアシスで第10回全国高等学校観光選手権大会が開催される。
海外部門で本選出場3組のうち最優秀としてグランプリを獲得する。



8 生徒の評価（感想等）

- ハワイの歴史について調べてみました。私の高祖父がハワイでパイナップル栽培をしていたので、「日系移民」をテーマとしてレポートを作成しました。今回の取組を振り返ってみて，今まで移民について少しは触れたことがあったけど，「日系移民」という絞られたターゲットについて調べるのはこれが初めてでした。私の高祖父の歴史について知ることが出来てよかったです。

9 成果と課題

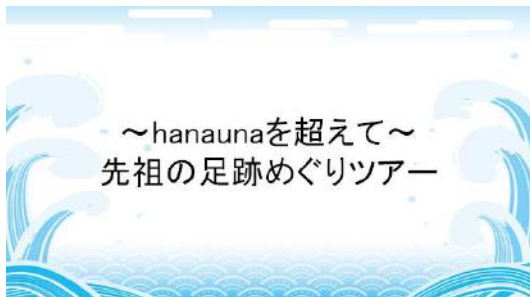
- （成果）成果としては，リサーチや取材を英語で行うことができたことが挙げられる。プレゼンテーション資料で使用する写真等の著作権関係に関しても学ぶことができたのはよかった。日系移民の歴史を生徒のファミリーヒストリーを通して学ぶことができ，共有できたのも非常に評価できる。
- （課題）一方で，こうした取組を一過的なものにしてはならない。今回は偶然に生徒の高祖父の話があって，一定の課題意識をもってリサーチ・プレゼンテーションを行うことができたが，こうした取組の裾野を拡大していくためには，もっと広く情報を提供していく必要があると感じる。

●観光甲子園のプレゼンテーションで使用したスライドの例（生徒作成）



広島県人会の方々から学んだこと

- ・ハワイまでは船で一週間、**無料**で行った。
- ・多くの労働者たちは、県や市、町、寺などから**支援**を受けていた。
- ・農園労働者たちは、**69セント～1.5ドル**を一日で稼いだ。
- ・一ヶ月に**26日働き、12時間**工場で働くか、**10時間畑**で働いた。
- ・お盆に盆踊りをするなど、今も尚ハワイで**受け継がれている日本の文化**がある。



III 生き方・在り方探究プロジェクト

(1)【事業報告】自分発見学習(中1, 総合学習)

文責 矢幡愛

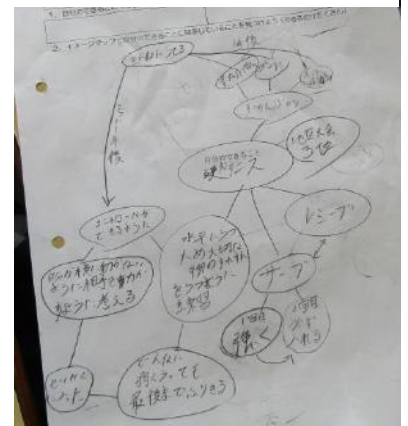
- 1 学年・教科等 1年 総合的な学習の時間 「自分のよさをみつけよう」
- 2 日時 平成29年度 前期(1学期)
- 3 担当者, 招聘講師等 1学年教員(矢幡愛, 有本一哉, 瀧元美菜子, 妹尾進一, 山下一朗太)
- 4 対象生徒等 1学年生徒120名
- 5 本校ESDの観点 国際課題解決プロジェクト 地域課題解決プロジェクト 生き方在り方探究プロジェクト
- 6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

本単元は、本校中学校の開校当初から設定したものである。自分の得意なことを再発見し他の生徒に発表したり、クラスメイトがどんな良さを持っているのかを互いに知ったりすることを通して、生徒の自己肯定感や協働性を高めることをねらいとしている。福山市の様々な小学校から入学してきた生徒同士の関係づくりも視野に入れながら、個人やペア、グループ、クラス全体と授業形態をさまざまに取り入れながら学習を行った。また、教員同士のめざす生徒の共有化を図るため、単元を始める前に授業で毎時間使用するルーブリックを作成した。生徒にも配布できるように簡単な言葉を使い、いつでも確認できるようにファイルさせた。これをもとに毎時間の目標設定や自己評価やふりかえりを実施した。

7 単元の流れ

- (1) オリエンテーション: 1年間の学習の流れ、本単元の流れの確認(1学年全体)
- (2) 自分が現在できることを書き友達と交流する。ルーブリックを使い、自己分析する。(グループ)
- (3) 究極のプレゼンを動画(TED)で見る。(学年全体)
- (4) イメージマップで自分の新たな面を見つけ、交流する。(グループ)
- (5) 自分のよさ(得意なこと)を絞り、発表の大まかな構成を作り交流する。(グループ)
- (6) 自分のよさ(得意なこと)を1枚の画用紙に表す。下書きの相互評価をする。(ペア)
- (7) 発表原稿をもとにプレ発表し、相互評価をする。(グループ)
→原稿の修正をする。
- (8) クラス内で発表を行い、相互評価をする。(全体)
- (9) 相互評価をもとにクラス内のベストプレゼンターを3名決め、発表する。(学年全体)
- (10) 本単元のふりかえりをする。

生徒が書いたイメージマップ



8 生徒の評価(感想等)

- 自分たちで単元の計画を立てたり、1時間の目標を考えたりするのは難しかったけど、だんだん慣れてきてできるようになるんだなあと思いました。
- みんなの発表を見て、小さいころから頑張っていることとかあって、すごいと思いました。自分も良いところをたくさん見つけて頑張りたいです。
- ▲計画を立ててもうまくいかなかったです。時間配分に気をつけたいです。

総合係が授業を進めている様子



9 成果と課題

- ふりかえりにおいては、ほぼ全員が肯定的な感想を書いていた。
- 他の生徒の発表を見ることで、自分の発表の改善策を考えていた。
- ルーブリックの作成で、教員同士や教員と生徒の間での「つきたい力」の共有化が図れた。
- ルーブリックによって生徒に主体性が生まれた。
- ▲課題設定が少し弱かった。もう少し早い段階で単元の意味づけ(必要性)をしておくべきだった。
- ▲生徒が得意なことを自分の強みにしたいと思えるような展開にできなかった。

●ワークシートや実施要項等

ループリック

「自分のよさ（得意）を見つけよう」の単元でのICEモデルループリック

つきたい力	I (ideas)	C (connections)	E (extensions)
1. 活用・表現力	1-I 特技を発表するための適切な方法を知ることができる。	1-C プレゼン技術や友人からのアドバイスを自らのプレゼンに生かすことができる。	1-E 特技を最大限に発揮するための方法を選択し、効果的なプレゼンをすることができる。
2. 自他の尊重	2-I 自他の特技を知ることができる。	2-C 自他のよさ・改善点を見つけることができる。	2-E 友人から言われた改善すべき点を受け入れ、よりよいものを作ることができる。
3. チャレンジ精神	3-I やったことがなくても興味を持つことができる。	3-C 他者から新しい刺激（アイデア）を得ることができる。	3-E 自ら新しく挑戦することを見出し、提案できる。

計画表（一部抜粋）

2. 予定を立てよう（計画表の作成）

4/25 (火)	①	生徒がここに計画を書き込む。
	②	
5/2 (火)	①	
	②	
5/9 (火)	①	
	②	
5/16 (火)	①	
	②	
5/30 (火)	①	
	②	
6/6 (火) (予備)	①	
	②	
6/13 (火) (予備)	①	
	②	

※一樹祭・・・6/16 (金)・6/17 (土)

(2)【事業報告】夢チャレ(高2, 課外活動)

文責 上山晋平

- 1 学年・教科等 5年 総合的な学習の時間「夢チャレ」
- 2 日時 2017年(平成29年)4月～平成30年3月
- 3 担当者, 招聘講師等 上山晋平(教育研究部)ほか 5学年所属教員
- 4 対象生徒等 生徒178名(5学年生徒)
- 5 本校ESDの観点 ■国際課題解決プロジェクト ■地域課題解決プロジェクト ■生き方・在り方探究プロジェクト
- 6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

5学年が行っている「夢チャレ」とは、生徒それぞれが自分の夢を叶えるために(学校の枠組みを超えた活動に挑戦し、その体験や学びを報告し合うことで、今後大きく変化する時代(AI時代)に必要とされる「学力+α」の力(資質・能力)を高め合うことを目的として行う活動である。「学力+α」の力とは、次を想定している(高大接続改革答申と次期学習指導要領より)。①知識・技能+②能力(思考力・判断力・表現力等)+③資質(学びに向かう力、人間性〔主体性・多様性・協働性等〕)

7 内容の具体・展開の流れ

(1) 4年次3学期

- プログラムの準備(プログラム内容, レポートの体裁の検討)
- 学校長による講話(変化の激しい社会に必要な資質・能力の育成について)

(2) 5年次5月

- 「夢チャレ」ガイダンス(なぜこのような活動が必要なのか)
- 「参加プログラム希望アンケート」 ●名称募集
- 「夢チャレ」の取組のポイント

- ①全員がこの1年間でいずれかのプログラムに参加する(進路に関係するものや強い動機があるもの)。
- ②以下のプログラム以外でも、自分が参加したいものへの参加は可能(むしろ強く奨励, 自分で申し込む)。
- ③活動「終了後一月以内」にレポートを担任に提出する。(可能なら「夢チャレ」にも記録, 入試で活用可)。
- ④学期に1回ずつ, それぞれが外で学んだことを学年集会等で発表して全体で学びを共有する。

(3) 各自が必要な申込等を行い(学校が行うものもある), プログラムに参加する。

(4) 各自がレポートを担任に提出する(プログラム終了一月以内)。

(5) 各学期で, 夢チャレ成果発表会を行う(1組5～10分程度で学びについてプレゼンする)。



8 生徒の評価(感想等)

- それぞれの活動で, いろいろ学べることがあるんだなと思いました。自分はすでに物理チャレンジの活動をしました, 自分の視野を広げるために他の活動もしてみたいと思います。いろいろ探してみます。
- 外国では, 異文化を学び, いろいろな体験を「夢チャレ」でできることがわかったので, 海外修学旅行では実際に自分自身で異文化について学んでいきたいと思った。市立大学との高大連携事業やSYDの活動は, 何をやるものなのか分かっていなかったから, 今回の体験談を聞いてどのようなことをどのような目的で行っているのか理解することができた。また, これからの夢チャレの体験をしっかりと人に発信できるくらい自分から積極的に話を聞いたり活動したりしていきたい。
- 今まで外国に行ったり, ボランティアに参加したりすることはめんどくさくてやりたくないと思っていたが, 今回いろんな人の体験談を聞いて, 積極的にやってみようかなと思えました。

9 成果と課題

【成果】①学校設定の「資質・能力」の平均は全て向上(合計で伸びた人は138名/178名中で73.8%)している(詳細は別ページ参照)。②活動履歴と学びの蓄積(レポート)がある程度できている。③学びの発表会(プレゼン)が効果的に実施できている。④夢チャレにより「身についた資質・能力」(生徒自由記述より): チャレンジ精神, 自他の尊重, 注意力, 奉仕, 忍耐力, 創造性(工夫), 社会の変化, 視野の拡大, 言葉遣い, 表現力, 積極性, 導く力, 思考力, 協働性等

【課題】①未体験者が10月末現在で8名いる(2学期中に全員実施目標)。②活動履歴や学びのデジタル化を進める。③全活動での資質・能力の意識化が必要である。

【重要】平成29年度5学年「夢チャレ」について
～「学力+α」が必要とされる時代に～

平成29年4月10日
教育研究部

- 1 目的
夢を叶えるためにチャレンジし、今後の変化する時代 (AI時代) で必要とされる「学力+α」の力を付ける
●知識・技能 ●思考力・判断力・表現力等 ●学びに向かう力、人間性 (主体性・多様性・協働性) 等

- 2 教育改革の流れ (ポイント整理)
(以下の画像) 中央教育審議会「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」～すべての若者が夢や目標を達成し、成果に花開かせるために～(第1号)平成29年12月22日

①未来を具現化して「待ったなし」の教育改革の必要性 (上記参考p.1)

生産年齢人口の急減、労働生産性の低迷、グローバル化・多様化の潮流に接された新しい時代を迎えている我が国においても、世の中の流れは本人が覚悟するよりも早く、将来は職業の在り方も様変わりしている可能性が高い。そうした変化の中で、これまでと同じ教育を続けているだけでは、これからの時代に運用する力を子供たちに育むことはできない。
この激しい時代を乗り越え、子供や孫の世代に生きる国民と我が国が、希望に満ちた未来を歩めるようになるため、国は、新たな時代を見据えた教育改革を「待ったなし」で進めなければならぬ。

②育むべき力 (p.2)

子供たちに育むべきような力を言い換えるならば、それは「豊かな人間性」「健康・体力」「確かな学力」を総合した力である「生きる力」にほかならない。

③「生きる力」を構成する「①豊かな人間性」「②健康・体力」「③確かな学力」(p.6～7)

①豊かな人間性	<ul style="list-style-type: none"> □国家及び社会の責任者として必要な教養と行動規範を身に付ける □国、地域社会、国際社会等において主体的に活動する力を鍛錬する
②健康・体力	<ul style="list-style-type: none"> □社会で自立して活動するために必要な健康・体力を養う □自己管理等の方法を身に付ける □社会的役割を果たすために必要な肉体的、精神的能力を鍛錬する
③確かな学力	<ul style="list-style-type: none"> □「学力の三要素」(を社会で自立して活動するために必要な力)という観点で捉え直したもの) <ul style="list-style-type: none"> □知識・技能 (基礎力) □思考力・判断力・表現力等 (知識・技能を活用して、課題を発見し解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な能力) □主体性・多様性・協働性 (主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

【注】新学習指導要領の「学力の三要素」は「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」

④上記①～③のすべてを向上させる (p.9)

「高大接続」改革は、知識・技能の習得を無視する改革ではないという点も重要である。「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」のすべてを十分に向上させることを目指すものであり、改革によって高校生、大学生が身に付けられるようになる力は、十分な水準の知識・技能はもちろんのこと、自分で目標を持つ他者と協力しながら新しさを成し遂げていく力でも含むものである。

⑤個別選抜でどう評価するか (p.12)

具体的な評価方法としては、下記②に示す「大学入学者希望者学力評価テスト(仮称)」の成績に加え、小論文、面接、集団討論、プレゼンテーション、調査書、活動報告書、大学入学希望理由書や学習計画書、資格・検定試験などの成績、各種大会等の活動や顕彰の記録、その他受験者のこれまでの努力を証明する資料などを活用することが求められる。「確かな学力」として求められる力を的確に把握するためには、こうした多面的な評価尺度が必要である。各大学はその教育方針に照らし、どのような評価方法を組み合わせて選抜を行うかを、応募条件として求める。「大学入学者希望者学力評価テスト(仮称)」の成績の具体的提示を含め、アドミッション・ポリシーにおいて明確に示すことが求められる。

3 関連プログラム例

- ①5学年全員がこの1年間でいづれかのプログラムに参加する。(進路に関係するものや強い動機があるもの)。
②以下のプログラム以外でも、自分が参加したいものへの参加は可能(むしろ強く奨励、自分で申し込む)。
③活動「終了後」一ヶ月以内にレポートを担任に提出する。(可能な限り「夢チャレ」にも記録、入試で活用可)。
④学期に1回ずつ、それぞれが外で学んだことを学生集会等で発表して全体で共有する。

プログラム	関連情報	担当
①本校語学研修	●オーストラリア語学研修 12/9 7/24 (月)～8/6 (日) ●マウイ研修 3月	藤田
②福山市高校生議会	●40人の高校生議員が、7つの委員会に分かれ質問・提案を行い、市長・教育長から答弁 ●委員会の例: 福山の観光を担う人材育成、市財団活性化、水産政策の推進、健康に過ごす	頼田
③高校模範国連	●国際理解のための模擬国連活動(研究・国際問題の理解と解決の探求) ●未来の国際社会に指導的立場から大いに貢献できる人材を育成	藤田 頼田
④トビタテ!留学JAPAN	●市民協力してグローバル人材育成のために留学支援(詳細は「トビタテ!留学JAPAN」で検索) 例) 2～3週間の語学研修 (30万円支給) 4ヶ月程度の留学 (80万円支給) ●広島大学と連携して積極的に課題研究(年間継続) 2ヶ月以上1回程度大学で講義、1年間かけて自由研究をして発表	藤田
⑤広島大学GSU/De-Globalization	●理数分野の知識と技能を競い合う「科学の甲子園全国大会」の県予選 ●IG28の取り組み: 11月6日(日)に開催 県内13校の代表生徒6名が、物理・化学・生物・地学・数学・情報の記事や発表、総合競技において知識と技能を競い合う	高橋
⑥広島県高等学校数学オリンピック	●国際数学オリンピックの日本代表を速決する県予選 ●数学が得意な人、好きな人 ●広島大学で科学オリンピックを利用した30人以内の学生に、医学部医学科の60人以内の出願資格に数学オリンピックの予選合格者が含まれる	藤田
⑦広島県高等学校数学オリンピック	●(奨励)希望者向け) 夏祭り、サイエンスフェスティバル、ふれあいキャンパス等のボランティア ●ユースフル・ボランティア事業生ボランティア(小学校の自然体験活動のスタッフ) *詳細は http://www.city.fukuyama.lg.jp/toshima_jr/ で御座います	大塚
⑧ふれあいランドボランティア	●5月 都市経営学部による山形県産「(仮称)まちづくりは面白い!」定員20名程度 6月 希望者限定 7月 ゼミの学生との研修会(まちづくりゲームとGIS) 8月 まちづくりワークショップ(駅周辺の再整備を高大で提案) 11月 市立大学祭で発表	川高
⑨福山市立大学との高水高等学校	●高校生が大学の高度な教育・研究に触れ、高校と大学の連携を継続を賞することを目的 ●福山市立大学・福山大学 ●単位認定が可能なケースもある	元岡 藤田
⑩教育ネットワーク中国の大学講座	●7月25日(水)～ ●福山青年会議所主催 ●アジアと日本のこどもたちのコミュニケーション・セミナー(参加費は無料でも可能) ●夏休期間中の1日 ●福山市民病院 ●医療系の看護・医学科以外(臨床検査、リハビリ、放射線、言語聴覚士、医科系) *Dr.体験や看護体験は別にプログラムあり。	若田 栗原
⑪SDG	●5学年・海外修学旅行やマレーシアの高校を訪れ、マレーシアで問題になっている感染症について現地高校生とブレインヤンセッションを行う。当日まで準備する。8人程度。 ●6学年・空襲、生活体験の聞き取りや運動めぐり、集いの参加など	高橋 上田
⑫777年100周年記念事業	●国際平和を希求し世界的に活躍できる人材を目指して、英語力、リーダーシップや競争意識などの国際的課題を学ぶ広島県が主催するプログラム。●全10回、半年間、宿泊研修、通学研修、研修成果発表会。●フィリピンでの海外研修(7日間)あり。●全県から20名程度。	小川 頼田
名前	5年()組 番号() 名前()	()
希望プログラム	(1) 第1希望 番号() プログラム名()	()
	(2) 第2希望 番号() プログラム名()	()
	(3) 上記①～⑩以外のプログラムに参加希望(□○)希望するかも(検討) □○2申し込み済) 主催団体() プログラム名()	()
希望理由(重要)	活動内容()	()

(1)「夢チャレ」実施状況

プログラム	関連情報	1	2	計
⑰上記以外	●プログラム外(サマースクール13,看護体験9,寺子屋4,ローズボランティア4,神原病院4,歴史フォーラム4,ブレインアタックセミナー3,未来100人委員会,保育所,スターバックス,大学薬学部での講義,翻訳,昼制作講座,JICA,農業体験)	32	19	51
⑬コ・メディカル研修	●夏季休業期間中 ●福山市民病院 ●医療系の看護・医学科以外(臨床検査,リハビリ,放射線,言語聴覚士,医科栄養) *Dr体験や看護体験を含む。	27	7	34
⑧ふれあいランドボランティア	●(保幼小希望者向け)夏祭り,サイエンススクール,ふれあいキャンプ等のボランティア ●学生ボランティア(小学校の自然体験活動のスタッフ)	19	8	27
①海外語学研修	●オーストラリア研修 ●マウイ研修 ●セブ島研修 ●中期留学	19	6	25
⑪SYD関係プログラム	●文科省所管の社会教育団体 ●フィリピン・福島・広島・小豆島でのボランティア	11	12	23
⑨福山市立大学との高大連携事業	●ゼミの学生との研修会(まちづくりゲームとGIS) 8月 まちづくりワークショップ(駅周辺の再生策を高大で提案) ●11月 市立大学祭で発表	17	5	22
④福山バラ祭り	●福山バラ祭り(5月)のボランティア活動(ローズボランティア)	13	2	15
③高校模擬国連(教育模擬国連含む)	●国際理解のための模擬国連活動(研究・国際問題の理解又解決策の探究) ●全国高校教育模擬国連大会 8月7日(月)8日(火)&東京の大学OS2泊3日	8	5	13
⑫アジア少年少女国際交流事業 in 福山	●福山青年会議所主催行事 ●アジアと日本のこどもたちのコミュニケーションサポート(熱意があれば誰でも可)	10	2	12
②市高校生議会	●40人の高校生議員が7委員会に分かれ質問・提案を行い,市長・教育長から答弁	6	3	9
⑭マレーシア高校生との協議・提案	●5学年・海外修学旅行でマレーシアの高校を訪れ,マレーシアで問題になっている煙害について現地の高校生と英語でプレゼンやディスカッションを行う。	4	2	6
⑥広島県高等学校科学オリンピック	●理数系分野の知識と技能を競い合う「科学の甲子園全国大会」の県予選 ●物理・化学・生物・地学・数学・情報の筆記や実験,総合競技で知識と技能を競う	5	0	5
⑩教育ネットワーク中国の大学講座	●高校生が大学の高度な教育・研究に触れ,高校と大学の円滑な接続に資する(目的) ●福山市立大学・福山大学 ●単位認定が可能なケースもある	4	0	4
⑤広島大学GSC(グローバルサイエンスキャンパス)	●広島大学と連携して継続的に課題研究(年間継続) 2ヶ月に1回程度大学で講義,1年間かけて自由研究をして発表	3	0	3
⑱参加していない	●まだ参加していない。	7	1	8
合計		182	72	254

(2)「夢チャレ」前後の「資質・能力」の変化(成果と課題) *生徒アンケートによる

	①情報分析・整理力		②活用・表現力		③課題発見・解決力		④協働		⑤自他の尊重		⑥チャレンジ精神	
	5月	10月	5月	10月	5月	10月	5月	10月	5月	10月	5月	10月
平均値	2.1	2.5	2.1	2.4	1.9	2.3	2.3	2.6	2.1	2.5	2.0	2.4
中央値	2	3	2	2	2	2	2	3	2	2	2	2
最大値	4	5	5	5	4	5	5	5	5	5	5	5
伸びた人	80	42.8%	62	33.2%	63	33.7%	58	31.0%	61	32.6%	65	34.8%

【成果】

- ①資質・能力の平均は全て向上(合計で伸びた人は138名/178名中で73.8%)
- ②活動履歴と学びの蓄積(レポート)
- ③学びの発表会(プレゼン)
- ④身についた資質・能力(自由記述より):チャレンジ精神,自他の尊重,注意力,奉仕,忍耐力,創造性(工夫),社会の変化,視野の拡大,言葉遣い,表現力,積極性,導く力,思考力,協働性等

【課題】

- ①未体験者8名(2学期中に全員実施目標)
- ②活動履歴や学びのデジタル化 ③全活動での資質・能力の意識化

「夢チャレ」生徒レポート例

①コ・メディカル研修

平成 29 年 5 学年「夢チャレ」活動レポート (2)

1 今回の活動概要	
①プログラム名	コ・メディカル 研修
②主催団体	福山高校 + 福山市民病院
③活動概要 (1 行)	市民病院で薬剤師体験をする
④活動日時 プログラム	8/4 (金) 13:00 ~ 17:00
⑤参加理由・目的 (参加前に記述) *進路との関係も	私の将来の夢が薬剤師になることなので、今のうちに薬剤師について少しでも多くの知識が欲しかったから。

2 学びの詳細レポート
*以下の⑥~⑩の全項目について学びをレポートしなさい。(ていどいいに、具体的に書くこと)

⑥体験から学んだこと3つ (以上)

私は今回、福山市民病院で薬剤師体験をさせて頂きました。そこで学んだことを紹介したいと思います。

1つ目は、病院薬剤師の仕事内容です。病院薬剤師は、たくさんの業務を任されています。例えば、患者さんに薬を出す調剤、病院内にある薬剤の在庫管理、抗がん剤や点滴剤と混ぜて作る製剤、患者さんへの服薬指導、日々まぐろく変わる薬剤の情報の周知するDL業務、そしてチーム医療への参加。他にもたくさんの業務について紹介していただきました。福山市民病院では、このような業務と薬剤師 30人程で行っています。

2つ目は、薬の危険性についてです。私は抗がん剤を製剤している作業式を見学させてもらうことが出来ました。抗がん剤の製剤は危険な薬品を扱うため、全身を覆い、顔をマスクやゴーグルで守り、手袋は二重という厳重な体制の下で行われます。少しのミスも許されないので、量間違えていないかなどの項目を他の人にチェックしてもらいます。製剤中も、製剤用の機械の中で安全に、そして清潔な状態で行います。私はこの作業室への見学で、薬の危険性、丁寧に扱う

必要性について学びました。

3つ目は、使われている機械についてです。私は以前、別の薬局で薬剤師体験をしたことがあるのですが、そこで使われていた機械とは全く違い、高性能なものばかりでした。例えば、軟膏薬を混ぜる機械。薬局では、軟膏盤とヘラを用いて、人の手で混ぜ合わせていました。しかし、病院では機械に入れて30秒ほどすると均等に混ぜた薬が出てきました。時間短縮になる上に正確なのでとても便利です。そして、粉薬と梱包する機械。薬局では、人の手で均等になるよう広げた薬と機械が等分し巨毛やり方でした。しかし、病院では均等に分けるところから梱包するまで、全て自動でこれによって、袋に入っている薬の量が異なっているというミスを防ぐことが出来ます。他にも、たくさんの優れた機械がありました。安心して安全な薬の提供は、機械によっても支えられていると

⑦活動を通して特に身についたと思う資質・能力 (とその理由) *3の(1)(2)を参照
私は、今回の実習で身についたと思う資質は、自他の尊重だと思っています。より詳しく薬剤師について知ることができたので、改めて薬剤師の仕事の重要性を学ぶことが出来ました。

⑧大学での学びとどうつながるか
この実習の前に、薬科大学のオープンキャンパスに行きました。市民病院にはその大学で見たものと同じ機械や所用が薬がありました。薬と分量を間違えずに調剤することは、大学でしっかり学ばないといけないことの1つです。薬剤師にとって大学での勉強は、将来働く上でとても大切なことです。

⑨今後さらに調査・研究・活動したいこと (やその計画案)
今回の実習では、病棟でどのように活躍されているのか、患者さんとはどのように接しているのかと見学することは叶いませんでした。薬剤師として、他にどのようなことができているか、質問していきたいです。

⑩最後に一言
今回の活動で、私の夢への想いはより一層強くなりました。今以上に勉強して私の理想の薬剤師になれるように頑張りたいです。

(※1)活動終了一月以内に担任に提出、(※2)(下書き後)パンで読書して提出(パソコン用、印刷・製本して全体で共有)。

②Youth Connection@STARBUCKS

平成 29 年 5 学年「夢チャレ」活動レポート (2)

1 今回の活動概要	
①プログラム名	Youth Connection@STARBUCKS
②主催団体	スターバックスコーヒー福山ホストクラブサテライト店
③活動概要 (1 行)	スターバックスコーヒー福山ホストクラブサテライト店で企画を計画し、お客さんに披露する。
④活動日時 プログラム	7月3日 打ち合わせ 7月25日 オリエンテーション 8月1日 8/22の発表に向けて計画を練る 8月8日 本番へ準備
⑤参加理由・目的 (参加前に記述) *進路との関係も	私の将来の夢はテレビ局のプレゼンターなので、たくさんの番組を制作すること。プレゼンターはその時代の流行や人々のニーズに応えるものと一緒に、探検、発信する力を必要とする職業です。私はこの体験を通して、人々のニーズにどのように応えるかを学び、実行できる力を身につけたいです。

2 学びの詳細レポート
*以下の⑥~⑩の全項目について学びをレポートしなさい。(ていどいいに、具体的に書くこと)

⑥体験から学んだこと3つ (以上)

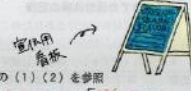
私が「Youth Connection@STARBUCKS」で学んだことは4つです。

1つ目は、本番を見学して「進路の行動」として。いかにスターバックスの接客とされていると、実際に計画してお客さんのために行動していくのは大変です。スターバックスの店員さんは何を学ばないかと自分に言い聞かせることで、自分からどんな発言し、実行に移せようと思います。私は今までの進路の行動が苦手で、やらなければならない量が決まると、やりきれなかったことから手を付けていくという方法で何とか物事を成し遂げることができるようになります。だから今回これを周知の状況と時間、日程を見て、一緒に企画を進めることにしよう。「これをしなければいけない〇〇時までにはこれしよう」という声かけをして本番までスターバックスに連絡をしながら進めたいです。私の知識改革にも繋がったと思います。

2つ目は、やはり「緊張感」に動いて。最初は「スターバックス」の店員さんには何も聞かれないと言いつつ聞いてと進めたいが、実際はそれ聞いていたのだからこわさと言いつつ聞いていたのだ。「Youth Connection@STARBUCKS」の担当の方には、自分の本来の仕事もこなさなければ、私達にも対応して下さいます。1つは笑顔で嫌な顔一つせず迅速に人のために行動する努力をすることが、今回の仕事。今回の本番を終えたと、カップにメッセージを書いたものと卒業証書を書いていただきました。忙しな人のためにこんなに動く方の素晴らしいと身近に学びました。

3つ目は、人々のニーズを知りたいです。私たちが本番で披露したのは、季節ごとのオリジナルメニューを宣伝、試飲体験してもらい、感想を頂くというものでした。正直私の感性は人と比べていることが多くあると、今日30代で働いている同僚の人は甘さのバランスがわかるのが好きだということや、子どもがいるお母さんらしい甘めのものが好きだということや高校生は甘くないものが好きだということ。ニーズや客層を知らないと何を提供したらいいかわかりません。それをテレビでも見たり聞いたり。ニーズや客層を知らないと何を提供したらいいかわかりません。それをテレビでも見たり聞いたり。ニーズや客層を知らないと何を提供したらいいかわかりません。

4つ目は「協働性」の大切さです。協働性を持つことは何かに複数人で成し遂げる時、必要不可欠なことだと思います。それはもちろん知っていましたが、本当に大切だと改めて感じました。学校や違う学校で感性が異なる人と、住んでいる場所が異なる人と、違う文化や習慣がある人と、見知らぬ人達と関わることが多いから、今後は生活や社会生活で生活や文化や習慣を学ぶことが大切だと思います。



⑦活動を通して特に身についたと思う資質・能力 (とその理由) *3の(1)(2)を参照
私が「Youth Connection」を通して身についたと思うのは「協働性」と「相手の気持ちを察する力」です。初めに他の高校の人と協力して企画を成し遂げるためには相手の気持ちを察する力が、計画的に動くことが必要不可欠だと感じました。また、お客さんの気持ちや表情や視線、言葉から読み取り、次に自分自身が行動は何か、臨機応変に対応できたと思います。

⑧大学での学びとどうつながるか
私は将来プレゼンターになりたいと考えています。プレゼンターは多様な知識が必要で職業です。今回培った、周囲の状況を見極める力を使い、大学に行ったらもっと社会経験をもつていきたいです。例えば、1つはサテライト店での企画は使えない、良い経験をつむこともできると思います。全ての企画と機会に感謝して大学生になりました。

⑨今後さらに調査・研究・活動したいこと (やその計画案)
今度は身近な人の見てほしい番組を制作したいです。取材先は20人くらいの関わり(1つはYouth Connectionを通じて培った「力」を7月活用しよう)とします。

⑩最後に一言
これからもみんな社会経験を7月22日までにします。

(※1)活動終了一月以内に担任に提出、(※2)(下書き後)パンで読書して提出(パソコン用、印刷・製本して全体で共有)。

(3)【事業報告】(SDGsの観点を取り入れた)課題研究(高3, 総合学習)

文責 上山晋平

- 1 学年・教科等 6年 総合的な学習の時間「(SDGsの観点を取り入れた)課題研究」
2 日時 平成30年4月～平成30年9月
3 担当者, 招聘講師等 上山晋平・西田知佳(教育研究部) 6学年所属教員
4 対象生徒等 生徒176名(6学年生徒)
5 本校ESDの観点 ■国際課題解決プロジェクト ■地域課題解決プロジェクト ■生き方・在り方探究プロジェクト
6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

自己の進路に関連する分野における問題点を調査し、その中から自分が取り組む課題を設定して、調査・研究・発表(グループ別・学年全体)をして、他者の課題解決に貢献する。その際、本校の研究課題である「SDGs」に関連させる。またできれば5年次に行った「夢チャレ」の活動に関連させることも推奨する。

〈課題研究を通して特に身につけたい力〉 (「福山中・高で育てたい6つの資質・能力」より)

能力	✓	①情報整理力	✓	②表現力	✓	③課題解決力
資質		④協働		⑤自他の尊重	✓	⑥チャレンジ精神

7 内容の具体・展開の流れ(写真を1枚は入れる)

- (1) ガイダンス・希望グループ調査(4/11): 課題研究とSDGsについての理解
- (2) 文献研究・まとめ(4/25, 5/2): 「研究課題設定シート」に基づいた情報収集・整理等
- (3) レポート(2000字)作成(5/23, 5/30): できるだけパソコンで作成(書式あり)
- (4) レジューメ作成・発表練習(6/6): 各自のグループ発表に備えてレジューメやパワポの作成
- (5) グループ別発表(2時間)(6/20): 1人3～5分間
- (6) 学年代表者発表(9/5): グループ代表者(各クラス1名以上)が200名の前で発表(1人5～8分)

8 生徒の評価(感想等)

- SDGsのことを考えていくうちに自分たちの仕事とつながっていき、これからの将来に向けて自分のことを考えるという良い機会にすることができたと思う。これからの社会は今までとは大きく変わっていくと思うので、自分の知識だけではなく、思考力や判断力をさらに向上させる努力をこれからする必要があることが分かった。
- 実際に第一線で活躍する人への聞き込みなどをしていて調べ方が具体的で、細かいことまで調べていました。発表もSDGsに関連させたり、今後の社会に向けて活かし方があったりするなど、すごく詳しくかったです。私は身近な問題を考えて、それも間違いではないけれど、世界規模に変えていける力の探究が必要だと思いました。
- Aくんの話す順番がとてもよかった。大きな問題から小さな身近な問題へ話や考えをうまく転換し、聞き手は身の回りのことで想像しやすく、実行に移しやすい。他の人の発表でも、自分に問題を転換させて、一人一人が考えることがおきな問題の解決につながると改めて思った。一人一人興味のあることや分野があって、発表を聴いただけで自分の世界が少し広がった気がする。私も興味のあることを全力でやって人生を駆け抜けた。
- (学年主任講評) 今回の発表会をもって、高校入学以来行ってきた「総合的な学習の時間」での課題解決・探究活動は、一区切りついたこととなります。節目の時を迎え、非常に感慨深いものがあります。私たちが取り組んできたこの活動は、学校内での学びを学校外・卒業後につなぐ意義深いものでした。

自らの進路希望の実現に向けて受験生として過ごす時だからこそ、自分の勉強が、目前の入試を突破するためのもの、点数を効率よく得るためだけのものと捉えてしまいがちです。そうした気持ちを全面的に否定するつもりはありませんが、それだけのものでは決してないのです。私たちの学びは、未来に向けてのものです。自らの生き方を考え、社会の中で自分に何が出来るのか、その遠くの目標を見だし、見据えるためのものです。この発表会で、自分の目線を修正し、また遠くを見つめて前に進むことが出来ると思います。そんな貴重な機会を産み出してくれた皆さん、ありがとうございました。お疲れ様でした。また、頑張りましょう。

9 成果と課題

- 【成果】①短期実践だったが(約2ヶ月)、発表者全員がSDGsを取り入れて意識できた。②著者に会いに行っ
てインターシップをして行動して情報をとり、課題解決につなげた人もいる。③ガイダンス資料が充実した。
【課題】①「課題(問い)」の立て方が難しい。学年では共通できていない。②調べ学習で終わらせないため、
「アクションを入れる」という条件設定が良いかもしれない。③レジューメがある方が伝達量は増える。

■生徒作成発表用 PPT スライド

①

「アウトサイダーアート」をどう広げるか

SDG#番号 : 10
目標 : 国内の不平等を是正する
6328 山田佳菜

②

「アウトサイダー・アート」の具体例




人知れず
表現活動
している人たちの作品

③

■ 研究方法

①本を購入し、情報収集
→「アウトサイドで生きている」

②著者である榎野展正さんに
会いに行き、インタビュー調査

③インターンシップに参加
→「クシノテラス」



④

Q. 榎野展正って？

A. 日本唯一の
アウトサイダー
キュレーター

- ・アートテラス
「クシノテラス」の主
↑ 福山にあります。



@こななかんじの人です。

⑤

1 アウトサイダー・アートとは？

- ・1972年に作られた造語
- ・正規の美術教育を受けていない
独学自修の作り手たちによる作品
-
- ・日本の現状
知的障害者の美術が中心となっている。
→なんかおかしい・・・

⑥

2 新しいアウトサイダー・アートの定義

- ・アーティストの作品が
一代で完結するもの
- ・人知れず表現活動をしている人たち
- ・独学自修の人たちだけではない
- ・障害者のアートではない



⑦

3 美術の世界に入っていく上での妨げ

① ギャラリーでの扱いが難しい

② カテゴリーの先入観

③ 福祉と美術は“水と油”
※作者が障害者であった場合



⑧

・斜線の違い

福祉

「今ここ」の命を大切に
する

美術

「いつか」を夢見ている

一人の人生の斜率vs生きる時間をこえて

⑨

4 クシノテラスでインターン

天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天
壁																
壁																
壁																
壁																
壁																

ここで4時間、1人で受け付け業務しました。

⑩

・今回の作品

・八木志基(2003~)




⑪

5 課題解決に向けて

1. 表現を紹介する機会を増やす
2. アウトサイダーアート作品の購入場所を増やす
3. メディアを通じて情報を伝える




⑫

6 今後の課題について

1. アウトサイダーアートという先入観をなくすためには？
2. アウトサイダーアートを保管する場所や人材を増やすには？



⑬

参考文献

- ・榎野展正(2011)『アウトサイドで生きている』(イバックス)
- ・榎野展正(オンライン)『クシノテラス』(kushinoteras.com)
- ・榎本智広(2025)『アウトサイダー・アート入門』(DU社)
- ・榎野展正(2003)『アウトサイダー・アート』(光文社)
- ・小出由紀子(2018)『アートマーケットで、アウトサイダー・アートを売買することの意味』(日本財団 CIVILSERVITY IN THE ARTS)

6 学年 課題研究 テーマ・関連 SDGs 一覧表 (平成 30 年度)

6 学年 課題研究 テーマ・関連 SDGs 一覧表 (平成 30 年度)						
No.	分野	課題研究テーマ	関連 SDGs	SDGs 内容		
1	文学	自己肯定感をいかに高めるか	3	保健		
		活字離れは本当か	4	教育		
		美しい言葉をつかよよく使いこなすには	7	エネルギー		
		日本語の現代的変遷は面白いのか	4	教育		
		自殺を防止するには	3	保健		
		中東難民問題を解決するには	1	貧困		
		いかにして読書し人生を豊かにするか	4	教育		
		国際語としての英語とは何か	17	言語学		
		アジア平均を下回る日本人の英語力向上には	4	教育		
		正しくない日本語の使用増加における諸問題を解決するには	4	教育		
2	外国語	SNS 依存を共存するには	3	保健		
		世界平和をどう実現するか (宗教の観点から)	16	平和		
		政治を見極めるには (歴史研究を通して)	4	教育		
		心を楽にするためにアロウドラード心理学から学べることは	9	インフラ、イノベーション		
		ネット依存が及ぼす子供の内面への影響とは	4	教育		
		幼思、児童虐待事件はなぜ起こるのか	4	教育		
		増え続ける発達障害の児童にどう対処すべきか	4	教育		
		なぜ学校で虐待・ネグレクトが起こるのか	4	教育		
		AI 化に伴い教育はどう変化するべきか	4	教育		
		道徳教育の問題点と改善策は何か	4	教育		
3	人文・人間科学	通商に對して地元企業はどう関わるべきか	11	都市		
		不登校の増加にどう対応すべきか	4	教育		
		脳科学に基づいた最良の勉強法は何か	4	教育		
		日本語学習がなぜ大切か	4	教育		
		コミュニティの貧困による育児の貧困を防ぐには	4	教育		
		学級崩壊を防ぐために乳幼児期から気をつけることは	4	教育		
		人間関係がうまくいくには	4	教育		
		心が少しでも楽になるには	4	教育		
		障がいを持つ人が社会貢献するために必要な教育とは	4	教育		
		世界と日本の教育の違いをどう理めるか	4	教育		
4	教育	子ども体力低下問題をどう解決するか	4	教育		
		いじめとどう向き合うか	4	教育		
		アクティブ・ラーニングが子供に与える影響とは	4	教育		
		日本の教育はどう変わるべきか	4	教育		
		仕事を早く終わらせるには	4	教育		
		学級崩壊をどう防ぐか	4	教育		
		争いのない国にするには	16	平和		
		世界の現状と平和問題の解決のために何ができるか	16	平和		
		企業間の競争で勝つ3つの強敵とは	8	経済と雇用		
		育休・産休問題とは	8	経済と雇用		
5	法学	消費者と AI と企業とは何か	8	経済と雇用		
		少子高齢化と経済とは何か	6	水・衛生		
		ビジネスとコミュニケーションとは	8	経済と雇用		
		6	経済・経営	ブラック企業とは	8	経済と雇用
				カジには景気対策としての将来性があるのか	8	経済と雇用
				経済学の考え方は景気対策に生きるのか	8	経済と雇用
				2020 年オリンピックの経済効果は有効か	8	経済と雇用
				企業はどのようにして生き残るのか	12	生産と消費
				AI 時代に私たちがどのように働くのか	8	経済と雇用
				ネットにならない、ネットから社会復帰することは可能か	12	生産と消費
ビットコインは世界を救うか	12			生産と消費		
経済格差は解消されるのか	1			貧困		
AI と人間の共生はうまくいくのか	8			経済と雇用		
7	社会・福祉	AI 時代に人にかきできない仕事とは何か	8	経済と雇用		
		ブラック企業とは	8	経済と雇用		
		IT ビジネスとは何か	8	経済と雇用		
		働き方とは	8	経済と雇用		
		船員の減少の原因は何か	14	海洋資源		
		過密化と過疎化の原因とは	11	都市		
		町おこしとは何か	11	都市		
		経済格差とは何か	10	不平等		
		物価の決め方で世の中を変えられるか	6	水・衛生		
		成長著しい AI と将来人類は共存できるか	8	経済と雇用		
8	国際関係	仕事のための法制度の悪用をやめさせることはできるか	8	経済と雇用		
		福祉のための法制度の悪用をやめさせることはできるか	12	生産と消費		
		IT と熟練農家の技は農業の活性化を目指すか	12	生産と消費		
		不登校の原因とは何か、どう防ぐか	4	教育		
		文化の継承と街並みの再生・保存に何が必要か	11	都市		
		人口減少社会の問題点とは何か	11	都市		
		メディア・マスコミとどう付き合うべきか	11	都市		
		人口減少の中、どのように都市経営を行うべきか	11	都市		
		ネット社会に潜む影は何か	4	教育		
		障がい者の幸せのために必要なことは何か	3	保健		
9	理学	アメリカの教育格差を解消するには	10	不平等		
		国内で広がる経済格差を小さくするには	10	不平等		
		子どもだけでスラム街を生きる危険性は何か	1	貧困		
		難民受け入れの政治・経済的メリット・デメリットは何か	1	貧困		
		日本兵士の戦死に刻まれた戦争の跡とは	16	平和		
		日本の観光業の課題とこれから改善すべき点は	12	生産と消費		
		薬に頼りすぎた社会をどう変えるか	3	保健		
		台風はどのようにして発生するか	13	気候変動		
		科学の社会へ与える影響と正しい利用方法とは	7	エネルギー		
		ヒートアイランド解決へ向かう道筋は作れるのか	9.11.13	#N/A		
10	工学	ヒートアイランド現象の対策として緑化は有効か	11	都市		
		人間と AI が共存して社会を発展させるためには何が必要か	9	インフラ、イノベーション		
		AI 時代の到来、これは事実だろうか	9	インフラ、イノベーション		
		水辺住宅が日本を変える、地産に強い住宅が伝統的な建築物を守ることはできるか	11	都市		
		少子高齢化社会と AI が共存していくことができるか	9	インフラ、イノベーション		
		水の有効利用、工学で水問題を改善できるか	6	水・衛生		

7	社会・福祉	人口減少社会の問題点とは何か	11	都市
		メディア・マスコミとどう付き合うべきか	11	都市
		人口減少の中、どのように都市経営を行うべきか	11	都市
		ネット社会に潜む影は何か	4	教育
		障がい者の幸せのために必要なことは何か	3	保健
		アメリカの教育格差を解消するには	10	不平等
		国内で広がる経済格差を小さくするには	10	不平等
		子どもだけでスラム街を生きる危険性は何か	1	貧困
		難民受け入れの政治・経済的メリット・デメリットは何か	1	貧困
		日本兵士の戦死に刻まれた戦争の跡とは	16	平和
8	国際関係	日本の観光業の課題とこれから改善すべき点は	12	生産と消費
		薬に頼りすぎた社会をどう変えるか	3	保健
		台風はどのようにして発生するか	13	気候変動
		科学の社会へ与える影響と正しい利用方法とは	7	エネルギー
		ヒートアイランド解決へ向かう道筋は作れるのか	9.11.13	#N/A
		ヒートアイランド現象の対策として緑化は有効か	11	都市
		人間と AI が共存して社会を発展させるためには何が必要か	9	インフラ、イノベーション
		AI 時代の到来、これは事実だろうか	9	インフラ、イノベーション
		水辺住宅が日本を変える、地産に強い住宅が伝統的な建築物を守ることはできるか	11	都市
		少子高齢化社会と AI が共存していくことができるか	9	インフラ、イノベーション
9	理学	水の有効利用、工学で水問題を改善できるか	6	水・衛生

		これからの教育法、教育にAIは活用できるか	4	教育
		地震を耐える住宅を建てるにはどうすればよいか	7	エネルギー
		化学物質を扱う際の爆発・火災にどう向き合っていくか	7	エネルギー
		包括的持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きやすい環境のあり方に関する目標(ゴール5)は達成できるか	8	経済と雇用
		持続可能な町づくりを目標として、空き地は活性化できるか	11	都市
		AIの発達、人間とAIは共存できるか	11	都市
		変化していくAI時代で生き残る方法	8	経済と雇用
		人とインターネットとの共存	8	経済と雇用
		自動運転技術の現状とこれから	12	生産と消費
		3Dプリンタと今後の社会	12	生産と消費
		今後の時代のモバイルとの接し方	9	インフラ、イノベーション
		温暖化を防ぎ、環境を守る次世代火力発電	9	インフラ、イノベーション
		過疎化による被害の、地方及び他国の防ぎ方の違い	12	生産と消費
		日本の少子高齢化に対するロボット・人工知能の可能性	12	生産と消費
		公共交通機関から見ると日本の交通の課題	9	インフラ、イノベーション
		海上における海賊の脅威	16	平和
		AIと人間	17	実施手段
		日本の情報社会で、離れたり、盛まったりしない対策	8	経済と雇用
		絆社会	11	都市
		過疎化の問題点や影響とその対策	9	インフラ、イノベーション
		ごみと向き合い消費者ができることは	12	生産と消費
		遺伝子組み換え作物の問題点とは	12	生産と消費
		バイオマス発電の問題点と解決方法とは	7	エネルギー
		ペットの殺処分の問題点とは	15	陸上資源
		食中毒・異物混入の原因・対処法とは	6	水・衛生
		これからの日本農家の在り方とは	15	陸上資源
		生態系の崩れをどう防ぐか	15	陸上資源
		地域再生・活性化の在り方とは	17	実施手段
		殺処分という現実の問題点とは	11	都市
		若者の日本食離れの現状と課題点とは	11	都市
		日本の農業危機の問題点とは	15	陸上資源
		私たちがいつも食べている物は本当に大丈夫なのか	3	保健
		医師不足の地域格差を解消するには	3	保健
		自己コントロールにより健康を維持する方法はないか	3	保健
		オーダーメイド治療を取り入れるべきか	3	保健
		技術不足の医師を減らすにはどうすればよいか	3	保健
		医療費をおさえつつ医療の質を向上させるには	3	保健
		死ぬ権利と倫理観の重要性について	3	保健
		歯の健康から健康寿命を延ばせないか	3	保健
		災害の経験から見える法医学の重要性について	3	保健
		薬剤師の仕事をどう守っていくか	3	保健
		薬の副作用を軽くするため薬剤師は何かができるか	3	保健
		薬剤師とAIがどう共存すべきか	3	保健
		医薬品をいかに生活に便利なものにするか	3	保健
		貧困な国や地域にどのように医療を提供するか	3	保健

		薬の現状をふまえ、今後の薬問はどうあるべきか	3	保健
		高齢者のポリマリアーマネジメント問題に対応する方法とは	3	保健
		終末期医療の在り方とは	3	保健
		望まない終末期・最期にしないためには	3	保健
		リハビリと介護を上手くつなげて治療ができていくか	3	保健
		物を与えただけの支援から、新たな支援の形へと	3	保健
		日常の食生活における問題点とは	2	健康
		なぜ日本人はがんになるのか	3	健康
		高齢化により引き起こされる様々な問題点とは	3	健康
		医療格差とは何か	3	健康
		これからの看取り対応はどうか	3	健康
		患者にベストのチーム医療をどう実現するか	17	実施手段
		人生の最期に何を望むか	3	健康
		より長く健康生活を送るために必要なこととは	3	健康
		生活習慣の変化による健康への被害とは	3	健康
		看護師不足が生じる理由とは	3	健康
		改善しなければならぬ日本の医療技術の現状とは	3	健康
		健康的な食生活をどう送るか	3	健康
		発達途上国での医療体制の不足	1	貧困
		HIV・MDS 医療の歴史と今について	3	健康
		AI化によるこれからの医療	3	健康
		介護高齢者に対する虐待について	3	健康
		看護師不足の現状と原因を解決していくには	3	健康
		患者と同じ目標に立ったケアを実現するには	3	健康
		看護師のストレスが軽減する労働環境づくり	8	経済と雇用
		医療現場の倫理問題をどう解決するか	3	健康
		家族看護の必要性	3	健康
		食品添加物とどのように向き合っていくか	3	健康
		看護師の離職をどう防ぐか	3	健康
		医療事故に対する課題と対策	3	健康
		食品ロス問題を解決するには	1	貧困
		離職をどう防止するか～人から好かれる話し方	4	教育
		労働現場の原因と解決策とは	4	教育
		スポーツによる怪我を予防するには	3	保健
		日本人の体力低下について	3	保健
		スポーツ界における体罰・ドーピングを防止するには	3	保健
		歌はかいて世界に残る名曲となるか	16	平和
		芸術はかいて世界に残る名曲となるか	8	経済と雇用
		色の見え方を変え、心を動かすには	8	経済と雇用
		障害者の雇労働環境を向上させるには	8	経済と雇用
		アウトサイダー・アートの広がりを生むには	10	不平等
		日本の舞台芸術をどう育てるか	9	インフラ、イノベーション
		2次元ビジネスでの経済的自立に必要なことは	8	経済と雇用
		公共空間をいかにして有効活用するか	10	不平等
		アニメーション業界の経済的状況の改善のために	8	経済と雇用

IV 【事業報告】他校との実践交流（名古屋国際中学校との実践交流）

文責 石川玲弥

- 1 学年・教科等 (中学) 2・3年生, (高校) 5年生 夏休み
- 2 日時 2017年(平成29年)8月2日(火) 14:00~16:00
- 3 担当者, 招聘講師等 矢幡愛 高山奈緒子 松枝美貴子 石川玲弥(以上中学) 高橋俊光 上山晋平(高校)
- 4 対象生徒等 2~3年生(17名) 5年生(4名) 名古屋国際中学校2年生(7名)
- 5 本校ESDの観点 ■国際課題解決プロジェクト ■地域課題解決プロジェクト □生き方在り方探究プロジェクト
- 6 テーマ設定の背景・経緯・目的等

今回のサステイナブルスクール同士の交流会は、名古屋国際中学からの提案により行うことになった。本校での目的は、交流を通して本校の活動の幅を広げることである。他校の取り組みを知り、活発に意見を交換することで、本校の活動の改善点や新たな活動の糸口を見つけることができるのではないかと考えた。そのために、1学年次に総合的な学習の時間で行った「誰もが暮らしやすい福山の街づくり」と、3学年次に行った「国際調べ」の内容をまとめ直し、発表した。5学年はマレーシアやシンガポールで問題になっている「煙害(ヘイズ)」と日本の関わりについて調べ、発表をした。2学年, 3学年, 5学年の発表を行うことで、総合的な学習の時間が、自分たちの地域のことを知り、解決策を考える学習から、世界の現状を知り解決に導くための学習へとつながっているのだということを生徒にも意識させることができたと思う。交流会の準備・運営を中学生が中心に行うことで、マネジメント能力の向上も図った。

7 内容の具体・展開の流れ

- (1) 14:00~14:05 開会のセレモニー
- (2) 14:05~14:25 学校紹介(福山中学校→名古屋国際中学校)
- (3) 14:25~14:30 質疑応答
- (4) 14:30~14:50 5年生のプレゼン
- (5) 14:50~14:55 質疑応答
- (6) 14:55~15:10 2年生のプレゼン
- (7) 15:10~15:20 3年生のプレゼン
- (8) 15:20~15:30 3年生のプレゼン
- (9) 15:30~15:35 質疑応答
- (10) 15:35~15:45 名古屋国際中学校のプレゼン
- (11) 15:45~15:55 自由交流(グループに分け, 自由に交流を行う)
- (12) 15:55~16:00 閉会のセレモニー 記念撮影 解散



8 生徒の評価(感想など)

- 名古屋国際中学校の生徒は、自分たちでしっかりと考え、調べた上で活動を行っていました。「主体的な活動」を自分たちも目指しているつもりでしたが、まだまだだと思いました。
- ユネスコ憲章を全て実践するという目標のもと、平和学習や環境保全の活動を行っていると感じ、素晴らしいと思いました。私たちも、学校全体で共通した目的を持ち、「〇〇までに行きたいから、この活動をしよう」という風にしていかなければならないと思いました。これはサステイナブルの活動以外にも、生かせることだと思いました。
- 違う学年の発表を見て、こんなことをしているんだと新鮮に思いました。特に、5年生の先輩の発表を見て高校になったらこんな発表をするんだと思って興味深かったです。自分たちの学習していることが、こんな風につながっていくんだなと思いました。

9 成果と課題

- 生徒が積極的に交流に臨んでいた。今回の活動が今後の活動につながるのではないかなと思う。
- 各学年ではそれぞれ素晴らしい取り組みをしながらも、それをお互いに知る機会があまりないと思った。中学生が高校生の活動内容を知ることが、自分たちの活動の意義を知ることにもつながる。もっと交流する場や共通した発表の場があっても良いと思った。
- 名古屋国際中学校の取り組みは、学校全体で共通した意識を持ち、明確な目標を持って行われていた。本校の取り組みは、まだ一部のもので終わっていると感じた。改善していく必要があると思う。

● 3 学年発表のシナリオ

タイトル	これから国際交流の発表を行います。私たちの学校はオーストラリアのダウンランズや韓国のポハンにある大東中学校と交流があります。
目的	国際交流を行う目的は2つあります。1つめは「グローバル社会に対応できる人材を育てる」ため、2つめは「英語やコミュニケーションで学んでいることを実践し身に付ける」ためです。
内容	国際交流は、中高合同で行っているものと、高等学校で行っているものがあります。
集合写真	これは、オーストラリアのダウンランズから交流に来てくれた写真です。ダウンランズの皆さんは、2年に1度福山中学校に来てくれます。
自己紹介	ダウンランズの皆さんが自己紹介をしている写真です。ダウンランズの方には、各クラスに分かれて入ってもらいます。
お弁当	クラスで一緒にお弁当を食べている写真です。みんな笑顔で楽しそうですね。
琴	ダウンランズの皆さんに琴を教えているところです。日本の伝統文化に触れてもらいました。ちなみに、琴は私たち福山の名産でもあります。
家庭研究	家庭研究部によるおもてなしも行われます。ここで家庭研究部の部長である坂上（さかうえ）さんにお話を聞いてみたいと思います。
縄跳び	授業だけでなく、スポーツなどのレクリエーションでも交流します。交流内容は生徒が中心になって考えます。当日の交流も生徒が運営します。 校内では、バディが一人一人についてサポートします。実際にバディを体験したボーグさんに話を聞いてみましょう。
ポハン集合	次は、ポハンの大東中学校との交流についてです。大東中学校からは毎年交流に来てくれます。今年は10月に本校からも交流しに行く予定です。
習字	大東中学校の皆さんに「習字」を体験してもらっているところです。福山中学校の生徒がひらがなやカタカナを教えています。大東中学校の生徒は「ハングル」を教えてくれるので、お互いに楽しみながら交流できます。
理科	これは理科の授業風景です。大東中学校の生徒も福山中学校の生徒も、答えが分かったのか、とても良い笑顔です。分かったときの嬉しさは世界共通ですね！
スポーツ	スポーツを通じた交流も行います。この時も、生徒が企画・運営を行います。実際に実行委員をしてくれた二人に話を聞いてみましょう。
身に付いている力	国際交流を通して身に付いている力は、相手の立場に立って考えたり理解しようとしたりする力や積極的にコミュニケーションをとろうとする力、学んだ英語や文化を活用し自分の思いを表現しようとする力です。
夢の実現	これらの力は、私たちのスローガンである「夢の実現」にもつながるものです。これからも、これらの力を伸ばしていきたいです。ご清聴ありがとうございました。

■第4章 関係資料

(1) 認定証 (サステナブルスクール/ユネスコスクール)

①サステナブルスクール

平成28年9月8日に、「文部科学省委託 平成28年度日本/ユネスコパートナーシップ事業『ESD重点校形成事業』」において、サステナブルスクールとして認定されました。全国24校中の1校です。



②ユネスコスクール

ユネスコ本部より、本校のユネスコスクール加盟が2018年7月27日付で承認され、承認証が発行されました。



(2) 各取組の新聞記事

①「地域課題解決プロジェクト」：グローバル人材育成事業

■2017年（平成29年）6月22日 中国新聞

高校生 地元企業を取材

市立福山 18社の強み 冊子に



柿原取締役（左端）の説明を聞き、樹脂めっき製品に触れる生徒

福山市赤坂町の市立福山高は、授業で1年生198人が市内の企業18社の強みを調べ、冊子にまとめる取り組みを始める。市内のほかの高校にも冊子を送り、地域経済や地元での就職に対する関心を高める。

18社は工作機械や自動車部品などのメーカー、デニム染色や小売りなど幅広い。21日、各社の担当者が同校を訪ね、生徒は18グループに分かれ、事業内容や他社にないオンライン、ナンバーワンの特徴を聞いた。

柿原工業（福山市真沖町）の柿原卓夫取締役（35）は自社製品を並べ、樹脂の表面にめっきをするメタライジング技術やタイでの生産活動などを紹介。生徒は金属のような質感や軽さに驚いていた。

生徒は夏休みに各社を訪ね、店や工場を取材し、グループのリーダーは1年大塚綾乃さん（15）は、今まで知らない会社で専門的な内容もあった。興味を湧かせた。工場を取材するのが楽しみ」と話した。（榎本直樹）

■2017年（平成29年）6月24日 山陽新聞

福山高生が高校生向け冊子作り

地元企業情報を共有

福山市立福山高（赤坂町赤坂）の1年生198人が地元企業の魅力を紹介する高校生向けのガイドブック作製に取り組んでいる。企業の特徴を知ること、地元就職など将来の選択肢の一つにつなげる狙い。冊子は12月に完成させ市内の高校に配布し、同世代に情報を共有してもらう。（高橋由大）

12月完成、市内各校へ配布

郷土愛や国際的な視点 市立大（港町）の准教授を身に付けた人材の授けから経営戦略や福山育成に取り組む同校が、山にある企業の特徴を初めて企画。活動は4月を学んできた。

月から始まり、生徒は、企業学習はグループ

21日は各社の担当者が学校を訪れ、グローバル事業や他社にはない強みなどを話した。デニム染色加工の坂本デニム（神辺町平野）は糸の染色に特化した企業であることや、敷地内での綿花の無農薬栽培など環境に配慮した取り組みを説明した。

漁網製造大手・日東製網（一文字町）は、自社製品の結び目部分のない網について、定置網や養殖網といった4事例を紹介し「どんな漁法にも対応できるエテールした。生徒は熱心にメモを取り、理解を深めていた。

生徒は7月26日～8月4日に各社を訪問し、取材する。山本匠真さん（15）は「働いている人の様子や声を取入れながら、企業の魅力を多くの人に伝えたい」と話した。

18社取り上げ 来月下旬から各社訪れ取材

坂本デニムの担当者（手前）の話を聞く生徒

高校生が企業紹介

市立福山 18社取材冊子制作




福山高は、1年生が市内の企業18社取材し、冊子はA4判の76ページの「Hi-Hi」業界1位の強み、求めくやま2017」を作った。生徒の目線で企業の強みを分析。市内の高校に配り、地元での就職に関心を高めて

1年生が福山市内の企業18社の強みをまとめた冊子

20日、同校で冊子の成果発表会があった。生徒は1グループずつ18社の社員たちを前に「会社は大きくなって挑戦を続けている」「先を見据えて製品開発している」などとプレゼンした。

1年生197人は授業の一環で、自動車部品やゴム製品のメーカー、スーパーなどを夏休みに訪問した。冊子は同校のホームページでも公開している。

工作機械メーカーを訪問した1年坂本絃人さん(15)は「見たことのない大きな機械があり、迫力があつた。世界規模で事業をしていることを他校の生徒にも知ってほしい」と話した。(榎本直樹)

地場企業の魅力紹介

福山高1年生が冊子作製




福山市立福山高（赤坂町赤坂）1年生約200人が、市内の企業情報をまとめた冊子「Hi-Hi」ふくやま2017」を作った。オンラインワン商品や技術など各企業の強みのほか、企業訪問で従業員らに取材した内容も盛り込んでいる。市内の高校に配り、高校生目線で発見した地場企業の魅力を同世代に伝え、地元就職にも役立ててもらおう。(高橋由大)

冊子では、国内最大のスポーツ販売店舗数を誇る青山商事（王子町）やファンを充電式バッテリーで動かす空調付き作業服を開発した繊維・電子機器製造のサンエス（神辺町川南）などを前に企業の概要や感想を発表した。小泉優香さん(16)は「進路選択を考えるきっかけになった。就職するならオンラインワンの技術を持つ地元企業を考えたい」と話している。公團遊具メーカーのタカオ（御幸町中津原）では設計から点検までの一貫体制やデザイン案の忠実な再現がそれぞれ特徴や強みになっていると紹介。「地域に、世界に、そして自分に挑戦」でも閲覧できる。

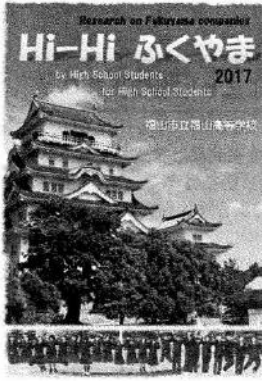
活動の成果を同級生らに報告する生徒たち

できる企業が地元にはたくさんある」といふ企業から高校生へのメッセージも載せている。

地域課題について学ぶ総合学習の一環。生徒たちは18グループに分かれ4月から授業時間などを利用して調べたり、6月には企業関係者を学校に招き話を聞いたりした。夏休みにはグループで担当する企業を訪問。製造工程を見学し、従業員からやりがいなど、生の声を聞いた。

20日には同校で成果発表会を開催。各グループが同級生や企業の担当者約250人を前に企業の概要や感想を発表した。小泉優香さん(16)は「進路選択を考えるきっかけになった。就職するならオンラインワンの技術を持つ地元企業を考えたい」と話している。公團遊具メーカーのタカオ（御幸町中津原）では設計から点検までの一貫体制やデザイン案の忠実な再現がそれぞれ特徴や強みになっていると紹介。「地域に、世界に、そして自分に挑戦」でも閲覧できる。

市内高校へ配布 進路選択に活用を



福山市立高生が作成

企業研究冊子「Hi-Hiふくやま」

福山市内の各高校に配布

同校と福山市内各高校に配布する。同校生徒の学習成果として、アピールするとともに、高校生が地元企業を理解するきっかけや就職に関心を高めてもらう。今回の地元企業研究は、福山市「グローバル人材育成事業」の一環。3年計画で予定されており、今年度は1年目。初年度は福山商工会議所などに協力依頼し18

福山市立福山中・

高等学校（福山市

赤坂町赤坂910、

向井勝也校長）は

12月20日、福山市

立福山高校第1学

年が4月から取り

組んだ、地元企業

研究の成果発表会

を同校大望館ホー

ルで行った。学習の

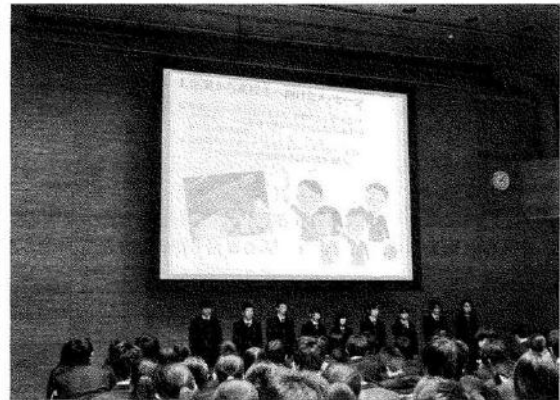
成果はA4判76ペー

ジの冊子「Hi-Hi

Hiふくやま」と

して千部印刷し、

発表会の様子



社が協力した。協力企業は次の通り。

- 青山商事(株) 池田糖化工業(株) 占部建設工業(株) 柿原工業(株) 栄栄工社(株) エフビコ(株) エプリー(株) サンエス(株) プレひまわり(株) ベッセル(株) 坂本デニム(株) タカオ(株) 日東製網(株) 早川ゴム(株) 広島化成(株) ホーコス(株) マナック(株) 柿原銘板製作所。

福山市立高1年生 地元18社取材し成果発表

事業内容や強みなど

福山市立福山高校（同市赤坂町九一〇、向井勝也校長）の一年生生徒が、市内に本社を置きつつグローバルな事業展開をしている企業一八社についての学習結果を発表する「成果発表会」が12月20日、同校で行われた。

福山市から「グローバル人材育成事業」の指定を受け、4月から一九八人の生徒が一八の班に分かれて担当する地元企業を取材。事業内容や技術力、戦略などを学んだ。発表は一班五分で、各社の業績や強みを紹介したII写真、また「他企業になかった発想で業界トップになった」「創



業以来、正社員数・店舗数・売上高が右肩上がり」などの特長も述べた。学習を通じて「チームワークや人のために働くことの大切さを教わった」と感想を話す班もあった。学習結果をまとめた冊子も作成。市内の全高校に配布し、地元の企業を知る足掛かりとする。同事業は今年度から三年間行われ、来年度と再来年度も一年生が同様の学習に取り組む。対象となった企業は次の通り（順不同）。青山商事(株) 池田糖化工業(株) 占部建設工

- 業(株) 柿原工業(株) 栄栄工社(株) エフビコ(株) エプリー(株) サンエス(株) プレひまわり(株) ベッセル(株) 坂本デニム(株) タカオ(株) 日東製網(株) 早川ゴム(株) 広島化成(株) ホーコス(株) マナック(株) 柿原銘板製作所

②「地域課題解決プロジェクト」：福山市立大学との高大連携事業

■2017年（平成29年）5月23日 山陽新聞

■2017年（平成29年）5月27日 中国新聞

JR福山駅前再生計画

地元高校生の視点で福山駅前の再生を考えます。福山市立福山高（赤坂町赤坂）の生徒が、魅力や活力に乏しいJR福山駅前の再生に向けたアイデアをまとめる取り組みを26日からスタートさせる。市立大（港町）が人材や施設の提供などで協力。生徒は駅周辺でのまち歩きやワークショップなどを経て、11月に成果を発表する。

高校生視点でアイデア

26日スタート 20年生20人 11月に発表会

市立大による初の「ハコ」としての学部分「高大連携事業」。福野さんらの活動について山高2年生約20人が参観して前向き。2回目以降も予定しており、同僚、生徒は地域（この大都市経営学部の太田経済活動を分析できる）前奉非常勤講師（まちづくり）とゼミ生10人の情報支援ツール「リーサス（地域経済分析システム）」の活用。ワークショップなど計8回の活動をサポートする。今月26日に初回があり、太田講師が福山高で「都市計画」「まちづくり」の授業は入程度

「高大連携事業」は、福野さんらの活動について山高2年生約20人が参観して前向き。2回目以降も予定しており、同僚、生徒は地域（この大都市経営学部の太田経済活動を分析できる）前奉非常勤講師（まちづくり）とゼミ生10人の情報支援ツール「リーサス（地域経済分析システム）」の活用。ワークショップなど計8回の活動をサポートする。今月26日に初回があり、太田講師が福山高で「都市計画」「まちづくり」の授業は入程度

グループで行う。全員投票による審査のため。8月の中間発表を経て、同大の大学祭に合わせ11月11日、学性化に向け、駅前再生計画で最終発表会を開催。市立大は「大学の再生に関するまちづくりのアイデアを提案する教育研究機能や資源を

生徒に提供すること、多岐にわたる。市は中心市街地の活性化に向け、駅前再生計画では、地元高校生ならではの視点で、駅前再生計画に期待したい」としている。（河内慎太郎）

再生アイデア 高校生発信へ

市立福山で講座

福山市立大（港町）は26日、市立福山高（赤坂町）2年生を対象に地元の高校生が考える福山駅前再生計画「ハコ」について通称講座を始めた。受講を希望した20人が参加。11月の大学祭で駅前再生のアイデアを披露する。この日は同校で放課後に実施。都市経営学部の太田尚孝講師がメインで話した。

「まちづくりに必要な視点、学祭でグループワークについて講義し、「皆さんがこれからの福山をつくる。素朴な疑問をぶつけてほしい」と伝えた。生徒は、福山駅前の印象を「交通は利用しやすい」「買い物をするところがない」など話した。

「まちづくりに必要な視点、学祭でグループワークについて講義し、「皆さんがこれからの福山をつくる。素朴な疑問をぶつけてほしい」と伝えた。生徒は、福山駅前の印象を「交通は利用しやすい」「買い物をするところがない」など話した。

（衣川圭）



市立大の太田講師（右端）から、まちづくりに必要な視点を学ぶ福山高2年生

今後、駅前や大学生の「駅前は寂しいと感じる。住民の視点をし、大点で意見を言いたい」と意気込んでいた。

■2017年（平成29年）5月30日 山陽新聞

福山駅前活性化を

福山高で 市立大講座 まちづくり考える

福山市立福山高（赤坂町）の生徒が、講座が同高であり、生徒がまちづくりに興味を深めた。2年生20人が参加。太田講師は、まちづくりを考へる上で好奇心を持って「駅に新幹線が止まり便利だが、あまり活気がない」「遊べる場所がほしい」など意見を話し合った。太田講師は「幅広い世代が使う場所。皆さんの思う。自分の住んでいるような若い年代の意見を町をもっと一度考えてみる町をもう一度考える」と話していた。

木曾利央さん（16）は「駅前には自習室のような施設があればいいと思う。自分の住んでいる町をもっと一度考えてみる町をもう一度考える」と話していた。

太田講師（奥）に福山駅前について意見を述べる生徒





再始動 福山駅前

街の改善点歩いて発見 市立大生ら

福山市立大（港町）と市立福山高（赤坂町）の学生が28日、JR福山駅周辺を歩き、にぎわいづくりのための課題を探った。ワークショップ（WS）で改善点を議論した。

同高2年21人と、同大都市経営学部4年の8人が参加し、市職員や教授と福山城や伏見町を散策。生徒は歩道の幅や駐輪場の状況を気にしつつ、広島や尾道など、他市の中心部との違いも考えながら歩いていた。

霞町のまなびの館ロースコムでのWSでは、エリアを五つに分け議論。「アーケードがある場所やガード下

が暗い」「古い建物が多く、リノベーションを取り入れたまちづくりを」などと話した。同大が開く連続講座「地元高校生が考える福山駅前再生計画」の一環。11月に成果発表した。（高本友子）

表する。同高の嘉藤涼稀さん（16）は「空きテナントが多く印象が悪くないと気付いた。活気がある街になるよう意見を出した」と話していた。（高本友子）

福山駅前再生 学生ら計画

「地域の発展」テーマ 市立大・高校連携



福山市の職員の案内を受けて福山駅前を探索する高校生や大学生ら＝福山市

人通りなど調査、11月に発表

福山市立大学が、市立福山高校と連携してJR福山駅前の再生計画に取り組んでいる。市立大が今年度から始めた「高大連携事業」の第1弾。28日には学生と生徒約30人が駅前の大通りや空き店舗の状況などを歩いて探索、11月に再生計画をまとめる予定だ。

「高大連携事業」は、市立大が高校生に教育施設や研究機能を提供し、次世代の人材育成を図るのが狙い。今回は市立の福山8人、福山高側は総合的な高校と連携し、「地域の発展」をテーマに、福山駅を

年生2人が参加する。これまで参加者は、太田さんの講演のほか、住宅や学校、コンビニなどのカードを並べるゲームを通じてまちづくりのあり方を学んできた。28日は福山市職員の案内を受けながら、約1時間にわたり駅周辺の商業ビルや商店街を探索。流動客数の推移や再開発の動きについて説明を受けた。

参加した福山高2年の嘉藤涼稀さん（16）は「歩いてみると建物の上側に空室が多いことが分かった」。市立大4年の増田花歩さん（21）は「高校生は私たちが違う視点もあると思う。今のマイナスを解決する方法を探りたい」と話した。

今後参加者は8月に中間報告を行い、そこで出された意見をもとに11月の大学祭で最終計画を発表する予定だ。太田さんは「学生や生徒が自分で考えて、福山の長きと問題意識を深めるきっかけになって欲しい」と話した。

（大野剛志）



福山駅前再生考える

市立大生 高校生と意見交換

JR福山駅前の再生された。大学生と高校生 合った。
をテーマにした福山市が一緒に駅前一帯を歩 同大市経営学部の
立大学（港町）と市立き、発見した課題や活 太田尚孝非常勤講師
福山高（赤坂町赤坂）性化に向けた改善案など、とセミに所属する4
の連携事業が28日午後7時から10時にかけて意見を出し、年生8人、同高2年

市福山駅前再生推進室の職員（右）からJR福山駅前の状況について説明を受ける高校生ら

生21人が参加した。一頓挫した伏見町地区な
市福山駅前再生推進 などを約1時間半かけて
室職員の案内で、市 視察。職員からこれま
役所から福山城周辺や での再開発の流れなど
閉館中の商業施設・キ について説明を受け
ヤスバ、再開発事業が た。

その後、まなびの館知らなかった店があ
ロースコム（福間）で るなどいろんな発見
ワークショップを突 があった。若い人に
施、エリアごとに五つ 来たいと思ってもら
のグループに分かれて える場所になるよう
意見交換した。高校生 考えたい」と話してい
た。これは「駅内に勉強し
たり休んだりできる場
所がない」「福山城に
自撮りスポットを設け して今年5月にスタ
てみては」など気付け いた点を発表してい
た。
福山高の大住真央さ まとめ、11月の大祭
ん（17）は「駅周辺を で発表する。
じっくり歩いてみて、 （洞井宏太）



空き地の活用策考える

福山市立大でワークショップ

参加者 アイデアを模型に

空き地の有効活用を が6日、福山市立大港 考えるワークショップ 町であった。参加者
考えて模型を作った。 小中高校生と保護者
の計9人が参加。同大
の高橋美佳講師（建築
設計）が市中心部で増
えている空き地の現状
を紹介。「景観を損な
う上、まわりにぎわい
も低下する。一方にい
ろいろな使い道もでき
る」と説明した。

参加者はアイデアを
メモ用紙にまごめ、ス
チレンボード（縦32センチ、
横40センチ）に表現。画用
紙や紙粘土などを使
い、ドッグランや木々
に囲まれたフードコー
トなど、それぞれ趣向
を凝らした模型を作
った。
花のアーチや噴水を
備えた広場を考案した
福山高2年村上咲季さ
ん（16）は「通行人が気
軽に立ち寄れる場所を
テーマにした。アイデ
アを考えるのは楽しか
った」と話していた。
（太田孝一）

空き地の有効活用を考える
ワークショップで模型作り
に取り組み参加者

写真映える空間を 福山高生 再生アイデア発表



和風カフェ・地下道フリマ

福山市福山高（赤坂町）の生徒が11日、JR福山駅前の再生計画案を市営（港町）の大学祭で発表した。会員制交流サイト（SNS）に投稿したくなる空間づくりのアイデアを発表した。（衣川圭）

再始動 福山駅前

約50人が見守る中、生徒約20人は地味色の5班に分かれてアイデアを披露。「駅東一帯」の4人は、再開発計画が白紙になった伏見町再生のコンセプトを「懐かしさと新鮮さ」

和風カフェ誘致などのアイデアを発表する市立福山高の生徒。

「愚ヶ街」と打ち出し、琴の音を流して街への期待度アップの地下道。待ち行列の短縮、学生は「懐かしさ」と語り、フリーマーケットを開催し、駅前の活性化を受けながら、アイデアを市民に提案した。

他の班は、駅改札で、北側の自転車乗降の利便性向上と小学生のイラストなどの設置自らの意見を出した。また、駅前には福山を象徴するキャラクターやデータ分析をしてきた。平山文美さん（17）は「自分たちにも福山を愛するチャンスがあると気づいた。みんなで自らの古里になるようにしたい」と話していた。

商業地区に傘、フリマで集客… 駅前再生アイデア次々



福山高生が発表 市立大 協カ

同校の高大連携事業の一環として、同高2年生約20人が、同大都市経営学部の太田尚孝市議員らと協力をし、市民約50人が集まる中で発表した。市議員らも興味を示し、市民約50人が集まる中で発表した。市議員らも興味を示し、市民約50人が集まる中で発表した。

福山高生が発表 市立大 協カ

同校の高大連携事業の一環として、同高2年生約20人が、同大都市経営学部の太田尚孝市議員らと協力をし、市民約50人が集まる中で発表した。市議員らも興味を示し、市民約50人が集まる中で発表した。

市立大（南原久人）

地元企業 魅力いっぱい

福山高生 冊子作り向け学ぶ

福山市赤坂町の市立福山高で20日、1年生200人が地元企業の担当者に事業内容や強みを聞いた。同校は昨年度に続き、地元企業の魅力をまとめた冊子作りを進めている。

市内に事業所のある工作機械や運送業など18社の担当者が、仕事の内容や職場を説明。生徒は他の企業にない魅力や、やりがいを探った。

キングパーツ（同市御幸町）の担当者は、ろうを用いた金型から作った模型を見せ、精密な部品を造り加工まで自社で行う強みを紹介した。安藤駿汰さん



キングパーツの担当者（右端）に仕事の魅力などを尋ねる生徒たち

（吉原健太郎）

キングパーツの担当者（右端）に仕事の魅力などを尋ねる生徒たち

1プごとに企業を訪問し、12月に冊子を作成させる。千部発行し、市内の高校に配る。地元企業への関心を高めてもらう市のグローバル人材育成事業の一環で、同校は昨年始めた。

幕山台対象 まちづくり提案

ふれあひ文化祭



まちづくりについて意見を発表する福山高生ら

坂道を巨大スライダーに

福山高生と市立大生発表

福山市立福山高（赤坂町赤坂）と市立大（港山台）の学生が4日、幕山台であった地区文化祭で、地域の特色を生かしたまちづくりへの意見を発表した。

幕山台を対象にしたまちづくりがテーマ。同高2年生と同大都市経営学部3年生の計約10人が、フィールドワークや自治会との意見交換などで感じたことをもとに発表した。

坂道が多いという特徴を挙げたグループは、坂道を巨大なウォータースライダーにして若者が集まるイベントを開催することを発表。別のグループは、買い物ついでにまちの見回りをする「ついでパトロール」などを提

を開催すれば、若い世代も自治会に関わってくれると思う」と話していた。

高大連携事業の一環。「郊外団地のまちづくり」をテーマに、両者が協力して地域の課題や魅力について考えている。17日に市立大

ある港輝祭でも発表を行う。（良田桃子）

■2017年（平成29年）10月2日 山陽新聞

オーストラリアや韓国への訪問を通じて国際交流を深めている福

豪と韓国訪問 福山中・高生

経験、意気込み語る

市役所

山市立福山中・高（赤坂町赤坂）の生徒が9月29日、市役所を訪れ、



現地で得た貴重な経験や今後予定している海外研修への意気込みを語った。

同中・高の生徒は、高校2年の2人が7月8日から約2カ月間、オーストラリアのトゥーンバ市にある姉妹校ダウンランズカレッジに留学。別の中学3年と高校2年の計24人は7月24日から15日間、同校に語学研修で通った。中学1〜3年の計25人は、福山市と親善友好都市の韓国・浦項市の提携校大東中学校を国際交流の一環で10月14日から4日間

訪問する。この日は代表5人が市教委の佐藤元彦教育次長らに報告。語学研修に参加した生徒は、家族や趣味などを紹介する写真を貼り付けたスケッチブックがコミュニケーションに役立ったと紹介。大東中学校を訪ねる生徒は「文化の違いを知ることで物事をさまざまな視点で見る力をつけたい」と抱負を語った。

留学した高校2年北村優渚さん(17)は「積極的に話しかけるように心掛けた。今までと違う考え方に触れ、自分の意思を伝えることの大切さが分かった」と話していた。

（南原久人）

④「国際課題解決プロジェクト」：マウイ生徒との交流

■2017年（平成29年）6月3日 山陽新聞

ハワイの高校生来校 ジャズ演奏で親睦深める

市立福山中・高

福山市の親善友好都市の米ハワイ州マウイ郡にあるキング・ケカウリケ高校の生徒たちが2日、市立福山中学・高校（赤坂町赤坂）を訪れ、ジャズを演奏するなどして親睦を深めた。

福山中学・高校でジャズ演奏を披露するキング・ケカウリケ高の生徒



同校の高校2年生18人が今年3月、語学留学でハワイを訪れた際に交流したのが縁となった。キング・ケカウリケ高ジャズバンド一行は中庭でミニコンサートを実施。トランペットやドラム、サクソフォンなどで息の合った演奏を披露し、生徒たちを沸かせた。その後、各教室を回って授業を見学。英語の授業に参加し、自己紹介したり英単語を読み上げたりして触れ合った。

ラブの18人と保護者らが長期休暇を利用して5月31日に来日した。市役所を表敬訪問した後、同校を訪れた一行は中庭でミニコンサートを実施。トランペットやドラム、サクソフォンなどで息の合った演奏を披露し、生徒たちを沸かせた。その後、各教室を回って授業を見学。英語の授業に参加し、自己紹介したり英単語を読み上げたりして触れ合った。

高校2年ジェイク・トーマス君(15)は「日本の生徒たちがすごく興味を持って自分たちの演奏を聴いてくれた。温かく受け入れてくれてうれしい」と笑顔。同1年幸春花さん(15)は「ジャズを生で聴いたのは初めてで感動した。英語で会話もできて楽しかったので、いつかハワイに行ってみたい」と話していた。

一行は6月8日まで

の日程で京都、東京などを訪れ、各地の高校などで交流を行う。
(洞井宏太)

⑤「国際課題解決プロジェクト」：ポハン生徒との交流

■2017年（平成29年）5月23日 中国新聞

浦項の生徒迎え 茶道で文化交流
市立福山中・高

福山市の親善友好都市 韓国・浦項市の大東中の生徒たちが22日、家庭研究部がお点前を披露。慣れない正座に耐えながら、部員がたてた抹茶と茶菓子を楽しんだ。大東中3年のキム・チウクさん（17）は「韓国の茶文化と違って静かな雰囲気を感じた。20日に来日し、21日には高校生徒で「福山」を視察した。（高本友子）

日、友好提携校の福山市立福山中・高を訪れ、茶道などを体験した。生徒と教員19人が来校し、ドッジボールや体験授業で交流した。放課後の茶道体験では、家庭研究部がお点前を披露。慣れない正座に耐えながら、部員がたてた抹茶と茶菓子を楽しんだ。大東中3年のキム・チウクさん（17）は「韓国の茶文化と違って静かな雰囲気を感じた。20日に来日し、21日には高校生徒で「福山」を視察した。（高本友子）

茶道を体験する大東中の生徒たち

■2017年（平成29年）5月24日 山陽新聞

茶道体験、スポーツで交流

福山中高 韓国の中学生訪問

韓国・浦項市の大東 福山中高（赤坂）を訪問し、茶道やスポーツ交流を行った。家庭研究部がたてた茶を味わう韓国の生徒

家庭研究部がたてた茶を味わう韓国の生徒

20日に親睦を深めた。17の3年生と教諭計19人が訪問。茶道体験は礼法室で実施し、家庭研究部の中学生14人も参加した。生徒らは高校3年清水梨紗部長（17）が茶をたてる様子に興味深そうに眺めるなどしながら、厳かな空間で和菓子や抹茶を味わっていた。

3年キム・チウクさん（17）は「韓国の茶文化と違って静かな雰囲気なのが良かった。少し苦かったがおいしかった。清水さんは「みんな全部飲んでくれてうれしかった。体験を通して日本に興味を持ててほしい」と話していた。

この日はほかに数学や国語などの体験授業、ドッジボールでの交流もあった。大東中は福山中高と2015年6月に友好提携を結んでおり、この年から毎年同校を訪問。今年も福山はら祭りに合わせて20日に来日し、21日には祭会場を訪れた。（高橋由大）

■2018年（平成30年）10月17日 山陽新聞

スポーツ通じ国際交流
韓国の中学生が福山中高訪問

一緒にフラフープくぐり

大東中の17の3年生と教諭3人が訪問。3年モン・ジェン（16）は「顔見知りだ。流しは楽しかった。12人は「フリの良いのが印象的。フレンドリーだった」と話した。

大東中は福山中高とを結んでおり、毎年同校を訪れている。今年13日に来福し、生徒の家庭でホームステイした。15日に九州移動、17日に韓国を予定。（内田博文）

フラフープをくぐる運動をする大東中の生徒（中央）と市立福山中の生徒たち

⑥「国際課題解決プロジェクト」：模擬国連

■2018年（平成30年）9月13日 朝日新聞

「模擬国連」といっても、高校生や大学生が大使役になり、本物の国連の会議と同じように議論や交渉を行う。各年の全日本模擬国連大会は今年16回。活動がもっとも盛んなのは模擬国連部だ。その大会に参加すると自国がかなり競争が激しくなり、もう一つは国連を広く深く知り、全国から1000人以上が集まる「グローバル」が始まった。8月に東京で開催、全国から1000人以上が集まる。議題は「国際安全保障の文脈における情報通信技術の進歩（サイバーセキュリティ）」、「高橋先生」などをテーマにした。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。

「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。

「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。



秋山 調子 (編集委員)

初心者向け議場で「普通」の生徒の一步が希望

「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。

「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。

「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。

「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。高橋先生は「高橋先生」として知られている。

◆ザ・コラムは毎週木曜日に掲載します。

■2018年（平成30年）11月13日 山陽新聞

17、18日 東京 市福山高生が模擬国連出場 武蔵野校テーマ「積極発言したい」 大会は、模擬国連と異なり、議題の政治的取組はなし。福山高校からは、英語で考えたい、積極発言したい、というテーマで出場。福山高校からは、英語で考えたい、積極発言したい、というテーマで出場。

■2018年（平成30年）11月16日 中国新聞

福山高生 模擬国連大会へ 17-18日「武器移転」テーマ 福山市立福山高（赤坂町）の2年生4人が、17、18日、国連大（東京）である全日本高校生模擬国連大会に出場する。2人1組で担当する国の大使役となり、「武器移転」をテーマに政策を英語と日本語で議論する。書類選考を通過した全国68校86チームが出場。各チームは国連総会第1委員会（軍縮）になぞらえ、当日発表される各国の立場から決議案作成を目指す。幸春花さん（16）と岡井瑞希さん（17）、曾根メライティさん（16）と妹尾聖々さん（17）の福山高の2チームは、外務省や国連の情報、文献で各国の政策を調べ、武器取引の規制の経緯などを学んできた。岡井さんは「武器と経済の関係などから、国の本音を推測するのに苦労した。しっかりと主張を伝えたい」と話す。大会優秀チームは来月5月、ニューヨークである国際大会に出場する。（吉原健太郎）

⑦「国際課題解決プロジェクト」：観光甲子園

■2018年（平成30年）8月25日 産経新聞

■2018年（平成30年）9月19日 中国新聞



「全国高校観光選手権大会」海外部門でグランプリを獲得した福山市立福山高校のチーム＝神戸市

観光プランのアイデアを「市立福山高校の曾称メラチーさん（16）と妹尾寧々さん（16）」の2年生2人が提案した。同校からのエントリーは今回が初めてで、応募した2組のうち、曾称さんと妹尾さんが決勝大会に進んだ。

海外旅行に出かける日本人向けの海外部門と、訪日する外国人観光客向けの訪日部門があり、書類審査による予選を勝ち抜いた11校が、28日に神戸市で開かれた決勝大会に出場。各校が工夫を凝らしたアイデアを10分ずつプレゼンテーションし、予想される満足度や経済効果などの観点から審査を受けた。

曾称さんと妹尾さんは、広島県から米国・ハワイに移住した曾称さんの曾々祖父の足跡をたどるツアーを提案。ハワイ移民150年を記念する今年の大会テーマにストレートに取り組み

「高校観光選手権大会」海外部門 市立福山の2人優勝

高祖父たどる旅 全国V

福山高の曾称さん・妹尾さん
ハワイ移民 農地など巡る

表彰状と副賞のパネルを掲げる妹尾さん（左）と曾称さん（右）

高祖父が観光企画を「高祖町」生まれ。19歳で「観光甲子園」で、12年、ハワイに渡り福山市赤坂町の市立福山高2年生のペアが海外部門のグランプリを受賞した。曾称メラチーさん（16）と妹尾寧々さん（16）は同市松永町。ハワイに移住した曾称さんの高祖父万吉さんの足跡をたどるツアーを提案。全国各校47件の頂点に立った。

万吉さんは1875年、旧神戸郡（現神戸市）の旧日移民渡船150周年を記念して新設した。

海外部門は、ハワイ月に神戸市であった3日間の決勝を勝ち抜いた。「家族の歴史をたどるといふ普通性」が評価された。2人は来年1月、副賞の取材旅行でハワイを訪問する。「写真と同じ場所に行き、万吉さんが見た景色に思いをはせた」と口を揃える。（富田直人）

高祖父が観光企画を「高祖町」生まれ。19歳で「観光甲子園」で、12年、ハワイに渡り福山市赤坂町の市立福山高2年生のペアが海外部門のグランプリを受賞した。曾称メラチーさん（16）と妹尾寧々さん（16）は同市松永町。ハワイに移住した曾称さんの高祖父万吉さんの足跡をたどるツアーを提案。全国各校47件の頂点に立った。

万吉さんは1875年、旧神戸郡（現神戸市）の旧日移民渡船150周年を記念して新設した。

海外部門は、ハワイ月に神戸市であった3日間の決勝を勝ち抜いた。「家族の歴史をたどるといふ普通性」が評価された。2人は来年1月、副賞の取材旅行でハワイを訪問する。「写真と同じ場所に行き、万吉さんが見た景色に思いをはせた」と口を揃える。（富田直人）

■2018年（平成30年）9月1日 山陽新聞

観光甲子園グランプリ
福山高の2人受賞
教育長へ報告 プレゼンも披露

神戸市で8月28日に行われた観光甲子園コンテスト「全国高校観光選手権大会」（観光甲子園）の海外部門で、福山市立福山高の2年生2人がグランプリを受賞。30日、市役所で



プレゼンテーションを披露する曾称さん（右）と妹尾さん

三好雅章教育長に成績を報告し、本番で行ったプレゼンテーション

を披露した。曾称メラチーさん（16）と妹尾寧々さん（16）。曾称さんの高祖父のハワイへの移民をテーマにしたプランでグランプリに輝いた。プレゼンテーションでは、高祖父の足跡に沿ってハワイの4カ所を巡る観光コースを説明。三好教育長は「2人の言葉にはたくさん思いや調べたことが裏打ちとしてあり、聞く人の心に届いたと思う」と感想を述べた。

2人は来年1月ごろ、副賞のハワイ取材旅行で高祖父ゆかりの地を訪ね歩くという。曾称さんは「一家の歴史をたどったり、他の移民の子孫の意見も聞いてみたい」、妹尾さんは「今度は自分の先祖について調べたい」と話していた。（内田博文）

ユネスコ提出申請資料 (和文)

Application for Participation

*Associated Schools Project (ASP)
for Promoting International Education*

Outline of the way the Project(s) will be implemented in the institution

(please use extra sheets if necessary)

■ Description of the Project (プロジェクトの概説)

本校は、広島県東部の人口 47 万人の中核都市、福山市に位置している。2004 年に中学校を併設し、2017 年に開校 14 年目を迎える公立の中高一貫教育校である。

本校は、学校教育目標「創造的な知性と豊かな心の調和的な発達を図り、国際社会に貢献できる人間を育成する」に基づいて設定した「生徒に付けたい三つの力」(「21 世紀に必要なコミュニケーション能力と探究能力」, 「進路希望を実現する確かな学力」, 「自己を高め社会に貢献する意欲・態度」)を踏まえ、地域社会とグローバル社会で活躍する人づくりを目指して地域と国際社会を支える人材の育成に取り組んできた。

ユネスコスクールとしては、これまでの取組をさらに発展させ、各生徒に持続可能な社会の担い手として必要な知識、能力、態度、価値観を身につけさせることを目的として、「地域課題解決プロジェクト」「国際課題解決プロジェクト」および「生き方・在り方探究プロジェクト」の3つを、総合的な学習の時間を中心に他教科や特別活動と関連づけながら中・高等学校の全学年で実施する。

「地域課題解決プロジェクト」では、福山市全校で取り組んでいる「ふるさと学習」や本校独自の「誰もが暮らしやすい福山の街づくり」などの実地見聞を伴う体験的な学習を通して、身近な地域を知り、課題解決に取り組む基礎を育成する。「国際課題解決プロジェクト」では、各国の調査・発表を行い、海外修学旅行先や姉妹校と国際交流を行う。さらに、海外の中高生と共通課題について思考し解決策を英語で提案(提言)するアクション型の交流活動を行う。「(個人としての)生き方・在り方探究プロジェクト」では、自分自身の長所や魅力を発見し自尊心を高め、講演や特別活動での学びを活かしてライフプランを設定し、大学や社会でのよりよい「生き方・在り方」を考える。

■ Objectives of the Project (プロジェクトの目的)

「地域課題解決プロジェクト」「国際課題解決プロジェクト」および「生き方・在り方探究プロジェクト」の3つのプロジェクトにより、身近な地域社会の持続可能性の向上に取り組むとともに、地球的諸課題の解決を図ることで、個人としての生き方・在り方を含めた資質・能力の向上に取り組む。

これらのプロジェクトによって、各生徒に持続可能な社会の担い手として必要な以下の資質・能力を身につけさせることを目的とする。

(能力面)

- ①データや情報を分析・整理する力
- ②知識・技能を創造的・探究的に活用・表現する力
- ③地域や国際社会などにおける課題を発見し、解決する力

(資質面)

- ④他者と協働する態度
- ⑤個人的・社会的責任を重んじ、自他を尊重する態度
- ⑥新しいことや困難なことに対するチャレンジ精神

このうち、各プロジェクトの目的の重点を次のように設定する。

	能力面			資質面		
	①情報	②活用	③解決	④協働	⑤尊重	⑥挑戦
地域課題解決プロジェクト	○	○	○	○		
国際課題解決プロジェクト	○	○	○			○
生き方・在り方探究プロジェクト		○			○	○

■Execution (プロジェクトの実施)

(e.g. through a specially designed course, through an existing course(s) or as an extracurricular activity)

以下、プロジェクトごとに、活動の内容・方法、学年、時期、連携・交流対象などを示す。

(1) 地域課題解決プロジェクト

地域について知り、発見した課題を解決する方策を考え、提言・改善の実行につなげる。

①ふるさと学習 (中学1年, 1学期, 20時間, 総合的な学習の時間)

福山の歴史や資源、人々の営みについて、副読本を活用したり地域に出かけたりしながら学習を深める。体験的な学習により、ふるさとへの愛着と誇りを育てることで、将来、福山で、日本で、世界で自分の夢を実現させながら、たくましく生きる拠り所をつくる。

②誰もが暮らしやすい福山の街づくり (中学1年, 2～3学期, 40時間, 総合的な学習の時間)

各自の出身地域を中心に「誰もが暮らしやすい福山の街づくり」を考える。地域を訪れ、長所や課題を検討し解決策を提案する。情報はまとめて市役所などの公的機関に提供する。

③職場体験学習 (中学2年, 4～12月, 80時間, 総合的な学習の時間)

将来就きたい仕事をN2法で探り、特色、魅力、資格、進学先などを調査する。保育所やスーパーなどでの職場体験学習の前には、電話のかけ方や挨拶文やレポートの書き方などのマナー学習を行う。5日間の職場体験後には、レポートにまとめ冊子化し(体験先に届ける)発表会を行う。

④高校版「ふるさと学習」(高校1年1～2学期, 20時間, 総合的な学習の時間)

福山市企画政策課「次期人材育成プロジェクト」との共同事業。地元の企業研究を行い、将来、福山市に就労し地元で貢献できる人材を育成するプログラムを実施する。企業人を招聘し「ラーニングカフェ」の実施、企業訪問研修、企業研究発表会等を実施する。地元企業の認知・理解、事業・仕事への関心、地元産業の課題と解決策について思考を深め、地元で貢献する生き方についての意欲と態度を育成する。

⑤夏休みの課外活動や研究活動に挑戦 (高校1～2年, 夏休み, 課外活動)

夏休みの課題として、各種団体が実施する高校生議会や未来探究プロジェクト、ボランティア活動などに自主参加する。生徒は「今ログ」等のサイトを活用し学びを蓄積する。

(2) 国際課題解決プロジェクト

世界を知り、発見した課題を解決する方策を考え、交流・提言・改善の実行につなげる。

①国際理解 (中学3年, 4～9月, 20時間, 総合的な学習の時間)

世界各国の歴史や文化を学び、異なる価値観と共生する態度を学ぶ。調査国(地域)を決定し、衣装や発表用ポスターを使ってポスターセッション形式で発表を行う。中高一貫校の特設教科「コミュニケーション」の授業と社会科の学習と関連づけて実施する。

②海外修学旅行 (高校2年, 8～11月, 20時間, 総合的な学習の時間)

修学旅行先のシンガポールとマレーシアに関する研修課題テーマを設定する。事前に調査した内容をレポートにして冊子化しクラス発表を行う。現地では研修テーマを体験的に検証する。英語科の授業で会話やディスカッション等にも取り組む。

③姉妹校との国際交流 (希望者, 8月, 3月頃, 課外活動)

夏休みに2週間、希望者がオーストラリアの姉妹校に通いホームステイをする(毎年20名)。3月にはマウイで語学研修を行う。福山市の親善友好都市・韓国ポハンからは毎年、オーストラリアからは2年に一度生徒を受け入れ、各授業や部活動で交流を継続する。異文化交流に加え共通テーマで思考、提案したり、ウェブ会議システムを活用したりする。

④海外ボランティア活動 (希望者, 8月, 課外活動)

夏休みに生徒1名が、文科省所管の社会教育団体SYDのプログラムに応募し、フィリピンのゴミ山で暮らすスカベンジャーと呼ばれる子どもたちを訪問する。現地での体験を招聘したSYD講師とともに学年発表する。その後、具体的なアクションを考え、実行する。

⑤模擬国連 (希望者, 9～11月, 特別活動)

国連会議をはじめとする国際会議のシミュレーションを行う。有志を募り夏休みから議題に関する調査活動を始め大学教授を招聘して高度な学習を行う。体験者は学年で発表し、文化祭等でも体験プログラムを提供する。なお、本校はここ5年間で3度の模擬国連全国大会出場を果たしている。

(3) 生き方・在り方探究プロジェクト

自らの長所や魅力を発見し自尊心を高め、ライフプラン設定過程を通して生き方・在り方を考える。

①自分発見学習（中学1年，4～5月，12時間，総合的な学習の時間）

自分自身の特徴を見つける学習。小学校までの学習や活動（写真，賞状，認定書）から自分の魅力を発見し，パーソナルポートフォリオにファイルする。資料をもとに魅力に関する自他の発表から，考え方や行動を変えるなどし，将来の目標をより具体化する。

②進路研究Ⅰ「キャリア学習」（中学3年，10～2月，50時間，総合的な学習の時間）

中学3年次の東京修学旅行を生徒の力だけで運営するための取組。東京を10の地域に分けて調査地域を確定する。経済や教育，環境など研修テーマを設定し，現地調査と検証を目標にコース編成する。現地での学びをレポートやポスターにまとめ，パワーポイント等を用いてプレゼンテーションを行い，キャリア教育（自己理解と進路研究）につなげる。

③進路研究Ⅱ「ライフプラン」（高校1年，11～1月，8時間，総合的な学習の時間）

同窓会の協力を得て社会人講演会を実施し，夏季休暇中には地域の人に「仕事インタビュー」を行う。家庭科の学習と関連づけて将来の夢や目標・方法を考えライフプランを設計する。クラスで冊子にして，保護者に配付するとともに学級，学年で発表して学び合う。

④進路研究Ⅲ「課題研究」（高校2年11月～3年，40時間，総合的な学習の時間）

自己の進路に合わせて，興味・関心を持った事柄，現代社会での問題，あるいは特定の学問分野に関して，自ら課題を設定し調査研究を行う。高校2年次の「ミニ課題研究」を踏まえ，3年次ではさらに深い調査研究を行い，レポートにまとめて発表する。

■Type of materials to be used（使用する教材）

各プロジェクトで使用する教材・教具や資料の中から，特徴的なものを以下に示す。

①教材・教具

- コンピュータ，タブレット型端末，キャリアノート，ポスター用紙，パワーポイント

②書籍

- 『大好き！福山～ふるさと学習～《上下巻》』福山市教育委員会，非売品，2015
- 『未来をひらくESDの授業づくり』藤井浩樹・川田力監修，ミネルヴァ書房，2012
- 『未来をつくる教育 ESDのすすめ』多田孝志他，日本標準，2008
- 『今，求められる力を高める総合的な学習の時間の展開』文部科学省，2017

③ウェブサイト

- ユネスコスクール公式ウェブサイト：<http://www.unesco-school.mext.go.jp/>
- SYD公式ウェブサイト：<http://www.syd.or.jp/>
- 今ログ（学び挑戦している今を記録に残そう）：<https://shikoku.applyjapan.com/>

■Is there any type of evaluation to examine the effects of the project on students' comprehension

and attitudes?（プロジェクトに対する生徒の理解と姿勢の評価方法）

(1) 評価の材料

- 調査レポート，振り返りシート，プレゼンテーション・発表内容，製作物
- 各活動への取組姿勢・態度，協働姿勢

(2) 評価の方法

- 「プロジェクトの目的」(p.2)で記した「資質・能力」の観点に沿った評価のルーブリックを作成し，生徒の自己評価と教員を含めた外部評価に活用する（評価の整合性）。
- 職場体験学習では，職場の方から活動評価を実施し，評価コメントとして生徒に伝える。
- 課外活動や研究活動に挑戦，姉妹校との交流，海外ボランティア活動は，参加した生徒のレポートをもとに，評価コメントとして生徒に伝える。
- 上記以外は，調査レポート，プレゼンテーション・発表内容，協議等の内容や取組姿勢・参加協力態度を教員が観察・評価し，5段階評価の評点と評価コメントを生徒に伝える。

(3) 評価の時期

各活動の終了時および学期末・学年末に実施する。取組は常時観察する。

(4) 評価の観点

- ①データや情報を多角的・総合的に分析・整理・活用する力が身についたか。(プロジェクトの目的①②と対応)
- ②地域や海外の方と積極的にコミュニケーションを図り、発見した課題を創造的、協働的に解決しようとする態度が養われているか。(プロジェクトの目的①②③④と対応)
- ③個人的・社会的責任を重んじ、自分自身だけでなく他者や自然を尊重しようとする価値観が育まれているか。(プロジェクトの目的⑤と対応)
- ④新しいことや困難なことに対するチャレンジ精神が育まれているか。(プロジェクトの目的⑥に対応)

On behalf of my institution, I apply for participation in the UNESCO Associated Schools Project and give the assurance that this institution will make an active contribution to the Project, as outlined above, for a minimum period of two years. At the end of every year, I shall submit a report of the Project to the ASP National Co-ordinator of my country.

(本学校を代表して、ユネスコASPの参加申請をし、少なくとも2年間は上記概要にそってASPに貢献する活動を行うことを確約します。また、毎年ASPコーディネーター(※日本の場合は日本ユネスコ国内委員会)に活動のレポートを提出します。)

Date (日付)

Principal's name (校長名 (※直筆))

Position, (役職)

Institution's name (学校名)

(3) ユネスコスクール申請資料 (英文)

ユネスコ提出申請資料 (英文)

Application for Participation

*Associated Schools Project (ASP)
for Promoting International Education*

Outline of the way the Project(s) will be implemented in the institution

(please use extra sheets if necessary)

■ Description of the Project (プロジェクトの概説)

Our school was founded in 1899, and is located in Fukuyama, a city of 470,000 people in the eastern part of Hiroshima prefecture. 2017 will mark the 14th anniversary of combining our junior and senior high schools together.

Our school's stated educational goal is to "foster deep intelligence and harmony of heart and mind while nurturing students to contribute to the international community." Based on this, we established 3 abilities we wish to give each of our students: To have the communication and investigative skills essential in the 21st century, to have the academic abilities necessary to realize their desired careers, and to have the ability and desire to contribute to society. We have strived to raise students who are willing and capable of contributing to regional and international communities.

As a UNESCO Associated School, we would aim to further develop our efforts so that each student can acquire the knowledge, ability, attitude and values necessary to be a member of a sustainable society. Three projects we have already implemented are the "Regional Problem Solving Project," the "International Problem Solving Project," and the "Ways of Life Project." Each project is related to the period for Integrated Studies that all grades of our junior and senior high school must attend, as well as other classes and school activities.

The "Regional Problem Solving Project" is part of the greater "Hometown Learning Objective" that all Fukuyama city schools participate in. Specifically, our school began a project called "Making Fukuyama a Better Place Where Everyone Can Comfortably Live." Through experiential learning, such as field trips to the surrounding areas, students are developing the foundations of problem solving. For the "International Problem Solving Project," students conduct surveys and give presentations on various countries as well as participate in overseas school trips and international exchanges with sister schools. In addition, we conduct activities to think about shared problems with overseas junior and senior high school students, and propose solutions in English with the goal of putting them into action. In the "Ways of Life Project," students discover their own strengths and charms, increasing self-esteem. Making use of lectures and special activities, students think about their career and life goals.

■ Project Objectives (プロジェクトの目的)

The "Regional Problem Solving Project," "International Problem Solving Project," and the "Ways of Life Project" will work in harmony to improve the sustainability of local and international communities. By working on improving the sustainability of local communities and trying to solve global issues, participants will also work to improve their own individual qualities and abilities, including their ways of life.

With these projects, we aim to help each student acquire the following qualities and abilities necessary to be members of a sustainable society.

(Abilities)

- ① Ability to analyze and organize data and information
- ② Ability to utilize and express their knowledge and skills creatively
- ③ Ability to recognize and solve problems such as in regional and international societies and

so on.

(Qualities)

- ④Cooperative attitude and skills needed to work well with others
- ⑤Attitude that respects personal and social responsibilities and respects others
- ⑥Readiness to overcome new and difficult things with a spirit of challenge

The priorities and purposes of each project are as follows:

	Abilities			Qualities		
	① Research	② Utilization	③ Solutions	④ Cooperation	⑤ Respect	⑥ Challenge
Domestic Problem Solving Project	○	○	○	○		
International Problem Solving Project	○	○	○			○
Ways of Life and Inquiry Project		○			○	○

■Execution (プロジェクトの実施)

(e.g. through a specially designed course, through an existing course(s) or as an extracurricular activity)

Below, for each project, we show the contents and method of activities, grading, timing, cooperation / interaction targets, etc.

(1) Regional Problem Solving Project

Learn about the surrounding area, consider ways to solve the discovered issues, and find ways to implement the recommendations and improvements.

①Junior High School Version: Hometown Learning Objective (1st Year Junior High School, 1st Semester, 20 Class Hours, Period for Integrated Studies)

Students deepen their knowledge of Fukuyama's history, resources, careers and lifestyles by taking excursions to the surrounding areas and through auxiliary reading. Experiential learning will foster a sense of attachment and pride in Fukuyama, and encourage students to realize their dreams while making Fukuyama, Japan, and the whole world better places to live.

②Making Fukuyama a Better Place Where Everyone Can Comfortably Live (1st Year Junior High School, 2nd & 3rd Semesters, 40 Class Hours, Period for Integrated Studies)

Focusing on the surrounding area and how to make a "Fukuyama where everyone can live comfortably," students will visit the surrounding area, consider its advantages and challenges and propose improvements. Information will be organized and provided to public agencies, such as city hall.

③Workplace Experience Learning (2nd Year Junior High School, April-December, 80 Class Hours, Period for Integrated Studies)

Students will explore their desired career paths by utilizing the N2 method (a thinking tool) and investigating the features, charms, qualifications, university choices, and so on. Before beginning workplace experience at places like daycares and supermarkets, students will learn workplace manners such as greetings, phone calls, and how to write reports. After 5 days of workplace experience, students compile a summarizing booklet, which will be provided to their workplace, and give a presentation on their experiences to the other students.

④Senior High School Version: Hometown Learning Objective (1st Year Senior High School, 1st & 2nd Semesters, 20 Class Hours, Period for Integrated Studies)

This is a joint project with the Fukuyama City Planning Policy Division called "Raising the Next

Leaders.” We conduct research on local companies to develop and implement a plan that will raise people capable of working in Fukuyama city and contribute to the local area in the future. Our school invites business people to implement a “world café” with corporate visit training, corporate research presentations, and so on. This will allow students to deepen their thinking about local business, concerns of businesses, issues and solutions in local industry, and foster the motivation and attitude to contribute locally.

⑤ Summer Vacation Extracurricular Activities and Research Challenge (1st and 2nd Years Senior High School, Summer Vacation, Extra Curricular Activities)

During summer vacation, students voluntarily participate in high school student councils, plan various future research projects, perform volunteer work, and participate in other activities planned by various organizations. Students accumulate and report what they have learned on “Now Log,” a reflection journal website for students, supported by universities who utilize the journals during admissions.

(2) International Problem Solving Project

Students discover the world, think about strategies to solve international problems they have learned about, interact, give and receive suggestions for improvements, and implement them.

① International Understanding (3rd Year Junior High School, April – September, 20 Class Hours, Period for Integrated Studies)

Students will learn about the histories and cultures of countries around the world and learn different values and the attitude to coexist. Students will determine a country or region to research, followed by a poster presentation utilizing props or clothing. This is carried out in conjunction with Social Studies and the special subject, “Communication Class.”

② Overseas School Excursion (2nd Year Senior High School, August - November, 20 Class Hours, Period for Integrated Studies)

Students select problem solving projects about Singapore or Malaysia. Before the excursion, students must research, write reports and make booklets, all to be presented to their classmates. Students can then verify what they have learned through actual on-site experience. Students can practice discussions in English class.

③ International Interaction with Sister Schools (Open to Applicants, Around August or March, Extracurricular Activities)

Each year, for two weeks during summer vacation, twenty applicants attend our sister school in Australia and participate in a home-stay. In March, applicants study English in Maui.

Every year, our school welcomes exchange students from our “friendship city,” Pohang, Korea, and once every two years from Australia. These students partake in all classes and extracurricular club activities. In addition to intercultural exchanges, students think of global issues and, utilizing the web conference system, propose their ideas to international schools.

④ Volunteer Work Abroad (Open to Applicants, August, Extracurricular Activities)

During the summer, one applicant will be chosen to participate in a volunteer program supported by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT). This student will visit children called “scavengers” living on the mountain of garbage in the Philippines and present their experiences at our school with the lecturer they worked with. Finally, they will make an action plan and execute.

⑤ Model United Nations (Applicants, September – November, Extracurricular Activities)

After a selection process, students will participate in simulated international assemblies, such as the United Nations Conference. Students conduct preliminary research, invite university professors to our school, and (during summer break) begin to research specific subjects on the agenda. After the event, participants will give a presentation at our school about their experiences and what they have learned.

They will also be offered some related activities at our school's culture festival. Our school has participated in three of the last five All Japan Model UN competitions.

(3) Ways of Life Project

Students discover their own strengths and charms, increase self-esteem, and plan their ideal lives.

① Self Discovery Learning (1st Year Junior High School, April – May, 12 Class Hours, Period for Integrated Studies)

Students learn to find their own characteristics. Using photos, awards, and certificates earned in elementary school, students discover their own charms and create a “personal portfolio.” Using the materials to create a presentation, students change their behavior, the way that they think about themselves, and make more specific goals for the future.

② Course Study I “Career Learning” (3rd Year Junior High School, October – February, 50 Class Hours, Period for Integrated Studies)

Entirely on their own, junior high school students manage the school excursion to Tokyo. Tokyo is divided into 10 sections to determine what students will research. Students research various themes, such as economics, education, and the environment. They also organize the course in ways aimed to deepen their knowledge through field survey and verification. Information/experiences learned on site will be summarized in reports, poster boards, and PowerPoint presentations, and will be used for career education (understanding self and future career).

③ Course Study II “Life Plan” (1st Year Senior High School, November – January, 8 Class Hours, Period for Integrated Studies)

In partnership with the alumni association, business people come to our school to give a lecture, and during summer vacation students interview local people about their careers. Working with the home economics department, students design a life plan considering future dreams, goals, and methods to achieve them. They also make brochures in class, distribute them to parents, give a presentation to their classmates, and learn together.

④ Course Study III “Research Issues” (2nd Year Senior High School, November – 3rd year, September, 40 Class Hours, Period for Integrated Studies)

In accordance with his/her career path, students determine issues in the field, conduct research on matters of interest, problems in modern society, or specific academic fields. Based on their “mini-issue” research in the second year of high school, students in their third year will conduct further research and summarize what they have learned in reports and presentations.

■ Type of materials to be used (使用する教材)

Listed below are the tools and materials needed for each project.

① Teaching tools and materials

- Computers, tablets, carrier notes, poster paper, PowerPoint

② Books

- “I Love It! Fukuyama Hometown Learning (Top to Bottom)” Fukuyama Board of Education, Not for sale, 2015
- “Creating ESD Classes That Open the Future” Hiroki Fujii, Supervised by Kawada Takeshi, Minerva Shobo, 2012
- “Making the Future of Education, ESD Recommendations” Takashi Tada and others, Japan Standard, 2008
- “Expansion of Integrated Learning to Raise the Skills in Demand Now” Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT), 2017

③Websites

- UNESCO School Official Website : <http://www.unesco-school.mext.go.jp/>
- SYD Official Website : <http://www.syd.or.jp/>
- Now Log (Let's Keep Records of Learning & Challenges) : <https://shikoku.applyjapan.com/>

Is there any type of evaluation to examine the effects of the project on students' comprehension and attitudes? (プロジェクトに対する生徒の理解と姿勢の評価方法)

(1) Evaluation Materials

- Survey reports, review sheets, presentation content, performances, and portfolios
- Efforts and attitudes toward each activity, cooperative attitudes

(2) Evaluation Method

- Create an evaluation rubric in accordance with the viewpoint of "Qualities and Abilities" described in the "Project Objectives" (p.2) and use it for student self-evaluation and external evaluation including teachers.
- For workplace experience learning, conduct an activity evaluation with the workplace, and share the results and comments with the students.
- For extracurricular challenge activities, sister school exchanges, and overseas volunteer activities, students will be given descriptive evaluations based on their reports.
- Other than the above, the faculty observes, evaluates, and notifies the students on their scores for the content of the survey report, presentation content and performance, consultation, attitude toward participating, and cooperation.

(3) Evaluation Time

Each activity will be evaluated in sync with the finish of the semester/school year.

(4) Evaluation Perspective

- ①Did students gain the ability to analyze, organize and utilize the data and information diversely and comprehensively? (Corresponds to Project Objectives ①②)
- ②Did students actively communicate with local and international people, and were positive attitudes towards creative and collaborative resolutions of the discovered issues being cultivated? (Corresponds to Project Objectives ①②③④)
- ③Do students value their personal and social responsibilities, and have they developed values that try to respect not only themselves but also others and nature? (Corresponds to Project Objective ⑤)
- ④Did students approach new and difficult things with a spirit of challenge? (Corresponds to Project Objective ⑥)

On behalf of my institution, I apply for participation in the UNESCO Associated Schools Project and give the assurance that this institution will make an active contribution to the Project, as outlined above, for a minimum period of two years. At the end of every year, I shall submit a report of the Project to the ASP National Co-ordinator of my country.

(本学校を代表して、ユネスコASPの参加申請をし、少なくとも2年間は上記概要にそってASPに貢献する活動を行うことを確約します。また、毎年ASPコーディネーター(※日本の場合は日本ユネスコ国内委員会)に活動のレポートを提出します。)

Date (日付)

Principal's name (校長名 (※直筆))
Position, (役職)
Institution's name (学校名)